

イヤ書 53 章の説教

SERMONS ON ISAIAH 53

(Japanese)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

Web サイト :

www.sermonsfortheworld.com

E メール :

rlhymersjr@sbcglobal.net

「イザヤ書 53 章に関するハイマーズ博士の説教は、私がこれまで読んだり、説教を聞いたりした中で最も優れたものの一つです。この背教の時代において、彼らはキリストと福音をしっかりと中心に据えています。これらの説教は、クリスチャンであろうとなかろうと、読む人にとって大きな祝福となるでしょう。それらは読まれ、説教され、世界中に発信されるべきです。そのために神が助けてくださいますように。」

- クリストファー・L・ケイガン博士

これらの説教原稿には著作権はありません。ハイマーズ博士の許可なしに、このファイルを印刷したり、説教したり、他の人に電子メールで送信したりすることができます。ぜひ実行してみてください。

これらの説教があなたにとって祝福となったのならば、ハイマーズ博士に電子メールを送り、あなたの感謝を伝えてくださると感謝です。ただし、どこの国から書いているのかも必ず明記してください。ハイマーズ博士の電子メールは、rlhymersjr@sbcglobal.net。ハイマーズ博士への手紙はどの言語でも構いませんが、できれば英語で書いてくださると幸いです。ハイマーズ博士に郵便で手紙を書きたい場合は、彼の住所は次のとおりです。

P.O. Box 15308, Los Angeles, CA 90015, United States.

ハイマーズ博士の説教はすべてインターネットで読むことができます。で www.sermonsfortheworld.com。「日本語での説教」をクリックしてください。

目次

説教

ページ

“神の僕の苦悩と勝利”，イザヤ書第 52 章 13-15 節	1
“拒絶された預言・ことば，” イザヤ書第 53 章 1 節	10
“群集に拒絶された—キリスト，” イザヤ書第 53 章 1-2 節	17
“全ての人に尊ばれていない、キリスト，” イザヤ書第 53 章 3 節	25
“真実そして誤り—キリストの苦悩，” イザヤ書第 53 章 4 節	33
“刺し通され、砕かれ、打たれたイエス，” イザヤ書 53：5、新改訳	39
“全ての人に共通する罪、特定の罪、そして罪の癒し，” イザヤ書 53：6、新改訳	46
“小羊の沈黙，” イザヤ書 53 章 7 節、新改訳	53
“キリストの贖罪の描写，” イザヤ書 53：8、新改訳	61
“キリストの埋葬のパラドックス，” イザヤ書 53：9、新改訳	69
“なだめの供え物！”，イザヤ書 53：10、新改訳	76
“救い主の大勝利！，” イザヤ書 53：10、新改訳	85
“キリストによって得られる 贖罪と義認，”イザヤ書 53：11、新改訳	93
“キリストの栄光の源，” イザヤ書 53：12、新改訳	101
“イエスへの素朴な信仰，” イザヤ書第 53 章 3 節、新改訳	108

神の僕の苦悩と勝利

(イザヤ書第 53 章からの説教、その 1)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

ロスアンゼルスのパプテストタバナクル教会にて
2013 年 2 月 24 日、主の日の朝の説教

THE SUFFERING AND TRIUMPH OF GOD'S SERVANT! (SERMON NUMBER 1 ON ISAIAH 53)

by Dr. R. L. Hymers, Jr.

A sermon preached at the Baptist Tabernacle of Los Angeles
Lord's Day Morning, February 24, 2013

“見よ、わがしもべは栄える。彼は高められ、あげられ、ひじょうに高くなる。多くの人々が彼に驚いたように——彼の顔だちは、そこなわれて人と異なり、その姿は人の子と異なっていたからである——彼は多くの国民を驚かす。王たちは彼のゆえに口をつぐむ。それは彼らがまだ伝えられなかったことを見、まだ聞かなかったことを悟るからだ”。

(イザヤ書第 52 章 13-15 節、口語訳)

これらの聖句を開いておいてください。 ジョン・ギル博士 (Dr. John Gill)、そして“大多数の”近代の注解者によると、これらの聖句は 52 章ではなく、53 章に含められるべきです (Frank E. Gaebel, D.D., *The Expositor's Bible Commentary*, Regency Reference Library, 1986, volume 6, p. 300)。

13 節から 53 章の 12 節に至るまでの節は、神の“苦しんでいる僕”について言及しています。 マチュュー・ヘンリー (Matthew Henry) は次のように述べています、

ここから始まり次の章の最後まで続いているこの預言は、イエス・キリストについて可能な限り明白に指適している；近代のユダヤ人達は、それを曲解しようと大いに努めているけれども、古代のユダヤ人達は、それが救世主の事であると理解していた・・・宦官に [この節から] キリストについて説いたピリポは、彼について、“ここで預言者が語っている彼”とはキリストのことで、他の何人でもないことを教え諭した。使徒行伝第 8 章 34, 35 節 (*Matthew Henry's Commentary on the Whole Bible*, Hendrickson Publishers, 1996 reprint, volume 4, p. 235)。

古代のユダヤ・タルグム (Targum : 旧約聖書のアラム語訳) は、古代の宗教指導者達、アベン・エズラ (Aben Ezra) とアルシェク (Alshech) が言ったように、それは救い主について言及している、と語っています (John Gill, D. D., *An*

Exposition of the Old Testament, The Baptist Standard Bearer, 1989 reprint, volume I, p. 309)。

歴史を隔て、クリスチャンの注解者達は、この節を主であるイエス・キリストについての預言と理解しています。 スポルジョン (Spurgeon) は次のように言いました、

それ以外にどのように理解できるであろうか？その預言者は他の誰を指す事が出来たか？もし、ナザレのその方、神の御子が、これらの三つの節の中で明らかでなければ、それは真夜中の暗闇それ自体と同じように、暗闇そのものである。我々はそれらの言葉を主イエス・キリストと結びつける事を一瞬たりとも躊躇はしない (C. H. Spurgeon, “The Sure Triumph of the Crucified One,” *The Metropolitan Tabernacle Pulpit*, Pilgrim Publications, 1971 reprint, volume XXI, p. 241)。

すでにマチュー・ヘンリーが解説しているように、伝道者ピリポは、この聖書の節はキリストの苦しみを預言していると言いました。

“宦官はピリポにむかって言った、「お尋ねしますが、ここで預言者はだれのことを言っているのですか。自分のことですか、それとも、だれかほかの人のことですか」。そこでピリポは口を開き、この聖句から説き起こして、イエスのことを宣べ伝えた”
(使徒行伝第 8 章 34-35 節)。

古代のタルグム、古代の宗教指導者達、伝道者ピリポ、そしてその時代時代の注解者達以上に、私達は更に詳しく言及することはできません。今日のテキストの一語一語が、メシヤ、救い主である主イエス・キリストについての予言なのです。

I. 最初に、キリストの神への奉仕を理解する。

13 節は父なる神の御言葉です。

“見よ、わがしもべは栄える。彼は高められ、あげられ、ひじょうに高くなる” (イザヤ書第 52 章 13 節)。

神は私達に、彼の“僕”に目を向けるよう言われました。イエスがこの地上に降りて来られた時、彼は、

“おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿にされた” (ピリピ人への手紙第 2 章 7 節)。

地上での神の僕として、キリストは慎重にことに対応され、賢明に行動されました。この地上における奉仕の期間、イエスが語られ、そして行われた事は、大いなる知恵で成されました。少年の時に、神の宮の中で宗教指導者達は彼の知恵に驚かされました。パリサイ人やサドカイ人達は、彼に答える事が出来ませんでした。そして、イエスが話された時、ローマ総督のピラトの口は閉ざされました。

そして、私達のテキストは神の僕についてこのように述べています、

“わがしもべは栄える。彼は高められ、あげられ、ひじょうに高くなる”（イザヤ書第 52 章 13 節）。

現代英語の言葉では、“上げられる”、“高く上げられる”、そして“非常に高く引き上げられる”、と言い表すことができます。ヤング博士 (Dr. Young) は、“ピリピ人への手紙第 2 章 9-11 節、そして使徒行伝第 2 章 33 節で描写されている、キリストの高く上げられることを思わされずには、これらの言葉を読む事は不可能である”と言っています (Edward J. Young, Ph.D., *The Book of Isaiah*, Eerdmans, 1972, volume 3, p.336)。

“それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜った”
(ピリピ人への手紙第 2 章 9-11 節)。

“このイエスを、神はよみがえらせた。そして、わたしたちは皆その証人なのである。それで、イエスは神の右に上げられ、・・・それをわたしたちに注がれたのである” (使徒行伝第 2 章 32-33 節)。

“見よ、わがしもべは栄える。彼は高められ、あげられ、ひじょうに高くなる” (イザヤ書第 52 章 13 節)。

高められ—“あげられ”。あげられ—“引き上げられ”。ひじょうに高く—“高く上げられる”。ここには、キリストの高く上げられる段階が表されています。彼は死からよみがえられました！彼は、昇天時に天まで引き上げられました。彼は今、神の右座におられ、あなた方の為に祈っておられるのです！高められ—“あげられ”！あげられ—“引き上げられ”。ひじょうに高く—天の神の右座へと！アァメン！

彼は死なれ、引き上げられ
“すべては終わった”と叫ばれた
今では天へと高く上げられた
ハレルヤ！何という救い主よ！
(“Hallelujah, What a Saviour!” by Philip P. Bliss, 1838-1876).

“わがしもべは栄える。彼は高められ、あげられ、ひじょうに高くなる” (イザヤ書第 52 章 13 節)。

イエスは今、そして永遠に、父なる神の僕—神の御子—死からよみがえられ、天に上がられ、御父の右座におられる方なのです！ハレルヤ！何とすばらしい救い主であられるか！

II. 次に、罪の為のキリストの犠牲を理解する。

14 節を声を上げて読んでください。

“多くの人が彼に驚いたように——彼の顔だちは、そこなわれて人と異なり、その姿は人の子と異なっていたからである” (イザヤ書第 52 章 14 節)。

ヤング博士は、“その僕のひどく外観を損なった姿は、畏れによりぞつとさせ、衝撃を与える [であろう] ……彼の外観の損ないはあまりにもひどく、人としての姿を彼には見ない [であろう] ……彼の外観はあまりにも損われており、彼はもはや人のようには見えなくなった。これは、イエスの苦しみがどんなにひどいものであったかの非常に鋭い表現である” (同著、pp.337-338)。

苦痛を受けられた間、イエスの顔だちは無慈悲にも損なわれました。彼が十字架につけられる前の晩に、彼は“苦しめられた”。

“そして、その汗が血のしたたりのように落ちた”
(ルカによる福音書第 22 章 44 節)。

これは彼が捕らえられる以前の事でした。ゲッセマネ園の暗闇の中で、あなた方の罪に対する裁きがキリストに置かれ始めました。兵卒達が彼を捕らえに来た時、彼の体はすでに血に染まっていた。

そこで彼らはイエスを捕らえ、彼の顔を殴りました。他の節でイザヤは、苦しめられている僕が言われた事をこう述べています、

“わたしを打つ者に、わたしの背をまかせ、わたしのひげを抜く者に、わたしのほおをまかせ、恥とつばきとを避けるために、顔をかくさなかった”
(イザヤ書第 50 章 6 節)。

ルカは、“かれらはイエスを打ちたたき” (ルカによる福音書第 22 章 64 節) と言っています。ピラトは、“イエスをむち打った” (マルコによる福音書第 15 章 15 節)、とマルコは語っています。ヨハネはこのように告げています、

“そこでピラトは、イエスを捕え、むちで打たせた。兵卒たちは、いばらで冠をあんで、イエスの頭にかぶらせ、紫の上着を着せ、それから、その前に進み出て、「ユダヤ人の王、ばんざい」と言った。そして平手でイエスを打ちつづけた” (ヨハネによる福音書第 19 章 1-3 節)。

そうして、彼らはイエスの手と足を十字架に釘づけにしました。ヤング博士は、“あまりにもひどいため、彼はもはやひとの姿を成していなかった” (同著、p. 338) と語りました。

“多くの人が彼に驚いたように——彼の顔だちは、そこなわれて人と異なり、その姿は人の子と異なっていたからである” (イザヤ書第 52 章 14 節)。

ほとんどの現代の絵画は、兵卒達がキリストを鞭打ち、殴り、そして十字架につけた後のキリストの様子を描写した、メル・ギブソンによる“キリストの受難”ほどの確ではありません。

スコフィールド・スタディー・バイブル (The Scofield Study Bible) はこの節について、“その文字どおりの解釈は恐ろしげである。‘彼の顔立ちは、損なわれて人と異なり、その姿は人の子と異なっていたからである’。言い換

えれば、人のようではない—残虐行為の結果はマタイによる福音書第 26 章に描写されている・・・” ジョセフ・ハートの賛美歌を聞いてください。

とげで彼のこめかみは突き刺され、深く傷つけられ
すべての傷から血の流れがほとぼしり、
彼の背はからまるむちで激しく打たれ、
そして、さらに鋭いむちは彼の心を引き裂く

むき出しにされた身体を のろわれた木につけられ、
地と天にさらけ出され、
血と傷による哀れな光景よ
何たる傷つかれた愛よ！

(“His Passion” by Joseph Hart, 1712-1768;
to the tune of “‘Tis Midnight, and on Olive’s Brow”).

何ゆえ、愛する救い主よ、教えたまえ
何ゆえ、そなたは血まみれの苦しまれる方となられたか？
何なる力強き動機がそなたを動揺させたか！
その動機は明白なり—それはすべて愛の故！

(“Gethsemane, the Olive-Press!” by Joseph Hart, 1712-1768;
to the tune of “‘Tis Midnight, and on Olive’s Brow”).

何ゆえ、愛する救い主よ、教えたまえ、なぜそなたの顔立ちは、“そこなわれて人と異なり、[そなたの] 姿は人の子と異なっていた”のかを？ その答えは、53 章の 12 節の終わりに、“彼は多くの人の罪を負い”と書かれています。これはあなた方の罪のための、彼の犠牲、身代わりとなる犠牲です—キリストはあなた方の罪のために十字架の上で、あなた方に代わって苦しまれ、そして死なれたのです！ そのように、私達はキリストの神への奉仕を理解します。 そのように、私達はあなた方の罪を償う為のキリストの犠牲を理解します。

III. 最後に、キリストによる救いが応用される事を知る。

起立してイザヤ書第 52 章 15 節を声を上げて読んでください。

“彼は多くの国民を驚かす。王たちは彼のゆえに口をつぐむ。それは彼らがまだ伝えられなかったことを見、まだ聞かなかったことを悟るからだ”
(イザヤ書第 52 章 15 節)。

着席して下さい。 ヤング博士はこの節で、14 節でのキリストによる身代わりの犠牲、そして彼の苦しみが説明され、応用される、と言いました。

その預言者は、なぜ彼 [キリスト] が外観を損なわれたかを説明している。それゆえ・・・この外観の損なわれた状態によって“彼は多くの国民を驚かす”。[その] 外観を損なわれた者、すなわち僕は、罪を清める儀式を行う事によって、他の者達の為によき事を行う。[苦しみの中で] 彼の外観の損ないは・・・彼、ご自身が国民の為の清めをもたらそうとされている状態であった。
“彼は驚かす”の動詞は、清めの為の水または血をふり

かけることを物語っている・・・ここで示されているのは、[大祭司としてのキリスト]の奉仕であり、この奉仕の目的は、他の者達に清めと浄罪をもたらす事である・・・大祭司として彼自身が水と血をふりかけ、そのようにして多くの国民を清めるのである。彼は、苦しみを受けられる者として、すなわち清めのための苦しみをもち、これを行う・・・そしてその苦しみは、彼を注視する者達の態度の中に重大な変化をもたらす(同著、pp.338-339)。

この預言の正確な成就で、キリストの福音の説教は、ユダヤ教の拘束から離脱し、普遍の宗教となりました。最初の一世紀の初めから“多くの国民”は伝道されました。そして、全世界における人々はイエスの血によって清められ、キリストによる救いへと彼らを導き、ヤング博士が言ったように、“彼に注視する者達の態度の中に重大な変化をもたらした”のです。この世の全ての国家の王達が救われた者達ではないにしても、初期の歴史におけるキリスト教の普及を通して、彼らは少なからず、“口をつぐんだ”、そして、彼に反する事もなく、外見上のクリスチャンとなりました。今日の時代、エリザベス女王二世(Queen Elizabeth II)でさえも、ウエスト・ミンスター寺院(Westminster Abbey)でのクリスマスのようなクリスチャンの行事の時に、“彼のゆえに”口をつぐみ、キリストの前に沈黙の敬意で頭をさげました。多くの他の西洋や東洋の君主主義の国々でも、少なからず、キリストに対して外見的な敬意を表し、そしてビクトリア女王(Queen Victoria)のように、彼らの多くは外見的な敬意を表す以上の事をし、事実、キリスト教初期の時代においては、コンスタンチン皇帝(Emperor Constantine)はそうしました。また他の多くもそうしたのです。

“それは彼らがまだ伝えられなかったことを見、まだ聞か
なかつたことを悟るからだ”
(イザヤ書第 52 章 15 節)。

ここで預言者によって預言されたように、キリストの福音は世界の国々へと普及していきました。

“彼は多くの国民を驚かす”
(イザヤ書第 52 章 15 節)。

外見上のクリスチャンであるアメリカ合衆国の大統領でさえ、毎週日曜日に教会で頭を垂れ、“彼のゆえに[自分の]口をつぐむ”のです。

しかし、ここで語らなければならない事は、このすばらしい預言は、ヨーロッパや、英国、そしてアメリカでは、かつてのようには述べられていません。西洋諸国の教会は、“自由主義派”からの聖書に対する攻撃のゆえに混乱が起こっており、フィニー(Finney)による福音の曲解を通して西洋の教会は弱められ、近代いろいろな形で、彼の悪魔のような“決断主義”の方法を信奉する者達のゆえに、動揺が起こっているのです。であるにしても、第三世界の多くの国々では、かつて弱められた西洋の教会で見られたような、力強い覚醒とリバイバルが未だに大いに起こっています。喜ばしいことに、中国、東南アジア、アフリカ、インド、中南米、そしてメキシコの国々では、福音を語る教会に人々は洪水のように、今この時、押し寄せています！もちろん、彼らはしばしば迫害を受けませんが、二世紀にテルトゥリアヌス(Tertullian)が言ったように、“殉教者の血は、

教会の種である”のです。これは今日、しばしば“第三世界”と呼ばれる国々を通して、真実なことなのです。一方、アメリカや一般的な西洋諸国は、キリスト教の伝統的な背景から離れ落ち、ヒューマニスティックな、懐疑的な、霊的混乱に陥っているのです。偉大なスポルジョンは次のような予言しました、

イエスは、ユダヤ人だけでなく、他のすべての異邦人に対して語りかけるであろう・・・すべての土地は、汝の語るのを聞き、にわか雨が芝に降り注ぐように、汝がやって来られるのを感じる。はるかかなたの浅黒い部族、そして陽の没する土地の住人は、汝の教えを聞き、それを飲み干すであろう・・・汝は、汝の恵みあふれる御言葉でもって、多くの国民に語りかけるであろう（同著、p. 248）。

スポルジョンの“預言的”メッセージは、彼がそれらの言葉を宣べた 100 年前以上に、今日ではより真実味をおびています。私達はそうであることに喜びを禁じえません！アァーメン！

この約束は完全には成就されていません。しかし、そうなるでしょう—主がそのように言われたのですから—預言者イザヤによって。彼はこのように言いました、

“もろもろの国は、あなたの光に来”
（イザヤ書第 60 章 3 節）。

“もろもろの国の宝が、あなたに来るからである”
（イザヤ書第 60 章 5 節）。

“見よ、人々は遠くから来る。見よ、人々は北から西から、
またスエネの地から来る”
（イザヤ書第 49 章 12 節）。

中国の初期の宣教師であったジェームズ・ハドソン・テイラー（James Hudson Taylor）はしばしば、“スエネ”は中国の地であったと言いました。そのように、スコーフールド・スタディー・バイブルのイザヤ書第 49 章 12 節の注意書きにも書かれています。今日私達の目前で起こっている中国の出来事を見ると、誰がテイラー、そしてスコーフールドに反対すでしょうか？確かに、それは少なくとも応用として、真実なのです！中華人民共和国では、毎時間数千人の人達がキリストに回心しています。そして、はるかかなたの多くの土地でも起こっているのです。そのことに喜びを禁じえません！

新生児の中絶により毎日三千人もの無力な子供達を殺害し、数千もの教会を閉ざす、ここアメリカとは異なり、はるかかなたの地で、神の働きが育ち、普及するでしょう！神は、彼らにより多くの回心者を加えてくださるでしょう！神は、キリストを知る者達、そして彼の名のために喜んで苦しむ人達に、多くの国民の間で、彼らに栄冠を与えてくださるでしょう！

しかし、私は今朝あなたにお尋ねします、“あなたはキリストを知っていますか？あなたは、あなたの罪（そうです、あなたのです！）の罰のために‘彼の顔だちは、そこなわれて人と異な’ったイエスを、信仰をとおして目を向けた事がありますか？イエスは、彼の御血を、天の神の書物に記録されているあなたの罪にふりかけましたか？この世の罪を取り除く神の小羊の血により、

あなたは洗い清められましたか？ そして、もしそうでなかったならば、イエスの御前で、‘口をつぐみ’ませんか？ そして、イエスにひざまずき、彼をあなた自身の主・救い主として受け入れませんか？ 今、そのようにされませんか？”

起立してソングシートの賛美歌7番を歌って下さい。

計り知れぬ人類の罰は、救い主の身に置かれ、
苦悩を身にまとい、罪人のために彼は召され
罪人のために彼は召され

死への激痛の中、彼は我が為に祈られ、
十字架に釘づけにされたとき 我が身の罰はゆるされた
十字架に釘づけにされたとき

ああ、驚くべき愛！ 言葉で言い尽くせない愛
永遠に歌われる主題の愛
永遠に歌われる歌

(“Love in Agony” by William Williams, 1759;
To the tune of “Majestic Sweetness Sits Enthroned”).

もしイエスを信頼しクリスチャンになることについて私達と話がしたいのであれば、今会堂の後ろに移ってください。 ケイガン先生が、話出来る静かな部屋へ案内します。 今行ってください。 チャン先生、彼らのために祈りを捧げてください。 アアメン。

要 綱

神の僕の苦悩と勝利

(イザヤ書第 53 章からの説教、その 1)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

“見よ、わがしもべは栄える。彼は高められ、あげられ、ひじょうに高くなる。多くの人々が彼に驚いたように——彼の顔だちは、そこなわれて人と異なり、その姿は人の子と異なっていたからである——彼は多くの国民を驚かす。王たちは彼のゆえに口をつぐむ。それは彼らがまだ伝えられなかったことを見、まだ聞かなかったことを悟るからだ”。 (イザヤ書第 52 章 13-15 節、口語訳)

(使徒行伝第 8 章 34-35 節)

- I. 最初に、キリストの神への奉仕を理解する。
イザヤ書第 52 章 13 節；ピリピ人への手紙第 2 章 7 節；
ピリピ人への手紙第 2 章 9 節；使徒行伝第 2 章 32-33 節。
- II. 二番目に、罪の為のキリストの犠牲を理解する。
イザヤ書第 52 章 14 節；ルカによる福音書第 22 章 44 節；
イザヤ書第 50 章 6 節；ルカによる福音書第 22 章 64 節；
マルコによる福音書第 15 章 15 節；
ヨハネによる福音書第 9 章 1-3 節；イザヤ書第 53 章 12 節。
- III. 最後に、キリストによる救いが応用される事を知る。
イザヤ書第 52 章 15 節；イザヤ書第 60 章 3, 5 節；
イザヤ書第 49 章 12 節。

絶された預言・ことば
(イザヤ書第 53 章からの説教、その 2)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

ロスアンゼルスのパプテストタバナクル教会にて
2013 年 3 月 3 日、主の日の朝の説教

THE REJECTED REPORT
(SERMON NUMBER 2 ON ISAIAH 53)

by Dr. R. L. Hymers, Jr.

A sermon preached at the Baptist Tabernacle of Los Angeles
Lord's Day Morning, March 3, 2013

“だれがわれわれの聞いたことを信じ得たか。主の腕は、だれにあらわれたか”。(イザヤ書第 53 章 1 節、口語訳)

イザヤはキリストの福音について告げています。“そこなわれて人と異なり、その姿は人の子と異なっていたからである”(イザヤ書第 52 章 14 節)と現れるキリストの苦しみを預言している 52 章の最後の三つの節から私は先週の日曜日に説教しました。これは私達の罪のために殴られ、十字架につけられ、死からよみがえられた、“高められ、あげられ、ひじょうに高くなる・・・”(イザヤ書第 52 章 13 節) イエスの描写です。しかし、ここの私達のテキストの中で、この預言者はわずかな人達がこの福音のメッセージを信じる事を深く嘆き悲しんでいます。

エドワード・ヤング博士 (Dr. Edward J. Young) は旧約聖書の学者であり、私の以前の牧師、ティモシー・リン博士のクラスメイトで友人でもありました。彼は私達のテキストに次のように注解しています、

“だれがわれわれの聞いたことを信じ得たか。主の腕は、だれにあらわれたか”。

ヤング博士は、これは“疑問よりもむしろ感嘆である。それは否定的な答えは要求していない。しかし、単にこの世の、[わずかな] 真の信者達の関心を引く為にもくろまれている・・・その預言者は、ごくわずかな者達が信じる事を告げ、また落胆を表現する彼の民を代表する者である”(Edward J. Young, Ph.D., *The Book of Isaiah*, William B. Eerdmans Publishing Company, 1972, volume 3, p. 240)。

“だれがわれわれの聞いたことを信じ得たか。主の腕は、だれにあらわれたか”。

“聞いたこと”とは、“公に告げられた言葉”という意味です。ルターはそれを“我々の説教”とも訳しています(同著、Young)。“だれがわれわれの説教を信じ得たか?” そのテキストでのこれに対応した表現は、“主の

腕は、だれにあらわれたか”です。“主の腕”とは、主の力を示した表現です。だれがわれわれの説教を信じ得たか？ 主の腕は、だれにあらわれたか？ だれにキリストによる救いの力はあらわれたか？

“だれがわれわれの聞いたことを信じ得たか。主の腕は、だれにあらわれたか”
(イザヤ書第 53 章 1 節)。

この節は、あなたは最初に福音の説教を信じなければならない、そうして、キリストを通して神の力により回心しなければならない事を言っています。且つ、この預言者のその疑問は、数少ない者が信じ回心するという事を示しているのです。

“だれがわれわれの聞いたことを信じ得たか。主の腕は、だれにあらわれたか”
(イザヤ書第 53 章 1 節)。

I. 最初に、キリストのこの世での奉仕の間にわずかな人達が信じ救われた。

イエスはラザロの墓に来られました。その人は死んですでに四日経っていました。イエスは彼らに、“石を取りのけなさい”(ヨハネによる福音書第 11 章 39 節)と言われました。ラザロの姉妹は彼を止めようとして、“主よ、もう臭くなっております。四日もたっていますから”(同著)と言いました。しかし、彼らはイエスに従い、墓の戸口に覆っていた石をとりけました。そして、イエスは“大声で「ラザロよ、出てきなさい」と呼ばわれた。すると、死人は手足を布でまかれ、顔も顔おおいで包まれたまま、出てきた。イエスは人々に言われた、「彼をほどいてやって、帰らせなさい」”(ヨハネによる福音書第 11 章 43-44 節)。

“そこで、祭司長たちとパリサイ人たちとは、議会を招集して言った、「この人が多くのしるしを行っているのに、お互いは何をしているのだ」
(ヨハネによる福音書第 11 章 47 節)。

彼らはイエスのなされた多くの奇跡を見て、みんなが彼らにではなく、イエスに従う事を恐れました。

“彼らはこの日からイエスを殺そうと相談した”
(ヨハネによる福音書第 11 章 53 節)。

その祭司長達とパリサイ人達は共に集まり、イエスを殺す最適な方法、“殺そうと”考え始めました。使徒ヨハネはこのように言いました、

“このように多くのしるしを彼らの前でなしたが、彼らはイエスを信じなかった。それは、預言者イザヤの次の言葉が成就するためである、「主よ、わたしたちの説

くところを、だれが信じたでしょうか。 また、主のみ腕はだれに示されたでしょうか”
(ヨハネによる福音書第 12 章 37-38 節)。

彼らは、イエスが五千人の人々に食べ物を与えられた奇跡を目にしました。 彼らは、イエスがらい病者を癒し、盲目の目を開かれたのを目にしました。 彼らは、イエスが悪霊を追い出すのを見、なえた者を強健にされたのを目にしました。 彼らは、イエスがやもめの息子が死から生かされるのを目にしました。 彼らは、イエスが水をぶどう酒に変えられるのを目にしたたではなく、イエスがこのように語られたのを耳にしました。

“諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病氣、あらゆるわずらいをおいやしになった”
(マタイによる福音書第 9 章 35 節)。

それでもなおかつ、イエスがラザロを死からよみがえらされた時、“彼らはイエスを殺そうと相談した”(ヨハネによる福音書第 11 章 53 節)のです。

“このように多くのしるしを彼らの前でなしたが、彼らはイエスを信じなかった。 それは、預言者イザヤの次の言葉が成就するためである、「主よ、わたしたちの説くところを、だれが信じたでしょうか。 また、主のみ腕はだれに示されたでしょうか”
(ヨハネによる福音書第 12 章 37-38 節)。

そうです、少数の人々のみが、キリストのこの世での奉仕の間、信じ、そして回心しました。

II. 次に、十二使徒の時代には、わずかな人達が信じ回心した。

ローマ人への手紙第 10 章 11-16 節を開いてください。 起立して、そのすばらしい節を読んでください。

“聖書は、「すべて彼を信じる者は、失望に終ることがない」と言っている。 ユダヤ人とギリシャ人との差別はない。 同一の主が万民の主であって、彼を呼び求めるすべての人を豊かに恵んで下さるからである。 なぜなら、「主の御名を呼び求める者は、すべて救われる」とあるからである。 しかし、信じたことのない者を、どうして呼び求めることがあろうか。 聞いたことのない者を、どうして信じることがあろうか。 宣べ伝える者がいなくては、どうして聞くことがあろうか。 つかわされなくては、どうして宣べ伝えることがあろうか。「ああ、美しいかな、良きおとずれを告げる者の足は」と書いて ありでありである。 しかし、すべての人が福音に聞き従ったのではない。 イザヤは、「主よ、だれがわたしたちから聞いたことを信じましたか」と言っている”(ローマ人への手紙第 10 章 11-16 節)。

着席してください。

12 節で、聖書のこの引用された文面は、次のように言っていることに注目してください。

“ユダヤ人とギリシヤ人との差別はない。同一の主が万民の主であって、彼を呼び求めるすべての人を豊かに恵んで下さるからである”
(ローマ人への手紙第 10 章 12 節)。

これは、イエスが天に上げられ後、30 年より少し前に、使徒パウロによって書かれました。ですから、パウロは使徒行伝の後方で書いています。彼はユダヤ人と異邦人両方に向かって話していますが、イエスは特にユダヤ人にのみに向かって話されました。パウロは、“ユダヤ人とギリシヤ人との差別はない”と言っています。すべての人はキリストが必要だからです!

且つ多くのユダヤ人ではない聴衆に向かって、パウロはイザヤ書の 53 章 1 節から引用し、比較的少数の異邦人のみが信じた事に深く嘆き悲しみ、そして、適用によって、その預言者が、大多数の異邦人は、この福音に対して、ユダヤ人よりもわずかに多く反応するであろう言った事を示す為に、イザヤ書の 53 章 1 節を引用して、イエスが語られた同じ言葉を語りました。パウロは、この事を示すためにイザヤの訴えから引用しています。

“だれがわれわれの聞いたことを信じ得たか。主の腕は、だれにあらわれたか” (イザヤ書第 53 章 1 節)。

異邦人はユダヤ人よりも福音を受け入れやすかったのです。且つ、比較的少数の異邦人のみがパウロや他の使徒達が説教をしていた時に、イエスを信じました。使徒行伝で私達が理解するように、十二使徒の時代には偉大なりバイバルがありました。しかしこれらのすばらしいリバイバルは比較的少数の異邦人のみキリストによる救いにもたらせました。伝道はローマ人の間でさえも容易ではありませんでした!

キリストと十二使徒達は、ほんの少数の回心者のみを目にしました。そして、第一世紀のクリスチャン達は、少数派ででした。そして、彼らは迫害された少数派でした! ですから、キリストとパウロの両者が、福音に対してほとんどの人達が拒絶をするという、すなわち、彼らの説教を聞いたほとんどの人達が回心しないかを説明する為に、私達のテキストを引用しました。

“だれがわれわれの聞いたことを信じ得たか。主の腕は、だれにあらわれたか” (イザヤ書第 53 章 1 節)。

そして、この事はクリスチャンの歴史を通して真実なのです。絶えず、常に、少数の人達だけが福音を信じ回心しました。それは今日でも真実です。何も変わってはいません。それが私達の最後の要点へと導きます。

III. 最後に、今日、わずかな人達は信じ、回心する。

今日、私達はこの哀嘆な疑問なるイザヤの悲しみの現実性にしばしば直面します。

“だれがわれわれの聞いたことを信じ得たか。主の腕は、だれにあらわれたか” (イザヤ書第 53 章 1 節)。

残念な事に、今日わずかな人が私達の説教を信じ、そしてわずかな人がキリストの力によって救われると、私達は告げなければなりません。私達の愛する家族もしばしばキリストの福音を拒否します。そして、あなた方の多くは、説教を聞かせる為に私達が教会に招く人達の内の、わずかな人達のみが回心する事を知っているでしょう。その事についてここで三つのコメントを上げます。

- (1) 最初に、どの聖句が、ほとんどの人達が救われると告げていますか？ 告げていません。事実、イエスはその逆を語っています。イエスはこのように言われました、

“狭い門からはいれ。滅びにいたる門は大きく、その道は広い。そして、そこからはって行く者が多い。命にいたる門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない”

(マタイによる福音書第7章13-14節)。

それを見出す者が少ないのです！ 私達の伝道による努力がのぞんでいたよりもわずかな結果をもたらす時、私達は常にそれを心に留めておかなければなりません。

そして、次にこの事に関して私が言いたい事は、

- (2) 次に、私達の伝道の目的は、何人の人が回心したかにあるものではありません。その結果が多かろうが少なかろうが、私達の思いは、決して何人の人が回心したかに向けられてはなりません。私達の目的は、**神に従うという事**にあります。私達が伝道に出ていく際、私達の思いは常に**神**に、そして、**彼への従順**に向けられるべきです。そして、私達が福音を説教する時、私達の思いは常に**神**に、また**彼への従順**に向けられるべきです！ キリストは私達にこのように語られました、

“全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を述べ伝えよ” (マルコによる福音書第16章15節)。

それが、私達に成すようにキリストが告げられた事です。そして、人々が聞こうが聞かまいが、彼らが回心しようがしまいが、私達はそれを成さなければならぬのです。私達は伝道しなければなりません、なぜなら、キリストがそうするように告げられたからです！ 私達が成功したかどうかは、**人の応答によるものではありません！** けっしてそうではあってはなりません！ 私達の成功は、いかにキリストに**従順**であったかにあるのです。ですから、彼らが福音を信じようが信じまいが、私達は伝道を成すべきなのです！

そして、これらの事によって三番目の事が生じます。

- (3) あなたはキリストを信じますか？ あなたはキリストに回心していますか？ あなたは信仰をもってキリストに來ま

すか？ たとえ、あなたの家族や友人の誰一人回心していなくとも、あなたはキリストを追い求めますか？ あなたは彼に來ますか？ キリストがこのように言われたことを思い出してください。

“信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる”
(マルコによる福音書第 16 章 16 節)。

あなたはイエスに來て、回心し、そしてバプテスマを受けますか？ あるいは、あなたは救い主を拒絶した大多数の一人になり、炎火の黄泉の中で永遠に滅びますか？

“信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる”
(マルコによる福音書第 16 章 16 節)。

私達の祈りは、あなたが炎火の黄泉で永遠に滅びる大多数の一人になるのではなく、このローカルの教会で、私達に加わる事です！ 俗世間から抜け出しなさい！ 信仰を通してキリストに來なさい！ このローカルの教会に來なさい！ そして、すなわち本当のクリスチャンの小さなグループの仲間になることです。この世界から抜け出しなさい！ 信仰でもってイエスに來なさい！ このローカルの教会へと加わりなさい！ そして、イエスの御血と正義によって、常に、そして永遠に救われなさい。

“だれがわれわれの聞いたことを信じ得たか。主の腕は、だれにあらわれたか” (イザヤ書第 53 章 1 節)。

あなたが、信じそして回心する一人となりますように！ あなたが、福音が説かれる時、そのことばを信じる数少ない者の一人となりますように。あなたが、“イエスは私の罪を償う為に死なれました。イエスは死から甦られました。私は信仰でもって彼に來ます” という事が出来ますように。 “世の罪を取り除く神の小羊” (ヨハネによる福音書第 1 章 29 節) である、イエスを信頼することによって生じる救いを経験する時、あなたは主の腕があらわれた数少ない人の一人かもしれません。あなたは、イエスに來て、彼の尊い御血でもって自分の罪から洗い清められ、彼の神聖な義を身につける、一人かもしれません。あなたが私達の聞いたことを信じ、主イエス・キリストの救いの恵みを経験されますように！ アーメン！

起立して、ソングシートの 7 番『きたれ、なれを清むれば』を歌って下さい。

きたれなれを きよむればと
のたもうみこえにききしたがわん
主よわれはいまぞゆく
十字架の血にてきよめたまえ

ゆくわがみの けがれとつみ
 すこしものこさずあらいたまえ
 主よわれはいまぞゆく
 十字架の血にてきよめたまえ
 (“I Am Coming, Lord” by Lewis Hartsough, 1828-1919).

もしイエスによって罪から洗い清められることについて私達と話がしたいのであれば、今会堂の後ろに移ってください。 ケイガン先生が、話が出来る静かな部屋へ案内します。 今行ってください。 チャン先生、彼らのために祈りを捧げてください。

要 綱

絶された預言・ことば

(イザヤ書第 53 章からの説教、その 2)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

“だれがわれわれの聞いたことを信じ得たか。 主の腕は、だれにあらわれたか”。 (イザヤ書第 53 章 1 節、口語訳)

(イザヤ書第 52 章 14, 13 節)

- I. 最初に、キリストのこの世での奉仕の間にわずかな人達が信じ救われた。 ヨハネによる福音書第 11 章 39, 43-44, 47, 53 節；
 ヨハネによる福音書第 12 章 37-38 節；
 マタイによる福音書第 9 章 35 節。
- II. 二番目に、十二使徒の時代には、わずかな人達が信じ回心した。
 ローマ人への手紙第 10 章 11-16 節。
- III. 最後に、今日、わずかな人達は信じ、回心する。
 マタイによる福音書第 7 章 13,-14 節；
 マルコによる福音書第 16 章 15, 16 節；
 ヨハネによる福音書第 1 章 29 節。

群集に拒絶された—キリスト

(イザヤ書第 53 章からの説教、その 3)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

ロスアンゼルスのパプテストタバナクル教会にて
2013 年 3 月 10 日、主の日の朝の説教

CHRIST – REJECTED BY THE MASSES (SERMON NUMBER 3 ON ISAIAH 53)

by Dr. R. L. Hymers, Jr.

A sermon preached at the Baptist Tabernacle of Los Angeles
Lord's Day Morning, March 10, 2013

“私たちの聞いたことを、だれが信じたか。主の御腕は、だれに現れたのか。彼は主の前に若枝のように芽ばえ、砂漠の地から出る根のように育った。彼には、私たちが見とれるような姿もなく、輝きもなく、私たちが慕うような見ばえもない”。 (イザヤ書第 53 章 1-2 節)

預言者イザヤは、わずかな者達が神の苦しむ僕についてのメッセージを信じるであろう、そして、わずかな者達が彼の救いの恵みを体験するであろう、と告げています。使徒ヨハネは、キリストの時代の大多数のユダヤ人の不信を表す為に、イザヤ書第 53 章 1 節を引用しました。

“イエスが彼らの目の前でこのように多くのしるしを行われたのに、彼らはイエスを信じなかった。それは、「主よ。だれが私たちの知らせを信じましたか。また主の御腕はだれに現されましたか」と言った預言者イザヤのことばが成就するためであった”
(ヨハネの福音書 12 : 37-38)。

また、使徒パウロは、キリストが昇天された三十年後に、大多数の異邦人も、ユダヤ人よりは多少なりとも主イエス・キリストに注意を払うが、彼らの不信を示す為に、この節を引用しています。パウロはこのように告げています、

“ユダヤ人とギリシヤ人との区別はありません。同じ主が、すべての人の主であり、主を呼び求めるすべての人に対して恵み深くあられるからです。・・・しかし、すべての人が福音に従ったものではありません。「主よ。だれが私たちの知らせを信じましたか」とイザヤは言っています” (イザヤ書 10 : 12, 16)。

主イエス・キリスト御自身も同じ事を告げられました。彼は、救われる為に彼を信じる者達の数はわずかであろう、と言われました、

“いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれですいのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです”
(マタイの福音書 7 : 14)。

次のように言われた時、キリストは同じ事を指摘されました、

“努力して狭い門から入りなさい。なぜなら、あなたがたに言いますが、入ろうとしても、入れなくなる人が多いのですから” (ルカの福音書 13 : 24)

この世では、ほとんどの人達が天国への道を見つけると思っています。しかし、イエスは正にその逆の事を告げられたのです。

“・・・それを見いだす者はまれです”
(マタイの福音書 7 : 14)。

“努力して狭い門から入りなさい。なぜなら、あなたがたに言いますが、入ろうとしても、入れなくなる人が多いのですから” (ルカの福音書 13 : 24)

この心を乱すような真実は、イザヤの悲嘆の中で共鳴します。

“私たちの聞いたことを、だれが信じたか。主の御腕は、だれに現れたのか” (イザヤ書 53 : 1)。

私達は、なぜそれが真実であるかと問うかもしれません。ユダヤ人達は、偉大な力強い支配者、壮麗で裕福な王を彼らの救い主として求めました。そして、異邦人は救い主など全く求めませんでした！ ですから、一般の人達は、キリストが御自分の権威を低くされ、苦しむ僕として来られ、彼らの罪の償いの代わりとして十字架につけられ死なれる事を期待しなかった、と理解します。

使徒行伝の第 8 章において、エチオピアの宦官は、ユダヤ教の祭司やパリサイ人達と同様これらの事実について盲目でした。伝道師のピリポがその宦官が乗っている馬車に追いついた時、その宦官はイザヤ書の第 53 章を読んでいました。

“そこでピリポが走って行くと、預言者イザヤの書を読んでいるのが聞こえたので、「あなたは、読んでいることが、わかりますか」と言った。すると、その人は、・・・” (使徒行伝 8 : 30-31)。

このアフリカ人はユダヤ教への改宗者でした。彼は旧約聖書を熟知しているようでした。しかし、この聖句に遭遇した時、まだユダヤ教の祭司のように彼は盲目でした。

“悲しみの人で、病を知っていた”人、そして、“侮られて人に捨てられ”るように来られるというこの聖句から、救い主(メシア)が来る時、壮観に人の栄光に満たされ、裕福で名高い人として来るのではない事を、誰であろうと理解する事が出来たのではないか、と私には思えます。且つ、この真実が聖書に明白に書かれているにもかかわらずです。

“この方はご自分のくんに来られたのに、ご自分の民は受け入れなかった”（ヨハネの福音書 1:11）。

聖書のこの預言で、イエスについて完璧に説明されているにもかかわらず、イスラエルの国全体は、イエスを彼らの救い主として受け入れませんでした。そして、その預言者は第 2 節で、彼らがイエスを受け入れなかった理由をこのように挙げています、

“彼は主の前に若枝のように芽ばえ、砂漠の地から出る根のように育った。彼には、私たちが見とれるような姿もなく [美しさ、**Strong**]、輝きもなく [荘厳さ、**Strong**]、私たちが慕うような見ばえもない”
(イザヤ書 53:2)。

しかし、私達はそのようなイエスを拒んだユダヤ人達を、同じようにイエスを拒んだ異邦人達以上に厳しく裁いてはなりません。スボルジョンはこのように言いました、

ユダヤ人にとって真実である事は、異邦人にとっても等しく真実であることを心に留めよ。イエス・キリストの福音は、世界中で最も簡単明瞭な事柄であるが、神に [よって] 悟らされない限り、誰もそれを理解する事は出来ない・・・罪は人類に霊的な事柄に関して知的無能をもたらし・・・あなたはどうかであろうか？あなたも同じく盲目であろうか？・・・ああ、もしあなたもそうであるならば、[神が] あなたをキリストへの信仰へと導いてくださるように (C. H. Spurgeon, “A Root out of Dry Ground,” *The Metropolitan Tabernacle Pulpit*, Pilgrim Publications, 1971 reprint, volume XVIII, pages 565-566)。

では、私達のテキストの第 2 節を開いてください。そこにイエスが拒絶される三つの理由を見る事が出来ます。その聖句を朗読してください。

“彼は主の前に若枝のように芽ばえ、砂漠の地から出る根のように育った。彼には、私たちが見とれるような姿もなく、輝きもなく、私たちが慕うような見ばえもない”
(イザヤ書 53:2)。

I. 最初に、キリストは拒絶される、なぜなら、彼は若枝、若木のように人に思われるからである。

次のような理由でわずかな人だけが信じます、

“彼は主の前に若枝のように芽ばえ”
(イザヤ書 53:2)。

もしくは、ギル博士が述べるように、“小さな若枝、その言葉が表しているように・・・関心も注意も払われず、またそこからは何の期待もおこらないような木

の根から育ち；そして、その〔比喩的〕表現は、彼の〔誕生〕にして、身分の〔低い〕キリストには期待されない姿を示している；それが、ユダヤ人一般は彼を信じず、拒否し、そして、さげすんだ理由に挙げられる（John Gill, D.D., *An Exposition of the Old Testament*, The Baptist Standard Bearer, 1989 reprint, volume I, pp. 310-311）。

“彼は主の前に若枝のように芽ばえ”
（イザヤ書 53：2）。

これは、キリストに注意を払われ、彼を力づけられた父なる神の“前に”、キリストは生まれ育ったということを現わしています。さらにヤング博士は、“しかしながら、人々にとって、その僕（イエス）は若枝のように思えた・・・人々は若枝を切る、なぜなら彼らは木からその命をとり、人から見れば、若枝は切られるべきものである”（Edward J. Young, Ph. D., *The Book of Isaiah*, William B. Eerdmans Publishing Company, 1972, volume 3, pp. 341-342）。

それが大祭司達やパリサイ人達がイエスを殺そうと企んだ本当の理由ではありませんか？ 彼らはこう言いました、

“もしあの人をこのまま放っておくなら、すべての人があの人を信じるようになる。そうなると、ローマ人がやって来て、われわれの土地も国民も奪い取ることになる。」”（ヨハネの福音書 11：48）。

“人々は若枝を切る、なぜなら彼らは木からその命をとり、人から見れば、若枝は切られるべきものである”（Young, 同著）。もし彼らがイエスを信じれば、ユダヤの国民としての自分達の独自性を失ってしまう事の恐れを彼らは感じていました。“若枝”、すなわち若木として、彼らはイエスが自分達の国民の“木から命をとる”であろうと恐れていたのです。

そして、その事実が、あなた方がイエスを拒絶している同じ理由ではありませんか？ その事をよく考えて見てください！ もし、あなた方が、イエスに来て彼を信じるならば—あなた方にとって非常に重要と思われる物事を失う事を恐れているというのが、あなた方にも同様な現実ではありませんか？ キリストは“木から命をとる”、すなわち、彼はあなた方にとって大変重要な何かを奪ってしまうことには恐れているのではないですか？

私はケイガン先生に、1929年の雑誌『サタデー・イブニング・ポスト（*The Saturday Evening Post*）』に載った記事をコピーするようお願いしました。それは偉大な物理学者アルバート・アインシュタインのインタビューの記事でした。記者は彼に、“イエスの歴史的な存在を受け入れますか？”と尋ねました。アインシュタインは、“疑いない。誰もイエスの存在を感じさせられずに福音を読む事は出来ない。彼の個性は全ての言葉で・・・”（*The Saturday Evening Post*, October 26, 1929, p. 117）と答えました。アインシュタインはキリストに対して非常に好奇心を注がれていましたが、悲しいかな彼は回心しませんでした。彼をそうさせたのは何だったのでしょうか？ それは決して知的な問題ではありませんでした。彼は姦通者だったのです。彼はそれを諦められませんでした。真のクリスチャンになるためには、ある事柄を諦めなければならないのです。単純明快です。

では、もし私があなた方にそれが真実でないと言うならば、私は偽教師となるでしょう。もし私が、何も失う事無くキリストに来る事が出来ると教え

るならば、私は誤まった教えを説教している事になるでしょう。当然キリストに来るには何か犠牲となります！ あなた方自身の人生が犠牲となります！どのようにキリストはそれを明白にされたのでしょうか？ イエスはこのように言われました、

“それから、イエスは群衆を弟子たちといっしょに呼び寄せて、彼らに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしと福音とのためにいのちを失う者はそれを救うのです。人は、たとえ全世界を得ても、いのちを損じたら、何の得がありません。自分のいのちを買い戻すために、人はいったい何を差し出すことができるでしょう”（マルコの福音書 8：34-37）。

それは十分に明白なことではありませんか？ キリストに来る為には、あなた方自身を否定し、あなた方自身の意見、あなた方自身の計画、あなた方自身の大志を諦めなければなりません。あなた方自身をキリストにゆだねなければなりません。それがキリストを信頼するという事です。あなた方自身ではなく、キリストを信頼する事です。あなた方自身を—自分自身の考えや目標にではなく—キリストにゆだねるのです。あなた方は彼にゆだねる事によって、あなた方の生き方を“失う”のです。キリストへ自分を引き渡す事により、あなた方が自分の生き方を無くす時のみに、あなた方の命は永遠に救われるのです。

ですから、“若木”と表されたその言葉は、神の御前に、キリストは命を与えることを意味しているのです。しかし、人の目には、キリストは命を奪う者なのです。それゆえにほとんどの人達は彼を拒絶するのです。彼らは、キリストが彼らの生き方を“奪う”事を望まないのです。彼らは自分達の生き方を手放す事を、そして彼に導かれる事を恐れているのです。

II. 次に、キリストは拒絶される、なぜならキリストはかわいた土から出る根のように、人には思われるからである。

“彼は主の前に若枝のように芽ばえ、砂漠の地から出る根のように育った・・・”（イザヤ書 53：2）。

最初の要点に時間を取り過ぎて残りの時間がなくなりましたが、私達はどのようにキリストが“かわいた土から出る根”のように現れたかを容易に理解できます。ヤング博士はこのように述べています、

かわいた土とは、僕 [キリスト] が現れてきた身分の低い状態、そして、その背景を示している。それは僕の送った生涯の環境の哀れな状況を暗示している・・・渴ききった土にある根は、生命を保持する為に奮闘せねばならない (Young, 同著, p. 342)。

この預言は、キリストが生まれた環境の貧しさを表しています。彼の養父はただの大工にすぎませんでした。彼の母親マリアは貧しい家庭の娘でした。キリストは馬小屋で生まれ、貧しい“かわいた土から出る根”のような環

境で育ちました。彼は、生涯の奉仕を貧しく身分の低い者達の間でなさいました。彼の弟子達もただの漁師でした。彼はヘロデ王、ローマ総督のピラト、そして学識のある律法学者やパリサイ人達によって、“かわいた土から出る根”として拒絶されました。彼は半死になるまでむち打たれ、彼らは彼の手足を十字架に釘付けました。彼らは、彼の砕け死んだ身体を借りた墓に置きました。彼のこの世での生涯、彼の苦しみ、そして彼の死は、“かわいた土から出る根”として送られました。しかし、神に感謝すべきかな、彼は“かわいた土から出る根”として、三日目に死からよみがえられました！ 予期しなかった大雨の後に突如として出てきた若枝のように、キリストは躍り出て、“かわいた土から出る根”のように、死からよみがえりました。ハレルヤ！

それでも、大多数の人達は彼を信じません。彼らはキリストを“おめでたい人”、そして“無価値なユダヤ人”のようにみなしています、

“私たちの聞いたことを、だれが信じたか。主の御腕は、だれに現れたのか。彼は主の前に若枝のように芽ばえ、砂漠の地から出る根のように育った・・・”
(イザヤ書 53 : 1-2)。

III. 最後に、キリストは拒絶される、なぜなら彼には見るべき姿がなく、威厳もなく、私たちが見とれるような姿もなく、輝きもなく、私たちが慕うような見ばえもないからである。

起立をして、第2節を声を上げて読んでください。

“彼は主の前に若枝のように芽ばえ、砂漠の地から出る根のように育った。彼には、私たちが見とれるような姿もなく、輝きもなく、私たちが慕うような見ばえもない”
(イザヤ書 53 : 2)。

着席してください。

イエスには“見とれるような姿もなく”、威厳、そして壮麗な外見の姿はありません。ヤング博士は、このように述べています。“我々がその僕 [キリスト] を見る時、私たちが慕うような見ばえもない。言い方を変えれば、我々の判断は、表面的な姿によってであり、公正で真実ではない。それは哀れな描写である。その僕 [キリスト] は御自分の民の中で住まれ、そして彼の実際の姿の裏には、信仰なる目は真実の栄光を見ることが出来たはずである；しかし、彼の表面的な姿を見て、イスラエルの人々は、彼らの目に喜ばすような美しさを何も探し出さなかった・・・そのような人は、その僕 [キリスト] の姿を誤った眺望により判断し、彼を完全に誤って判断するであろう” (Young、同著)。

外見的には、キリストはこの世の人々を引き寄せるような美しさや威厳はありません。彼は大多数の人達を引き寄せるような物事を提供されません。彼は成功、名声、金銭、またはこの世の快樂などは約束されません。全くその逆です。この教会の執事であるブルードホム氏が、キリストが提供された事を語っている聖書の箇所を読みました。

“それから、イエスは群衆を弟子たちといっしょに呼び寄せて、彼らに言われた。「だれでもわたしについて来た

いと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしと福音とのためにいのちを失う者はそれを救うのです。人は、たとえ全世界を得ても、いのちを損じたら、何の得がありましょう。自分のいのちを買い戻すために、人はいったい何を差し出すことができるでしょう”（マルコの福音書 8：34-37）。

キリストは個人犠牲を申し出ました。キリストは、あなた方自身の人生と宿命の支配を諦めるよう語っています。キリストは魂の救い、罪のゆるし、そして永遠の命を提供しています。これらは、実体の無い事柄であり、人の感覚には触る事も見ることも出来ない事柄で、霊的な事柄なのです。ですからキリストは、神によって心の目が開かれていない人達によって拒絶されるのです。なぜなら、

“生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわきまえるものだからです”
（コリント人への手紙第一 2：14）。

しかし今朝、神があなた方の心に話しかけられていられるのではないのでしょうか。神があなた方に、“彼には、われわれの慕うべき美しさもないけれども、私はあなたをわが子に引きつけている”というように言われていられるのではないのでしょうか。あなた方はそのように感じていませんか？ この世は、瞬く間に消えていく快樂や成功を与えているだけに過ぎないと感じた事がありますか？ あなた方は、自分の魂について考えたことがありますか？ もしイエスがあなた方の罪を、イエスの御血で清めてくださらなければ、自分の魂は永遠にどこをさまようのであろうか、などと考えた事がありますか？ あなた方は、最も重要なこれらの事柄について考えた事がありますか？ もし、そうであるとしたら、純粋な信仰をもって“私たちが見とれるような姿もなく、輝きもなく、私たちが慕うような見みばえもない”（イザヤ書第 53 章 2 節）イエスに来ませんか？ ナザレのイエスの御前にひざまずき、心から彼を信頼しませんか？ 私はあなた方がそうする事を願っています。

起立をしてください。グリフィス氏がこの説教の前に歌った賛美歌シート第二番目を歌います。

この世のすべての欲は要らず、しかしイエスという御名
彼の愛は永久に変わらず

我が頼みはイエスの十字架に
我は、主にお会いし、輝かれる御顔を見る
ああ、深遠なる恵み！ ああ、計り知れない愛！
ああ、完全なる贖い、天なる永久の命！

（“Take the World, But Give Me Jesus” by Fanny J. Crosby, 1820-1915）.

もし神があなた方の心に語りかけ、あなた方がこの過ぎ去る世の栄華と楽しみを離れようとするのであれば、また、もしあなた方が自分自身をイエス・キリストに投げ出し、信仰でもって彼に来、あなた方の罪をイエスの御血でもつ

て洗い清めてもらいたいと思うのであれば、そして、もしあなた方が私か教会の執事の人とカウンセリングを希望するのであれば、今部屋の後ろへ行ってください。 ケイガン先生が、このことについて話ができる静かな場所へ連れて行きます。 あなた方が信仰を通して救い主に来、救われることを私は祈ります。 チャン先生、彼らのために祈ってください。 アーメン。

要 綱

群集に拒絶された—キリスト

(イザヤ書第 53 章からの説教、その 3)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

ロスアンゼルスのパプテストタバナクル教会にて

2013 年 3 月 10 日、主の日の朝の説教

“私たちの聞いたことを、だれが信じたか。主の御腕は、だれに現れたのか。彼は主の前に若枝のように芽ばえ、砂漠の地から出る根のように育った。彼には、私たちが見とれるような姿もなく、輝きもなく、私たちが慕うような見ばえもない”。 (イザヤ書第 53 章 1-2 節)

(ヨハネの福音書 12 : 37-38 ;
ローマ人への手紙 10 : 12 ; マタイの福音書 7 : 14 ;
ルカの福音書 13 : 24 ; 使徒行伝第 8 章 30-31 節 ;
ヨハネの福音書 1 : 11)

- I. 最初に、キリストは拒絶される、なぜなら、彼は若枝、若木のよう
に人に思われるからである。
イザヤ書 53 : 2 甲 ; ヨハネの福音書 11 : 48 ;
マルコの福音書 8 : 34-37。
- II. 次に、キリストは拒絶される、なぜならキリストはかわいた土から
出る根のように、人には思われるからである。
イザヤ書 53 : 2 乙。
- III. 最後に、キリストは拒絶される、なぜなら彼には見るべき姿がなく、
威厳もなく、私たちが見とれるような姿もなく、輝きもなく、
私たちが慕うような見ばえもないからである。
イザヤ書 53 : 2 丙 ; マルコの福音書 8 : 34-37 ;
コリント人への手紙第一 2 : 14。

全ての人に尊ばれていない、キリスト

(イザヤ書第 53 章からの説教、その 4)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

CHRIST – UNIVERSALLY DEVALUED

(SERMON NUMBER 4 ON ISAIAH 53)

ロスアンゼルスのパプテストタバナクル教会にて

2013 年 3 月 16 日、土曜日の晩の説教

“彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった”。(イザヤ書第 53 章 3 節、新改訳)

エドワード・ヤング博士 (Dr. Edward J. Young) はこのように書いています、

イザヤがここで叙述している不信とは、今日私達の間でも見られる同じ不信である。人々は [キリスト] について好ましく、敬意を表しているように言う。彼らはキリストによる価値体系、彼の教えを褒め称えている。彼は素晴らしい人であり、偉大な預言者であり、そして今日この世に立ちあがる社会的な問題への解答を持つ唯一の人であるとも表明している。しかしながら、彼らは自分達が罪人であり、永遠の処罰を受けるのに値し、そして、キリストの死が、身代わりの犠牲として神の報いを果たし、憤られた神の罪人への怒りを和解する為に計られたという事などを、認めようとしなない。人々は神の御子について告げられた事を受け入れようとしなない。今日、また、その僕 [キリスト] は侮られて人に捨てられ、そして人々は彼を尊ばない (Edward J. Young, Ph.D., *The Book of Isaiah*, William B. Eerdmans Publishing Company, 1972, volume 3, p. 344)。

ルター (Luther) は、イザヤ書の第 53 章は、聖書のもっとも心髄である事を信じました。私は彼は正しいと思います。もしあなた方がそれを認めるならば、私達のこのテキストは非常に重要なことを書き留めています。私は、この節は聖書で語られている人間の完全なる堕落をもっとも明白にしている言葉の一つであると信じます。“堕落”とは“不正”を意味しており、“完全なる”とは“この上もなく(徹底的に)”を意味しています。人はこの上もなく堕落しています。ハイデルベルグ教義要覧 (The Heidelberg Catechism) が表しているように、人間の本質的な堕落は、“私達の最初の祖先であるアダムとエバによる堕落と不従順から来ている。その堕落が我々の本性をさほどにも害し、我々は罪人として生まれ出ているのである—胎児のときから堕落している” (*The Heidelberg Catechism*, Question seven)。人間の堕落は神への敵対心によって表れ出るのである。

“というのは、肉の思いは神に対して反抗するものだからです”（ローマ人への手紙 8 : 7）。

その敵対心は神の御子であるキリストにまで及びます。それはなぜキリストを捕らえたローマの兵卒達が、

“また彼らはイエスにつばきをかけ、葦を取り上げてイエスの頭をたたいた”（マタイの福音書 27 : 30）。

のかを説明しています。

それはローマの総督ピラトが、

“イエスをむち打ってから、十字架につけるために引き渡した”（マタイの福音書 27 : 26）。

理由を説明しています。

完全なる墮落は、人々が彼を怒鳴り散らし、十字架にかけ、殺した理由を説明します。

完全なる墮落は、今日においても、

“彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちが彼を尊ばなかった”（イザヤ書 53 : 3）。

理由を説明しています。

I. 最初に、完全なる墮落が、人にキリストをさげすみ、拒否させる。

“彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、・・・”
（イザヤ書 53 : 3）。

これは、今日あらゆる所で見られる一般的なキリストへの拒絶を言い表しています。あなた方もクリスマスや復活祭の頃になると、タイム (*Time*) やニューズウィーク (*Newsweek*) のようなアメリカの週刊誌の表紙にそれを見る事が出来ます。このような報道刊誌は、例外なく決まって毎年 12 月または 4 月の時期に、キリストについての特集記事を載せます。しかし、それらは決してキリストをよく見せる記事ではない事は確実です。彼らは常にキリストが奇妙に描かれた中世期の絵、現代の思考には時代はずれのように見える絵を雑誌の表紙に選んでいます。当然彼らは故意にそうしているのです。彼らは決まって、キリストを神の唯一の御子として人間の救いの唯一の手段である事を拒否する、非常なリベラルの人達によって書かれた記事を載せています。このような記事がイギリスのタブロイド紙、また世界中至る国々での雑誌にも載せられているのは確かです。キリストはしばしば公然とテレビや映画の中などでも非難されています。

あなた方の通う非宗教的な高校や大学で、あなた方の教授がイエスやキリスト教について決して好ましい事を教え無いのは、生徒であるあなた方がよく知っているはずですが。キリストと彼の教えは、それらの教授達により絶えず非難と攻撃の対象とされています。

“彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、・・・”
 (イザヤ書 53 : 3)。

あなた方の学校のクラスメイトや同じ職場の人達も、キリストの名前を不敬な言葉として用い、毎日のようにキリストについて正当ではない事を口にします。

もしあなた方がクリスチャンの家庭で育っていないならば、自分の家庭内においても、あなた方は隠れ場を見出す事は出来ません！ 不信者であるあなた方の両親は、救い主をさげすみ、拒絶している事を、あなた方はよく感じています。キリストに対し、そしてキリストを信じ、バプテストの教会に来ているあなた方に対し、中傷や嘲笑を耐える事が、どんなにか困難であるかをあなた方はよく分っています。

“彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、・・・”
 (イザヤ書 53 : 3)。

II. 次に、完全なる墮落は、キリストに悲しみと病をもたらせた。

“彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。・・・” (イザヤ書 53:3)

何がキリストの悲しみと病をもたらせたのでしょうか？ 彼に対する失われたこの世の敵意と拒絶に他なりません！

キリストがこの世におられた時、学者やパリサイ人、そして大祭司達は、彼に対しひどく敵対し、強く彼を拒絶していたがゆえ、彼は、魂の非常な苦痛の中で、叫ばれました。

“ああ、エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者、わたしは、めんどりがひなを翼の下にかばうように、あなたの子らを幾たび集めようとしたことか。それなのに、あなたがたはそれを好まなかった” (ルカの福音書 13 : 34)。

キリストは、悲しみと病により打ちのめされ、人の罪で打ちひしがれ、十字架につけた前の晩、ゲツセマネの園で、

“イエスは、苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた”
 (ルカの福音書 22 : 24)。

我が神は 我が罪をそこで負われた
 恵みをもって これを信じ
 しかし、彼は苦しみを覚えた
 あまりにも創造を絶す
 汝以外に誰一人なく
 陰鬱な暗きゲツセマネ
 汝以外に誰一人なく
 陰鬱な暗きゲツセマネ

(“Gethsemane” by Joseph Hart, 1712-1768; altered by the Pastor;
 to the tune of “Come, Ye Sinners”).

あなた方の罪のためで無かったなら、何がキリストに彼の体と魂にこの体験を生じさせたのでしょうか？ キリストの上に神の裁きを引起させた、あなた方の罪なる本性による敵対心や悪意でなかったなら、彼に十字架の上であなた方の罪を負う事を必要とさせるような、何が彼の悲しみと病を生じさせたのでしょうか？

悲しみのひと 何と言う呼び名か
この世に来られた 神の御子
墮落した罪人のため
ハレルヤ！ ああ、救い主よ！

恥辱を負い
我が代わりに咎められ
御血でもって 我が罪を封印す
ハレルヤ！ ああ、救い主よ！

(“Hallelujah! What a Saviour!” by Philip P. Bliss, 1838-1876).

今日、天国の神の右座におられるイエスを悲しませ、病にさせるようなあなた方の心中に潜んでいるものは何でしょうか？ あなた方自身が、彼を蔑み拒絶しているその事に対して、彼は悲しみ、そして病まれているのです。 あなた方は愛しているというかもしれません。 しかしあなた方が彼に信頼するのを拒絶する事自体が、あなたが真に彼をさげすみ拒否していることを表しているのです。自分自身に正直でありなさい！ もし、あなた方が彼を蔑み拒絶していないのであれば、他に何の理由があなた方を愛し、あなた方を救う為に御自分の命さえも捨てられたキリストに、あなた方が来る事を遠ざけているのでしょうか？ 信仰によって彼に来ることを拒絶している事が、彼を悲しませ、そして悲嘆させているのです。

“彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。・・・” (イザヤ書 53:3)

III. 三番目に、完全なる墮落が、キリストから顔をおおわせる。

テキストの三節目に注目して下さい。。

“彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私達も彼を尊ばなかった” (イザヤ書 53:3)。

ギル博士 (Dr. Gill) は、“人が顔をそむけるほど；人が忌まわしく憎悪を引き起こすように、彼に対して反感を持つように、そして、何ら注目するに値しない人を見下げるように、彼を蔑視し、嫌悪する”と言いました(John Gill, D.D., *An Exposition of the Old Testament*, The Baptist Standard Bearer, 1989 reprint, volume I, pp. 311-312)。

彼らの生まれつきの墮落した状態によって、人々は真実のキリストから彼らの顔をそむける。彼らは、ヤング博士が述べたように、“彼について好ましく、敬意を表すような事を言う。・・・ [しかし] しかしながら、彼らは自分達が罪人であり、永遠の処罰を受けるのに値し、そして、キリストの死が、身代わりの犠牲として神の報いを果たし、憤られた神の罪人への怒りを和解する為

に計られたという事などを、認めようとしなさい。人々は神の御子について告げられた事を受け入れようとしなさい” (Young、同著)。

クリスチャン以外の宗教は、キリストを完全に拒絶し、もしくは彼を単なる“預言者”または“教師”と格下げします。それゆえ、彼らは聖書が明白に示している真実のキリストを拒絶しているのです。カルトの人達も同じく真実のキリストを拒絶しています。彼らは正統なキリスト教を拒絶し、真実のキリストを、“わたしたちが宣べ伝えもしなかったような異なるイエス”(コリント人への手紙第二 11:4) に取って代えています。イエスは、“にせキリストたちが起こって”(マタイによる福音書 24:24) と言われたように、この預言をされました。唯一の真実なるキリストは、旧約聖書と新約聖書の中で明らかにされている方です。他のすべてのキリストについての発想は、“にせキリスト達”です。もしくは、使徒パウロが言い表したように、“わたしたちが宣べ伝えもしなかったような異なるイエス”なのです。モルモン教徒は偽のキリストを信じています。エホバの証人の信者達は偽のキリストを信じています。今日、多くの福音主義者達は、偽の“霊なるキリスト”、マイケル・ホートン博士が彼の著作、『*Christless Christianity*』(Baker Books, 2008)に書き示しているグノーシス派のキリスト、を信じています。にせキリストを信じる事によって、彼らは聖書で明らかにされている真実のキリストから彼らの顔をおおうのです。

残念ながら、このことは福音伝道主義のクリスチャン達の間でさえもしばしば真実なことなのです。大変高く評価されている福音伝道主義派の著者、トーザー博士(Dr, A. W. Tozer)は、このように述べて、その点を非常に明白にしています、

今の時代には、我々[福音伝道主義者]の間に、非常に多くのにせの[偽りの]キリストがはびこっている。古き時代の清教徒ジョン・オーウェン(John Owen)は、当時の人々にこう警告した。“あなた方は架空のキリストをもち、そして、もし架空のキリストにあなた方が満足しているならば、あなた方は架空の救いで満足しなければならない”・・・しかし、真実のキリストはただ一人であり、神は、彼は神の御子であると言われた。・・・キリストの神性を認める者達の間でも、しばしば、彼の人間性を認めることに欠けている。我々は、彼が地上におられた時、彼は人と共におられた神であった、という事を即座に断言する。しかし、我々は同じように重要な真実を見落としてしまう。現在仲介者として[天国で]権威の御座におられる彼は、神と共におられる人である。新約聖書の教えは、現在正にこの瞬間にも、一人の人が我々の為に天国で神の御前に出廷しているという事である。彼は確かにアダムまたはモーゼ、そしてパウロと同じように人であった。彼は称賛された人であったが、彼の称賛は彼を非人間化しなかった。今日、彼は実際の人である。

救いは“成し遂げられた行いを受け入れる事”、または、“キリストを求めて決心する”事から来るものではない。 [むしろ] それは、主イエス・キリスト、すなわち神ならびに人として、我々の為に闘われ勝利を得られ、我々の [罪] の負債を受け入れ償われ、我々の罪を贖い、それらの為に死なれ、そして我々を自由にする為に再びよみがえられた、主イエス・キリストを信じることによって来る。これが真実のキリストであり、それ以外の何ものでもない (A. W. Tozer, D.D. “Jesus Christ is Lord,” *Gems From Tozer*, Christian Publications, 1969, by permission of Send the Light Trust, 1979, pp. 24, 25)。

生まれもった人間の心の墮落が、回心していない人々を真実のキリストから彼らの顔をそむけさせるのです。

“人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった” (イザヤ書 53 : 3)。

IV. 最後に、完全なる墮落が、人にキリストは価値のないものとみなさせた。

第3節の私達のテキストの後に注目して下さい。 起立して、“彼は侮られた” から始まる言葉を声を上げて読んで下さい。

“さげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった”
(イザヤ書 53 : 3)。

着席してください。 “われわれも彼を尊ばなかった” というこれらの言葉に関して、“説教者達のプリンス” と呼ばれる、スポルジョンはこうのように宣べています。

これは人類の全ての及ぶ告白に違いない。最高位の君主から [最も身分の低い] 小百姓まで、最も知性のある人から最も知性の欠けた者まで、全ての人に尊敬された人から、知られていない小さな者まで、この告白、“私たちも彼を尊ばなかった” と心に生じるに違いない。・・・最も聖なる聖徒であっても・・・彼らはかつて“彼を尊ばなかった。”・・・一度 [[彼らが回心する以前は] “彼を尊ばなかった” (C.H. Spurgeon, “Why Christ is Not Esteemed,” *The Metropolitan Tabernacle Pulpit*, Pilgrim Publications, 1978 reprint ,volume LIII)。

“なぜキリストは尊ばれないのか” という主題の同じ説教の中で、スポルジョンは、この失われた世は、キリストに感謝をせず、回心しない人々がキリストの価値を理解しない、彼を重視しない、尊ばず崇拝しない、という四つの理由を挙げています。 スポルジョンは、救われていない人々はこれらの四つの理由の為に彼を尊ばないと言っています。

- (2) 人はキリストを尊ばない。なぜなら、彼らは自分自身を非常に尊ぶからである。 スポルジョンは、“自尊心は、イエスを寄せ付けず・・・自尊心が高まれば高まるほど、我々はキリストに対して扉を固く [閉ざす]。 己を愛することは、救い主の愛を妨げる。 “とっています。”
- (3) 人は、キリスト、なぜなら、彼らはこの世を高く重んじている。 “我々は、地上のものと全てのその愚行を愛したので、彼を尊ばなかった。”
- (4) 人は、キリストに価値を見ない、なぜなら、彼らは彼を知らないからである。 “キリストについて知っている、ということと、キリスト自身を知っている、こととは非常に大きな違いがある。・・・キリストについて間違った方向で考える人は、決して彼を知らなかった。・・・‘我々は彼を尊ばなかった。’・・・なぜならば、我々は彼を知らなかったからである”。
- (5) 人は、キリストを尊ばない、なぜなら、彼らは霊的に死んでいるからである。 “我々が彼を尊ばなかったことに驚く必要はない。なぜなら、我々は霊的に死んでいるからで・・・我々は‘不義と罪の中に死んでいた’。そして、墓の中のラザロのように、刻一刻と、我々は、ますます墮落するのである”。

これらは、人が救い主を拒絶する理由として、そして彼らがキリストを尊ばない理由として、スポルジョンが挙げたものです。 このテキストがあなた方にもあてはまるのではないのでしょうか？

“彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私達も彼を尊ばなかった” (イザヤ書 53 : 3)。

この説教の言葉は、あなた方の墮落、すなわち、イエスを拒否するあなたの心の頑固さについて、あなた方に語りかけませんでしたか？ キリストを拒絶し彼を尊ばないあなた方の心の墮落さを多少なりとも感じませんでしたか？ もし、あなた方がその醜い墮落さを感じているならば、それは神の恵みによる何ものでもありません。 ジョン・ニュートン (John Newton) は、このように言い表しています、

おどろくばかりの
めぐみなりき
このみのけがれを
しれるわれに

‘めぐみはわがみの
おそれを消し
まかすところを
おこさせたり
 (“Amazing Grace” by John Newton, 1725-1807). 、

もしあなた方が、自分の頑固さゆえにキリストを拒絶するのであれば、そして、もしあなた方が、キリストを拒絶する事によって、あなた方自身の惨めな墮落さをいくらか感じるのであれば、今あなた方自身を、この世がさげすみ、そして拒絶するキリストに服従させませんか？ あなたがイエスを信頼する時、あなたは瞬間的に、彼の御血と正義によって、あなたの罪、そして地獄から救われるでしょう。 アーメン。

要 綱

全ての人に尊ばれていない、キリスト

(イザヤ書第 53 章からの説教、その 4)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

“彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった”。(イザヤ書第 53 章 3 節、新改訳)

(ローマ人への手紙 8 : 7 ;
マタイの福音書 27 : 30, 26)

- I. 最初に、完全なる墮落が、人にキリストをさげすみ、拒否させる。
イザヤ書 53 : 3 甲。
- II. 次に、完全なる墮落は、キリストに悲しみと病をもたらせた。
イザヤ書 53 : 3 乙 ; ルカの福音書 13 : 24 ;
ルカの福音書 22 : 44。
- III. 三番目に、完全なる墮落が、キリストから顔をおおわせる。
イザヤ書 53 : 3 丙 ; コリント人への第二 11 : 4 ;
マタイの福音書 24 : 24。
- IV.最後に、完全なる墮落が、人にキリストは価値のないものとみなさせたイザヤ書 53 : 3 丁。

真実そして誤りーキリストの苦悩

(イザヤ書第 53 章からの説教、その五)

R. L. ハイマース, Jr. 神学博士 著

CHRIST'S SUFFERING – THE TRUE AND THE FALSE (SERMON NUMBER 5 ON ISAIAH 53)

ロスアンゼルスのパプテストタバナクル教会にて
2013 年 3 月 17 日、主の日の朝の説教

“まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。” (イザヤ書第 53 章 4 節).

私達のテキストの最初の部分では、イエスは“われわれの病を負い、われわれの悲しみをになった”と述べられています。この部分は、新約聖書のマタイによる福音書 8 章 17 節に引用されました。

“これは、預言者イザヤによって、「彼は、わたしたちのわずらいを身に受け、わたしたちの病を負うた」と言われた言葉が成就するためである。” (マタイによる福音書第 8 章 17 節).

バーノン・マックギー博士 (Dr. J. Vernon McGee) は、この節についてこう語っています、“おそらく、この節は他のどの節よりも信仰によって癒す人と呼ばれている人達によって用いられているであろう。彼らは身体の癒しは贖いによるものであると主張し、彼らの立場を支持するのに、この[マタイによる福音書で引用されているイザヤ書 53 章 4 節]の引用句を用いている。” (J. Vernon McGee, *Thru the Bible*, Thomas Nelson Publishers, 1983, volume IV, p. 48). エドワード・ヤング博士 (Dr. Edward J. Young) は、“マタイによる福音書 8 章 17 節での参照は適切である。というのは、ここでの病気という象徴は罪そのものを表しているが、その節はまた、罪により生ずるその結果の除去という考え方も含んでいる。病気というものは、罪と切り離す事の出来ない付属物である。” (Edward J. Young, Ph.D., *The Book of Isaiah*, William B. Eerdmans Publishing Company, volume 3, p. 345).

マタイによる福音書 8 章 17 節では、そこで述べられている償いは、病気の癒しに応用されていることは明白である。しかし、それは単にマタイによって取り上げられている応用であって、私達のテキストで取り上げられている主要な意図ではない事を、私達は忘れてはなりません。ヘングステンバーグ教授 (Professor Hengstenberg) は、“僕 [キリスト] はその結果として罪を負われ、それらの罪の中で病気と苦痛は、際立った位置を占めている、と適切に述べている。マタイは、キリストは実際に我々の病気を負われたという事実を強調する為に、[イザヤ書 53 章 4 節のヘブライの大預言者]からそれている事に気をつけるべきである。” (Young, 同著 page 345, 補足説明 13 からの引用).

四つの福音書を注意深く読むと、キリストは改心の際に魂を救うことによって、魂を癒す事が出来るという証明として、彼は病人を癒された、という事が分かるでしょう。先週の土曜日の晩、私は、“イエスさま、わたしたちをあわ

れんでください”（ルカによる福音書第 17 章 13 節）と大声で叫んで言った十人のらい病人達について説教をしました。イエスは、祭司たちに見せるよう彼らを宮へ送られ、“行く途中で彼らはきよめられた。”（ルカによる福音書第 17 章 14 節）彼らの身体はイエスの力によって清められましたが、彼らは救われませんでした。彼らの内一人だけが戻ってきました。彼はキリストに来て“イエスの足もとにひれ伏して感謝した”（ルカによる福音書第 17 章 16 節）時に、改心によって、彼の罪からの霊的な癒しを受けました。そしてイエスは彼に、“立って行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのだ”（ルカによる福音書第 17 章 19 節）と言われました。それから、彼は霊的に、そして身体をも救われたのです。たとえば、ヨハネによる福音書の 9 章で、キリストが盲人の目を開かれたように、私達はこのことをキリストのなされた多くの奇跡的な癒しに見ることが出来ます。最初にその人の目が癒されました、しかし、彼はイエスは単なる“預言者”とっていました。（ヨハネによる福音書第 9 章 17 節）そして後に、彼はこう言いました。

“「主よ、信じます」と言って、イエスを拝した。”
（ヨハネによる福音書第 9 章 38 節）。

ですから、身体の癒しは二次的な事であり、イザヤ書 53 章 4 節で主に強調すべき事は霊的な癒しにある、と私は結論します。バーノン・マックギー博士（Dr. J. Vernon McGee）はこのように述べています。

イザヤ書のこの一句は、我々は自らのとがと不義（イザヤ書 53 章 5 節）から癒された事を明白に述べている。あなた方は私に“それは確かですか？”と尋ねるかもしれない。それが、これらの節が語っているものに他ならないことを私は知っている。なぜなら、ペテロが、“わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである。”（ペテロの第一の手紙第 2 章 24 節）と言っているからだ。何から癒されたのか？ “罪”からである。罪について彼が語っている事を、ペテロは正に明確に表している。（McGee, 同著 page 49）。

この説明が私達のテキストへと戻します。

“まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。”（イザヤ書第 53 章 4 節）。

この節は、当然のごとく二つの部分に分けられます：（1）聖書が与えている、キリストが苦しめられた真実の理由；そして、（2）盲人が信じた誤った理由。

I. 最初に、聖書が与えているキリストの苦しみの真実の理由。

“まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。・・・”（イザヤ書第 53 章 4 節）。

“まことに”という言葉は、キリストが苦しめられた真実の理由と盲人の信じた誤った理由との相違を表しています。“まことに”、そしてそれから真実を述べ、“しかるに”、それから誤りを述べています。

“まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。”（イザヤ書第 53 章 4 節）。

それから、“病”と“悲しみ”の言葉も理解されなければなりません。ヘブライ語での“病”は“病気”を指しています。イザヤはそれをイザヤ書第 1 章 5 節と 6 節で“罪”と同じ意味で使っています。ここでもそれは“罪”の相当語として用いられています。その病は（慢性的な）病気、また罪の疾病を言及しています。“悲しみ”は“苦悩、心の苦痛”を表わしています。ですから、罪の“慢性的な病気、疾病”そして、罪が生み出す“悲しみ、苦悩、苦痛”は—正に罪の病そしてそれによる苦痛そのもの—を表わしています。

そして、“負う”という言葉に注意してください。それは“かつぐ”という意味です。しかし、それは“[かつぎ]取るという事以上の意味がある。その意味するところは、むしろ取り上げる事、あるいはかつぐ事を指す。”（Young 同著 p.345）キリストは人の罪を取られ、彼自身にそれらを置かれ、そしてそれらの罪を取られるのです。キリストが彼の十字架を取り、カルバリーへとそれをかつがれたように、彼は人の罪を取り上げそれを取り去られるのです。それが使徒ペテロがキリストに関して語った事なのです。

“十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。”

（ペテロの第一の手紙第 2 章 24 節）。

カイルとデリッツシュ解説書（Keil and Delitzsch Commentary）が指摘しているように、

その意味するところは、[キリスト]が我々の苦悩を共にされただけではなく、彼は我々が負うべき、そして我々が負うに値する、その苦悩を彼自身に置かれたことである。それゆえ、それらを取られただけではなく・・・それらを[彼自身の身体]に置かれたのである。それにより、我々はその苦悩から救い出されるのである。しかし、ある人が、他の者の負うべき苦悩を彼自身に負うとき、すなわち、彼と共にそれを耐えるだけではなく、彼の[代わり]として耐える時、これは身代わりと呼ばれる。（C. F. Keil and F. Delitzsch, *Commentary on the Old Testament in Ten Volumes*, William B. Eerdmans Publishing Company, 1973 reprint, volume VII, p. 316).

キリストは私達の罪をご自身の身体に負われ、カルバリーの丘の、十字架へそれらがかつがれ、そこで彼は私達の罪を償われました。“これは身代わりと呼ばれる”!!!

恥と嘲笑を耐えられ、
 我が代わりとして罪に定められ彼は置かれた；
 彼の御血によりてわが罪は許され；
 ハレルヤ！ なんという救い主よ！
 (“Hallelujah! What a Saviour!” by Philip P. Bliss, 1838-1876).

“彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。” (イザヤ書第 53 章 5 節).

“キリストが、聖書に書いてあるとおりに、わたしたちの罪のために死んだ” (コリント人への第一の手紙第 15 章 3 節).

クリスウェル博士 (Dr. W. A. Criswell) はこのように述べています。

十字架でのキリストの死は、我々の罪の報いと結果によるものである。誰が主イエスを死に追いやったか？ 誰が栄光なる王子を処刑したか？ 彼が苦しみ死なれた十字架に彼を釘付けにしたのは誰か？ それは誰のせいであろうか？ それは我々のすべてがそれに関係していると言われるべきであろう。私の罪がとげの冠を彼の額に押し付けたのである。私の罪がそれらにとがった釘を彼の手にたたき通したのである。私の罪がやりを彼の心臓に突き刺したのである。私の罪が主イエスを十字架に釘付けにしたのである。それが・・・我々の主による死を意味している。(W. A. Criswell, Ph.D., “The Blood of the Cross,” *Messages From My Heart*, REL Publications, 1994, pages 510-511).

“キリストが、聖書に書いてあるとおりに、わたしたちの罪のために死んだ” (コリント人への第一の手紙第 15 章 3 節).

“まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。・・・” (イザヤ書第 53 章 4 節).

それがキリストの苦悩の真実なる理由です、一すなわち、あなたの罪を償う為に！ しかし、人間はその盲目さと反抗のゆえに、キリストの身代わりとしての死の、すばらしい救いの真実を偽りへと曲解したのです。それが二番目の要点へと導きます。

II. 次に、盲人によって表されたキリストの苦悩における誤った理由。

もう一度、私達のテキストを見てください。立って一緒に声を上げて読んでください。

“まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。” (イザヤ書第 53 章 4 節).

着席してください。

“しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと”。 アダムの子孫である“われわれ”は、悪魔自身により盲目にされ、キリストは私達の代理として死なれ、彼の苦悩が我々の身代わりの為であった事をわれわれは知る事が出来ませんでした。 私達は、キリストは、建てられた秩序に対して、大言壮語を吐きわめき散らす事によって、苦しみを自分自身にもたらしたような、パリサイ人が“悪魔にとりつかれた者”と言ったように、キリストはただのみじめな愚か者、あるいは狂ったもしくは妄想した者、などと思っていました。 ヨブの友人たちのごとく、彼自身の罪そして愚かさが神の怒りをもたらし、人は彼に反発するようになった、と私達は思っていました。 私達はよく見ても、彼は無益に死んだ殉教者とも思っていました。

打たれ？　そうです、私達は彼が打たれたのを知っています！　たたかれ？　そうです、私達は彼がたたかれたのを知っています！　苦しめられ？　そうです、私達はその事も知っています。 私達は皆、彼らがキリストの顔をげんこつで殴った事を知っています。 私達は皆、彼らがキリストをむちで打った事を知っています。 私達は皆、キリストが十字架に釘付けされた事も知っています！　全ての人達そして子供たちは、それらの事は知っています！　しかし、私達はそれらを誤り伝えています。

私達はそれらを誤解しました。 私達は、彼が負われたのは私達の罪であり、彼がかつがれたのは私達の悲痛であった事を理解しなかったのです！　思いの中で私達は十字架につけられたイエスを眺める時、私達は彼自身の罪そして愚かさ、ならびに過ちなどの為めに罰せられたと思っていました。 “しかし、そうではない！　私達が平和を持つ為に、そして私達が癒やされる目的のために、それは、私達の罪過の故、私達のわれわれの罪の故になされたことだったのです。 その真実なところは、私達が道からはずれ、そして自分達の思いのままに歩み、[神は]私達の罪を罪のない身代わりとされたイエスに置かれたのである。” (William McDonald, *Believer's Bible Commentary*, Thomas Nelson Publishers, 1995, p.979).

われわれの罪に対して、彼はわれわれに平和を与え、
束縛からわれわれを解き放された、
そして彼の鞭打ちにより、彼の鞭打ちにより、
そして彼の鞭打ちにより、われわれの魂は癒される。

(Thomas O. Chisholm)

“まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。
しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、
苦しめられたのだと。” (イザヤ書第 53 章 4 節)。

それはあなたにとっても真実だったでしょうか？　あなた方は、イエスはあなた方の罪を取り去る事以外の他の理由の為に十字架につけられた、と思っていたのではないですか？　では、今、キリストがあなた方の罪による報いを取り去る為に、あなた方の身代わりとして死なれた事を知った上で、あなた方も単 (シンプル) なる信仰を持ってイエスに来ませんか？　神の御子を信頼し、彼の尊いそして聖なる血によってあなた方の全ての罪を洗い清めませんか？

私は彼の苦悩そして死に関して、あなたが抱いていた全ての誤った見解をあなたの内から取り除くようお願いしているのです。 キリストはあなた方の

罪の報酬を償う為に死なれました。彼は死から甦られました。彼は今天国の神の右座におられます。私はあなた方に、キリストに来て、彼の御前に伏し、彼を信頼し、そして救われるようお願いしているのです。

しかし、イエスについてこれらの真実を知るだけでは十分ではありません。あなた方は、彼の死についてのこれらの全ての要点を知ることが出来ても、あなた方はクリスチャンではありません。あなた方は、十字架でのキリストの身代わりの死についての真実を知る事は出来ます：あなた方は、罪人の代わりとなって死なれた事を知ることが出来ます。それでもなを、あなた方はまだ改心をしていません。あなた方は甦られた主、イエス・キリストと出会わなければなりません。あなた方は実際に彼に来て、あなたの視線を低くし、信仰によって服従しなければなりません。それが救いへの道です。それが永遠なる命への扉です。アーメン。

要 綱

真実そして誤りーキリストの苦悩

(イザヤ書第 53 章からの説教、その五)

R. L. ハイマース, Jr. 神学博士 著

“まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになつた。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。” (イザヤ書第 53 章 4 節)

(マタイによる福音書第 8 章 17 節；ルカによる福音書第 17 章 13, 14, 16, 19 節；

ヨハネによる福音書第 9 章 17, 38 節；ペテロの第一の手紙第 2 章 24 節)

- I. 最初に、聖書が与えているキリストの苦しみの真実の理由。
イザヤ書第 53 章 4 甲節；コリント人への第一の手紙第 15 章 3 節。
- II. 次に、盲人によって表されたキリストの苦悩における誤った理由。
イザヤ書第 53 章 4 乙節。

刺し通され、砕かれ、打たれたイエス

(イザヤ書第 53 章からの説教、その 6)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

ロスアンゼルスのパプテストタバナクル教会にて
2013 年 3 月 23 日、土曜日の夜の説教

JESUS WOUNDED, BRUISED AND BEATEN

(SERMON NUMBER 6 ON ISAIAH 53)

by Dr. R. L. Hymers, Jr.

A sermon preached at the Baptist Tabernacle of Los Angeles
Saturday Evening, March 23, 2013

“しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた” (イザヤ書 53 : 5、新改訳)。

ローマ人への手紙第 1 章の中に使われている二つのギリシャ語は、何かについて知る事と、その何かの完全なる知識を持つ事、との違いを表すのに用いる事が出来るでしょう。私達はローマ人への手紙第 1 章 21 節で、古代の人達は“神を知っていた”という事を知らされています。“知っていた”と言う言葉はギリシャ語で、“グノウシス (gnosis)”です。それは、彼らは神について知っていたという意味です。しかし、ローマ人への手紙第 1 章 28 節は、彼らは、“神を認めること”をしなかったと言っています。“知識”に同等する言葉は“エピグノシス (epignosis)”です。それはグノウシス [知る事] の強調した型を意味し、より強固に影響を含む完全なる知識を示しています。

(参照 : W. E. Vine, *An Expository Dictionary of New Testament Words*, Revell, 1966, volume II, p .301)。古代の人々は神について知って [gnosis] はいましたが、彼らは、神の完全なる知識 [epignosis] を個人的には持っていませんでした。彼らは、個人的には神を知らなかったのです。

私達は先ほど主の晩餐の儀式を行いました。ローマ人への手紙の最初の章にあるそれら二つのギリシャ語は、あなた方、すなわち、主の晩餐を受けた私達を見るけれども、あなた方自身は救われていないので、その儀式に参加できない、そのことを表していると思います。あなた方は、主の晩餐の意味を外観的に、そして知的には知っていますが、それが何を表しているのかを体験的には知っていません。あなた方はそれについての“知識”はあります (それについて“知る事”)、しかしあなた方はその完全なる知識 (epignosis) がありません。あなた方はイエス・キリスト、その方を知らないのです。

そして、私達のテキストについても同じ事が言えるのです。あなた方はその言葉とその意味を外見的には理解しているかもしれませんが、あなた方には“強固に影響” (同著) を与えるような、真の意味、その完全なる知識をあなた方は把握していません。ですから、あなた方のその知的な知識が、イエス・

キリストへの個人的な体験へと深める事を望みながら、そのテキストのより深い意味にあなた方の注意を引きつける事が私の目的です。

“しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、
私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たち
に平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいや
された”（イザヤ書 53：5）。

もしあなた方が回心する事を望むならば、この聖句はあなた方の心をつかまえるべき一節です。私は、その言葉が思想的な知識から、十字架であなた方の罪の贖いの為に死なれたイエス・キリストを信頼するように、あなた方を動揺させる事を願っています。このテキストには三つの主要なポイントが含まれます。

I. 最初に、キリストは私達のとがの為に傷つけられ、私達の不義の為に砕かれた。

“しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、
私たちの咎のために砕かれた”（イザヤ書 53：5）。

最初の言葉である“しかし”は、その章の4節で、キリストは、御自分の罪と不正の結末として死なれたと表されている誤った考えと、彼は私達の罪を贖う為に死なれたという真実との対比を示しています。エドワード・ヤング博士は旧約聖書の学者で、彼は、すばらしい旧約聖書の学者でもあった、私の中国人の牧師ティモシー・リン博士の個人的な友人でした。ヤング博士は、“彼という代名詞が最初に置かれている事により、もうひとつの強調点が見い出せる、すなわち、真に罰に値する者達の対比として、非難されるべき罪を彼は負われた、という事である”（Edward J. Young, Ph.D., *The Book of Isaiah*, William B. Eerdmans Publishing Company, 1972, volume 3, p. 347）と言っています。

“しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、
私たちの咎のために砕かれた。・・・”
（イザヤ書 53：5）。

その“刺し通され（英語では、傷つけられた、と言う意味に相当）”という言葉は、非常に重要な言葉です。ヤング博士は、そのヘブライ語の意味は、“突き通され、でそこには通常、死に至るまで突き通す、という思考を伴う”と語っています（Young、同著）。そのヘブライ語は、“突き抜ける”、“突き通される”（同著）という意味です。そのヘブライ語は、ゼカリヤ書第12章10節の中にも現れています、

“彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見”
（ゼカリヤ書 12：10）。

これは、とげの冠で頭皮を突き通され、十字架の上で釘で手足を突き通され、また、ローマ兵卒のやりでわき腹を突き刺された、キリストについての明白な預言です。使徒ヨハネはこのように私達に告げています、

“兵士のうちのひとりがイエスのわき腹を槍で突き刺した。
すると、ただちに血と水が出て来た。・・・この事が起

こったのは、「彼の骨は一つも砕かれない」という聖書のことばが成就するためであった。また聖書の別のところには、「彼らは自分たちが突き刺した方を見る」と言われているからである”

(ヨハネの福音書 19 : 34, 36, 37)。

そうして、私達のテキストは、“彼は私たちの咎のために砕かれた” (イザヤ書 53 : 5) と言っています。キリストの砕かれる事は、ゲツセマネの園で始まりました。それは彼が捕らわれる前の晩、キリストが、

“苦しみもだえて、・・・汗が血のしずくのように地に落ちた” (ルカの福音書 22 : 44)。

ゲツセマネの園で、その時に彼の上に置かれた私達の罪の重荷の下で、キリストは砕かれました

何時間か後に、十字架に釘付けられる直前に、キリストはたたかれ、打たれ、砕かれ、そして槍で突き通されました。しかし、砕かれる事の真の意味は、使徒ペテロが言っているように、彼の上に置かれた私達の罪の重荷を表しています、

“自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました” (ペテロの手紙第一 2 : 24)。

“しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。・・・”

(イザヤ書 53 : 5)。

アイゼック・ワッツ博士 (Dr. Isaac Watts) は彼の有名な賛美歌の中でそれを明白にしています、

このつみのふかい
もののために
すくいぬしイエスは
しなれたのか

十字架のけいばつ
そのなやみは
けがれたわがみを
すくうためだ

(『このつみのふかい』 “Alas! And Did My Saviour Bleed?”
by Isaac Watts, D.D., 1674-1748).

II. 次に、キリストは私達の代わりとして懲らしめられた。

私達のテキストの三番目の句に注目してください。

“しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、・・・” (イザヤ書 53 : 5)。

私は、それがどういう意味であるかはっきりしないまま何年もその節を読みました。デリッツシュ博士 (Dr. Delitzsch) は、それを“我々の平安へと至らず懲らしめ”と解釈しています (C. F. Keil and F. Delitzsch, *Commentary on the Old Testament*, Eerdmans Publishing Company, 1973 reprint, volume VII, p. 319)。“それは、これらの苦悩・・・が確保した、我々の平安・・・我々の幸福、我々の祝福であった” (同著)。“懲らしめ”という言葉は”罰”という意味です。ヤング博士は、“もしある人が、[キリスト]の上に下された懲らしめ [罰] が、なだめの目的であったと主張するならば、その人はそのテキストをよく読んでいない” (Young、同著、p. 349) と言っています。神の公正はキリストの上へ下されました。すなわち、罪に対する神の怒りをなだめ、そして鎮める為でした。近代の注解者達が伝える事を恐れる箇所を、ギル博士 (Dr. Gill) は述べ伝えました。彼はこのように正しく述べています、

我々の平安の為の懲らしめはキリストの上に下された；それは、我々の罪に対する罰が彼に負わされたと言う事であり、そこで我々の平安と神との和解は彼によって成され、・・・それによって、神の神聖な怒りは現れ、公正が満たされ、そして和解がもたらされた (John Gill, D.D., *An Exposition of the Old Testament*, The Baptist Standard Bearer, 1989 reprint, vol. I, p. 312)。

使徒パウロは、キリストが神の怒りを“あがなう”事についてこのように告げています、

“神は、イエス・キリストを、その血による、また信仰による、なだめの供え物として”
(ローマ人への手紙 3 : 24-25)。

アルバート・ミドレイン (Albert Midlane) は、この説教の前にグリフィス氏が歌った賛美歌の歌詞の中で、使徒が意図した事を説明しています、

彼が負われた怒りを 誰も語る事は出来ず、
公正なる怒りは我に下らん
罪は当然の報い、罪人を解放せんがため、
彼はすべての不義を負われた

いまなお、一つ残らず
“すべては終わった”と、
彼の取られし効果なる一飲みで
怒りの杯は正に乾く。
 (“The Cup of Wrath” by Albert Midlane, 1825-1909).

キリストは、あなた方の代わりに懲らしめを受け、それゆえあなた方の罪に対する神の怒りは鎮められました。

“彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、・・・”
(イザヤ書 53 : 5)。

III. 最後に、打たれた傷によって、キリストは私達の罪をいやされた。

起立して、このテキストを声を出して読んで下さい。最後の部分、“彼の打ち傷によって、私たちはいやされた”の箇所に注意を払ってください。

“しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた”（イザヤ書 53 : 5）。

着席して下さい。

“彼の打ち傷によって、私たちはいやされた”。ヘブライ語の“彼の打ち傷”という言葉は、“傷”を意味します (*Strong*)。使徒ペテロは、ペテロの手紙第一の第 2 章 24 節でこの節を引用しています。ペテロの用いたそのギリシャ語は、“傷”と訳されています。それは、“強打による傷”の意味です (*Strong*)。私は、イザヤ書の第 53 章 5 節の、“打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ”と、ペテロの手紙第一の第 2 章 24 節は、イエスのむち打ちに言及していると信じます。私は、それらの言葉はキリストが十字架につけられる少し前に、ユダヤを支配するローマの総督ピラトの命令により、兵卒達によってなされたキリストのむち打ちを特に表している言葉であると確信します。聖書はこのように言っています、

“そこで、ピラトはイエスを捕らえて、むち打ちにした”
(ヨハネの福音書 19 : 1)。

“そこで、ピラトは彼らのためにバラバを釈放し、イエスをむち打ってから、十字架につけるために引き渡した”
(マタイの福音書 27 : 26)。

“むち打ち”と訳されたギリシャ語の注解として、バイン (W. E. Vine) は、それは“キリストの耐えた、ピラトの命令によって施されたむち打ちのことである。ローマ人のむち打ちのやり方では、人は服をはぎ取られ [裸にされ]、体を曲げられた状態で柱に縛られた。・・・ [そのむち] は、背中と胸の両方の肉を引き裂くように、骨または鉛のとがったもので重みをつけられた皮ひもで出来ていた。イウセビウス (Eusebius : 年代記) は、このような扱いのもとで死んだ殉教者の苦しみを目撃した、と記録している” (W. E. Vine, *An Expository Dictionary of New Testament Words*, Fleming H. Revell Company, 1966 reprint, volume III, pp. 327, 328)。その“むち打ち”という言葉は、来たるべき苦しみに関する彼の預言の中でも、イエスは用いています。彼はこのように言われました、

“「さあ、これから、わたしたちはエルサレムに向かって行きます。人の子は、祭司長、律法学者たちに引き渡されるのです。彼らは人の子を死刑に定めます。そして、あざけり、むち打ち、十字架につけるため、異邦人に引き渡します。しかし、人の子は三日目によみがえります。」” (マタイの福音書 20 : 18-19)。

スポルジョンは、キリストのむち打ちに関してこのように注解しています。

じっと立って、古代ローマの円柱に縛られ、痛ましくむち打たれた [イエス] を見よ。 [むち打ちによる] 猛烈な打撃を聞け、血の流れで傷に注目せよ。そして、彼の神聖なる体でさえも、どのように彼が傷みの集合体となったかを見よ。そうして、彼の魂もまたどのようにむち打たれたかに注目せよ。彼の心の内奥が拷問によって傷つけられるまで、そのむち打ちがどんなにか彼の身に下ったかに心を傾けよ。耐えられないほどに、我々の為に彼は貫かれたのだ。・・・思いをまったくまよわす事なく、このような厳粛なる主題に関して黙想してみよ。我々の心が彼に対する感謝の愛でやわらぐまで、イエスの無比なる苦悩に関して、あなた方と私が共に思い描く事が出来るように祈る (C. H. Spurgeon, “Christopathy,” *The Metropolitan Tabernacle Pulpit*, Pilgrim Publications, 1976 reprint, volume XLIII, p. 13)。

更にスポルジョンは、キリストがむち打ちと十字架上の処刑を苦しまれたのは、私達の罪の為であったと言っています。 イエスがむち打たれた時に、そして十字架の上で釘が彼の手足を打ち抜けた時に、彼がそのような傷を御身に体験されたのは、あなた方と私の為でした。 スポルジョンはこのように述べています、

われわれは確かに彼の悲しみを分け合った。ああ、我々は“打たれた傷によって我々はいやされたのだ”という事が同様に確かであれば。あなたは彼を殴った [彼を打った]、そして、愛する友よ、あなたは彼を傷つけた；それゆえ、あなたが“打たれた傷によって我々はいやされたのだ”と言えるまで休息してはならない。もし我々が彼の傷によって [罪から] 癒されようとするならば、我々はこの苦しんでいる方 [イエス] の個人的な [知識] がなくてはならない。我々はこの偉大な犠牲の上に、我々自身の手を置かねばならない、そしてそれを [我々のためにされた] ものとして受け入れなければならない。というのは、キリストがむち打たれたことを知ることは、ぞっとするようなことだが、“打たれた傷によって我々はいやされたのだ”というのはそうではない。もし罪が病として、神にとって関心のないものであるならば、癒しについて語る必要はない (同著、p14)。“打たれた傷によって我々はいやされたのだ”。これは、一時的な治療薬ではない；それは、あなたの魂を完璧なまでによくする薬である。そうであるがために、天国の神の御座の前で、救われた者達と一緒に、“打たれた傷によって我々はいやされたのだ”と人は歌う。血にまみれたキリストに栄光を！すべての名誉、威厳、支配、そして賞賛を末永く彼に。そして、罪から癒されたすべての者は、“アアメン、アアメン”と唱えよ (同著、p. 21)。

“しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた” (イザヤ書 53 : 5)。

しかし、単にこのような事柄を知っている事はあなた方を救いません！このテキストで述べられているキリストの苦しみの真実があなた方の心を捕らえない限り、あなた方は回心しないでしょう！ そのテキストがあなた方の心を捕えますように。 それらの言葉があなた方の魂を動揺させますように。

“しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた”（イザヤ書 53 : 5）。

これらの言葉があなた方をキリストに信頼するよう動揺させ、そして全ての罪から癒され、そうすることであなた方が、“打たれた傷によって、今そして永遠に、私は罪の苦しみからいやさる”と言えますように。 アアメン。

要 綱

刺し通され、砕かれ、打たれたイエス

(イザヤ書第 53 章からの説教、その 6)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

ロスアンゼルスのパプテストタバナクル教会にて
2013 年 3 月 23 日、土曜日の夜の説教

“しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた”（イザヤ書 53 : 5、新改訳）。

(ローマ人への手紙 1 : 21, 28)

- I. 最初に、キリストは私達のとがの為に傷つけられ、私達の不義の為に砕かれた。イザヤ書 53 : 5 甲；ゼカリヤ書 12 : 10；ヨハネの福音書 19 : 34, 36, 37；ルカの福音書 22 : 24；ペテロの手紙第一 2 : 24。
- II. 次に、キリストは私達の代わりとして懲らしめられた。イザヤ書 53 : 5 乙；ローマ人への手紙 3 : 24-25。
- III. 最後に、打たれた傷によって、キリストは私達の罪をいやされた。イザヤ書 53 : 5 丙；ヨハネの福音書 19 : 1；マタイの福音書 27 : 26, 20 : 18-19。

全ての人に共通する罪、特定の罪、
そして罪の癒し

(イザヤ書第 53 章からの説教、その 7)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

ロスアンゼルスのパプテストタバナクル教会にて
2013 年 3 月 24 日、主の日の朝の説教

**UNIVERSAL SIN, PARTICULAR SIN,
AND THE CURE FOR SIN**
(SERMON NUMBER 7 ON ISAIAH 53)

by Dr. R. L. Hymers, Jr.

A sermon preached at the Baptist Tabernacle of Los Angeles
Lord's Day Morning, March 24, 2013

“私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分 かってな道に向かって行った。しかし、主は、私たちのすべての咎を彼に負わせた”。 (イザヤ書 53 : 6、新改訳)

リチャード・ランド博士 (Dr. Richard Land) は、南部バプテスト・コンベンションの道理と宗教的自由権利委員会の会長です。ランド博士は、キリスト教の根本的事柄の信じがたいほど無知である文明に、私達は生きている事を理解しています。彼はこのように書いています、

私は、アメリカにおける宗教の欠乏についてタイム誌の記事を読む。礼拝の後で、ある夫婦が牧師に、“私達の十代の息子が、プラスサインに吊るされている人が誰であるか知りたがっています”と尋ねて来た。彼らはそれがイエスであった事も知らず、それが十字架であった事も知らなかった (“The Man on the Plus Sign,” *World magazine*, August 1, 2009, page 24)。

多くの人々がイエスが誰であるか、そして彼が何を成したかに関して、僅かの知識しかないことに驚かされます。その多くの責任は、多くの今日の教会でキリスト御自身についての説教がわずかにしか成されていない事にあります。しかしあなた方は、イエスは、罪人の代わりとして十字架に付けられ死なれた事を聞くこと無しに、日曜日の礼拝に一度でも来ることは出来ません！ イエスが十字架で死なれた時、彼は私達の罪を負われ、それを償われました。イエスは十字架で私達を罪から清める為に御自分の血を流されたのです。スポルジョンは、“イエス。キリストの御血に関して説教しない説教者がいる。私は彼らについて言う事がひとつある”と言いました。彼らの説教を決して聞きに行つてはならない！ 彼らの話を聞いてはならない！ イエスの御血を説教しない聖職者は命をもたない。そして死んだも同然の説教者は誰の役にも立たない”

(C. H. Spurgeon, “Freedom Through Christ’s Blood,” August 2, 1874)。 イザヤ書の第 53 章には、キリストは私達の罪を負うことは、何度も何度も出てきます。

“まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった” (イザヤ書 53 : 4)。

“しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた” (イザヤ書 53 : 5)。

“彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし”
(イザヤ書 53 : 5)。

“彼の打ち傷によって、私たちはいやされた”
(イザヤ書 53 : 5)。

“主は、私たちのすべての咎を彼に負わせた”
(イザヤ書 53 : 6)。

“彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ”
(イザヤ書 53 : 8)。

“もし彼が、自分のいのちを罪過のためのいけにえとするなら” (イザヤ書 53 : 10)。

“彼らの咎を彼がになう” (イザヤ書 53 : 11)。

“彼は多くの人の罪を負い” (イザヤ書 53 : 12)。

イザヤ書第 53 章で、幾度も幾度も、キリストが私達の罰を彼御自身に負い、私達の罪の為に身代わりとして苦しまれた事が告げられています。

しかし、この私達のテキストに、新たな見方が記されています。ここでは、キリストが苦しまれなければならなかった理由、なぜ罪の無いキリストが人の罪を負わなければならなかった、のかが告げられています。

“私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かってな道に向かって行った。しかし、主は、私たちのすべての咎を彼に負わせた” (イザヤ書 53 : 6)。

このテキストは当然のごとく、三つの要点に分けられます。

I. 最初に、すべての人の罪の一般的な告白。

その預言者はこう言っています、

“私たちはみな、羊のようにさまよい、・・・”
(イザヤ書 53 : 6)。

ここで、人間の普遍的な罪深さについて明白に語られています。“私たちはみな、羊のようにさまよい”。使徒パウロは、このように述べてそれを明白にしています、

“私たちは前に、ユダヤ人もギリシヤ人も、すべての人が罪の下にあると責めたのです。それは、次のように書いてあるとおりです。「義人はいない。ひとりもない。悟りのある人はいない。神を求める人はいない」
(ローマ人への手紙 3 : 9-11)。

“私たちはみな、羊のようにさまよい”、私達皆がです！
神の律法の囲いを破り通した羊のように、私達はみな迷い、私達はみな神からさ迷い出てしまいました。使徒ペテロはこう言いました、

“あなたがたは、羊のようにさまよっていましたが”
(ペテロの手紙第一 2 : 25)。

ペテロの用いたギリシヤ語の言葉は、安全と真実からさ迷う、惑わされる、という意味の言葉である (**Strong**)。それが、聖書にある人間の共通した描写なのです。

“私たちはみな、羊のようにさまよい”
(イザヤ書 53 : 6)。

人は一種の動物と対比されています。なぜなら、罪が彼を墮落させているからです—そして、彼は動物同様になってしまうのです。しかし、人は賢い動物とは比較されていません。そうではなく、人は愚かな羊と比較されています。

あなた方は、この都市に住んでいるのでおそらく羊の愚かさをあまり知らないでしょう。しかし、聖書の時代の人々は、どんなに羊が愚かであるかをよく知っていました。羊は羊飼いによって見守られていなければならず、そうでなかったなら、羊はさ迷ってしまうでしょう！

羊は一つの事しか出来ません—さ迷う事です！もし柵に一つの抜け目があったとしたら、羊はそれを探し出し、さ迷い出て行くでしょう。そして羊が一度そこから出て行ったならば、二度と戻って来ようとはしないでしょう。羊は、先へ先へと安全な場所から離れて行きます。人もそれと同様です。人は悪に関しては賢く、正しい事については愚かなのです。ギリシヤ神話のアーガス (Argus) のように、人は罪を求める百の目があり、神を求める事には、盲目であったときのバルテマイのように盲目なのです！使徒パウロはその共通なる罪の病についてこのように告げています、

“そのころのあなたがたは、キリストから離れ、イスラエルの国から除外され、約束の契約については他国人であり、この世にあって望みもなく、神もない人たちでした” (エペソ人への手紙 2 : 12)。

“彼らは、その知性において暗くなり、彼らのうちにある無知と、かたくなな心とのゆえに、神のいのちから遠く離れています” (エペソ人への手紙 4 : 18)。

これらの節は、人は神からさ迷っている事を表しています。

“私たちはみな、羊のようにさまよい・・・”
(イザヤ書 53 : 6)。

ですから、私達のテキストの中のこの部分は、すべての人間の一般的な罪の認識です。それは人間が神から何百もの誤った宗教と間違った教え、偶像崇拝、そして偽の神と偽のキリストへとさ迷い出て、“彼らは、その知性において暗くなり、彼らのうちにある無知と、かたくなな心とのゆえに、神のいのちから遠く離れています” (エペソ人への手紙 4 : 18)。

II. 次に、各々の特定な罪の自認。

テキストは更にこのように続きます、

“私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分
かってな道に向かって行った。・・・”
(イザヤ書 53 : 6)。

人間の一般的な罪の内容は、各自個人的な特定な罪の内容によって裏付けられます。“おのおの、自分かってな道に向かって行った”。誰も自分自身の選択によって神の道へと向かって行きません。常に、各自“かってな道”を選んでいきます。罪の真なる本質はここにあります。すなわち、私達のかってな道で、神の御心に抵抗して。私達は自分自身の人生をコントロールする事を望んでおり、自分達の計画に従うことを望んでいます。私達は自分自身を神に服従させようとしません。私達はキリストを信頼せず、私達の主に服従しようとしません。

このテキストは、各自が自分達の特定の罪、“かってな道”がある事を表しています。各自男性であろうと女性であろうと、互いに幾分か異なったものであろうが、罪を保持しています。同じ両親のもとで育った二人の子供達には、異なった罪があります。ひとりはそのやり方で決まった罪を犯し、もうひとは異なったやり方で罪を犯します。“おのおの、自分かってな道に向かって行った”。ひとは右へ、もうひとは左へと向かっていきます。しかし両方共が神のやり方を拒絶しています。

キリストの時代に、神の律法に強く反対して生きていた収税人達がいました。一方では、自尊心のある独善的で、自分達は他の者達に優ると自負しているパリサイ人達がいました。天使も悪魔も信じないサドカイ人達もいました。彼らは、収税人達のような罪なる生活はしておらず、パリサイ人達のように迷信も信じていませんでした。しかし、彼らは自分達のかってな道において神の真実に反抗していました。それは彼ら各々様々であります。

“私たち、おのおの、自分かってな道に向かって行った”
(イザヤ書 53 : 6)。

あなた方の何人かは、クリスチャンの家庭に育っているかもしれませんが、且つ、あなた方は福音を拒絶する事で罪を犯しています。それがあなた方の“かってな道”なのです。他の人達は、ある特定の罪を思い浮かべているかも知れません。あなた方がその事を思う度に、あなた方は深く心を悩ましています。それでも、あなた方の何人かはキリストに来て、ゆるし、そして和解を見出す事よりも、むしろ常に罪悪感のもとに留まる事を望んでいます。ある人

達はキリストを信頼する事を拒否し続けています。“私たち、おのおの、自分かつてな道に向かって行った”のです。

他の人はこう言うかもしれませんが、“自分はここを頑なにしてきました。以前は罪を悟り、キリストの必要性を感じていましたが、今は感じません。主は怒りの中に私を置き、自分は主に平安を求められないのでは、と恐れます。神はすでに自分を諦められたのでは、と恐れます”。しかし、私達の残りのテキスト、三番目の句節を注意深く聞いてほしいと思います。なぜなら、あなた方にはまだ望みがあることを語っているからです！

III. 最後に、すべての罪のための、キリストによる代理としての身代わりの死。

起立してその聖句、特に最後の句、“しかし、主は、私たちのすべての咎を彼に負わせた”、に注意を払って読んでください。

“私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かつてな道に向かって行った。しかし、主は、私たちのすべての咎を彼に負わせた”（イザヤ書 53 : 6）。

着席して下さい。エドワード・ヤング博士はこのように書いています、

その節の最初の半分は、僕の苦しみの理由を現している。そして後の半分では、主御自身が、我々全ての罪を僕に置くことによって、彼は苦しめられたという事を示している。その動詞[“負わせた”]は、激しく打つ、または、打ちのめす、という意味である。我々が犯した不義は、我々が公平にして覚悟すべきであるが、我々を打つことなく、むしろ我々の[代わり]として[キリスト]を打つ。主[神]は、我々の罪のゆえに彼を打たれた。・・・我々自身の為に、神は彼を打つよう仕向けた、[それは]身代わりとしての彼が、我々の罪の行為に要求される罰を負われたという事である・・・羊飼いが羊の為に自分の命を与えたのである（Edward J. Young, Ph.D., *The Book of Isaiah*, Eerdmans, 1972, volume 3, pp. 349-350）。

“私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かつてな道に向かって行った。しかし、主は、私たちのすべての咎を彼に負わせた”（イザヤ書 53 : 6）。

スポルジョンの “Individual Sin Laid on Jesus（個人の罪はイエスに負わされた）” という説教の中で、彼はこのように述べています、

ロトの罪は恥ずべき罪であった。それらを口に出して表す事も出来ない。それらはダビデの罪とはまったく異なっていた。邪悪な罪、ふしだらな罪がダビデの罪であった。しかし、ダビデの罪はまったくマナサの罪のようではなかった；マナサの罪はペテロの罪と同じではなかった—ペテロはまったく異なった（仕方）で罪を犯した；罪人であった女性をペテロと比べる事は出来ない。

あなたがその女性の性格に気をつけ見ても彼女をリディアと（比べる）事が出来るであろうか。彼らは皆同じく迷っていた、しかし、彼らは皆異なっており、彼らは皆自分かつてな道に向かって行った；しかし・・・主は「すべての者の“咎を彼に負わせた”」。・・・あなた方が偉大な福音による癒しの薬、イエス・キリストのその尊き御血に来る時に、その罪だけの為に造られたものであるように、罪悪感からすべて解放することによって罪を取り去る、昔の医者が**万能薬と呼んだ、全てに共通する薬**がそこにある（C. H. Spurgeon, “Individual Sin Laid on Jesus,” *The Metropolitan Tabernacle Pulpit*, Pilgrim Publications, 1977 reprint, volume XVI, pp.213-214）。

キリストを信頼しなさい。キリストに服従しなさい。彼を信頼すれば、あなた方は決して恥じることは無いでしょう、なぜなら、“主は、私たちのすべての咎を彼に負わせた”からです。

罪ある、恥ずべき、そして力のない我ら
傷のない神の小羊イエス
“完全なる償い”？
ハレルヤ！何という救い主よ！

(“Hallelujah! What a Saviour!” by Philip P. Bliss, 1838-1876).

イエスを信頼しませんか？彼に服従し、身を任せ、信頼しませんか？イエスの御血により罪から清められ、そして、あなた方の為の、十字架での身代わりの犠牲により、裁きから救われませんか？キリストのみに拠り頼み、服従し、そして救われるよう、神があなた方に信仰を与えて下さいますように！アメン。

起立して下さい。イエスを信頼することについて私達に質問があるならば、席から立って会堂の後方に行ってください。ケイガン先生が、キリストに服従し、キリストの御血によって、あなた方の罪が清められる事の話が出来る静かな部屋に案内します。リーさん、彼らの為にお祈りして下さい。アメン！

要 綱

全ての人に共通する罪、特定の罪、 そして罪の癒し

(イザヤ書第 53 章からの説教、その 7)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

ロスアンゼルスのパプテストタバナクル教会にて
2013 年 3 月 24 日、主の日の朝の説教

“私たちはみな、羊のようにさまよい、おのこの、自分 かってな道に向かって行った。しかし、主は、私たちのすべての咎を彼に負わせた”。 (イザヤ書 53 : 6、新改訳)

(イザヤ書 53 : 4, 5, 6, 8, 10, 11, 12)

- I. 最初に、すべての人の罪の一般的な告白。
イザヤ書 53 : 6 甲 ; ローマ人への手紙 3 : 9-11 ;
ペテロの手紙第一 2 : 25 ; エペソ人への手紙 2 : 12 ; 4 : 18。
- II. 次に、各々の特定の罪の自認。 イザヤ書 53 : 6 乙。
- III. 最後に、すべての罪のための、キリストによる代理としての身代わりの死。 イザヤ書 53 : 6 丙。

小羊の沈黙

(イザヤ書第 53 章からの説教、その 8)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

THE SILENCE OF THE LAMB

(SERMON NUMBER 8 ON ISAIAH 53)

ロスアンゼルスのパプテストタバナクル教会にて

2013 年 3 月 24 日、主の日の晩の説教

“彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。ほふり場に引かれていく羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない” (イザヤ書 53 章 7 節、新改訳)。

キリスト教の殉教者の最後の言葉を聞くのは常に感動させられます。彼らの死の間際の言葉を聞くことは、私達の心を高揚させます。ポリカープは、二世紀初頭の説教者でした。彼の名前は、英語でポリカープ (Polycarp) と呼ばれ、ラテン語ではポリカプス (Polycarpus) と呼ばれます。ポリカープは使徒ヨハネの弟子でした。ある日、彼は異教徒の裁判官の前に立ちました。裁判官は、“あなたは年老いた者だ。死ぬ必要はない……。誓いをたてればあなたを自由の身にしよう。‘主カイザーよ’と言い、香を捧げる事が何の害になるであろうか？ あなたがカイザーに対して誓うだけで、私は喜んであなたを自由の身にしよう。キリストを拒否すれば、あなたは生きながらえるであろう”、と言いました。

ポリカプスは、“86 年もの間、私はキリストに奉仕してきました。そしてまた、キリストは私に何の害も授けられませんでした。どうして私を救って下さった私の神を冒瀆できるのでしょうか?”、と答えました。その裁判官は、“私はあなたを火で焼き尽くそう”、と言いました。ポリカプスはそれに答えて、“あなたの脅している火は一時間ほどで燃え尽きてしまう。不信者達の為に用意されている裁きと永遠なる罰の火について知っていますか？ 遅らす事はないであろう？ さあ、しようとしている事をしなさい”、と言いました。

これに対して、地方総督は群集に大声で宣言する為に、伝令官を競技場に送り、“ポリカープはクリスチャンである事を自白した!”、と大声で宣言させ、そこで“彼を燃やせ!”、と不信心の群集達は叫んだ。火が用意され、火刑柱に釘付けする為に、死刑執行人はポリカープに近づきました。その犠牲者は穏やかに、“私をゆだねます。私をその火に耐えさせてくださる方は、あなた方が望んでいる釘付けをすることなく、積まれた薪の上でじっと留まらせて下さるでしょう”、と言いました。

そこでその説教者は声を張り上げて祈り、自分は“死にふさわしい者とみなされた”、と神をたたえました。火はつけられ、炎の広がりや彼の周りへと放ちました。彼の身体が火の中で燃え砕けなかったので、執行人は彼をやりで突き刺しました。そうしてスミルナ (Smyrna) の牧師であり、使徒ヨハネの弟子であったポリカプスの生涯は尽きました (James C. Hefley, *Heroes of the Faith*, Moody Press, 1963, pp 12-14 を参照)。

スポルジョンは、“我々のすばらしいバプテストの殉教者ジェーン・ボウシエ (Jane Bouchier) について、彼女が克蘭マー (Cranmer) とリドレイ (Ridley) の前に差し出された時” の事を語っています。このバプテスト信者を火刑にするように定めたアングリカン教会 (英国々教会) の二人の主教は、火刑は楽な死に方であると彼女に言いました。彼女は彼らに、“私はあなた方と同様に真のキリストの僕です；そして、もしあなた方が、あなた方の哀れな姉妹を殺すならば、神がローマのオオカミをあなた方に向かって解放さないよう用心なさい。そして、あなた方も神の為に苦しまなければなりません” と語りました。何と彼女は正しかった事でしょうか。なぜならその後まもなく、これら二人は殉教者として殺されたからです！ C. H. Spurgeon, “All-Sufficiency Magnified,” *The New Park Street Pulpit*, volume VI, pp. 481-482 参照)。

何世紀も隔ててはいますが、ポリカーブとジェーン・ボウシエは、火刑にされた時、強固な信仰告白をしました。しかし、主イエス・キリストは拷問や死で脅された時、そうされませんでした！ そうです、彼は大祭司に話かけられました。そうです、彼はローマ総督ポンテオ・ピラトにも話かけられました。しかし、彼が死に至るまで鞭で打たれ、十字架に釘づけされた時、預言者イザヤの言葉は、彼は沈黙された、という驚くべき事実を説明しています。

“彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。
ほふり場に引かれていく羊のように、毛を刈る者の前で
黙っている雌羊のように、彼は口を開かない”
(イザヤ書 53 : 7)。

彼らがイエスを打った時、彼は一言も口を開かれませんでした！ 彼らがイエスを十字架に釘づけにした時、彼は一言も口を開かれませんでした！ 私達のテキストを考慮し、そこから三つの事を問いかけ、そしてそれらに答えるという形で深く追求してみましょう。

I. 最初に、イエスと呼ばれるこの方は誰であったか？

預言者がこのように告げているその方は、誰の事だったのでしょうか？

“彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない・・・” (イザヤ書 53 : 7)。

聖書は、彼は栄光なる主、聖なる三位一体の第二位の方、人となられた神の御子であったと告げています！ ニカイア信条は、“真の神からの真の神” と告げています。私達は、イエスを単なる人なる教師、または単なる預言者としてけっして見なしてはなりません！ イエスは、これらの言い方で彼を見なすような可能性を私達に残されませんでした。なぜならイエス御自身がこう言われたからです、

“わたしと父とは一つです” (ヨハネの福音書 10 : 30)。

更に彼はこう言われました、

“イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです”
(ヨハネの福音書 11 : 25)。

もし他の誰かがこのような事を言ったならば、私達は、彼は妄想している、悪にとりつかれている、頭がおかしい、精神が錯乱している、混乱している、などと言うでしょう！ しかし、イエスが彼と父なる神とは一つであると言われた時、そして“わたしはよみがえりであり、命である”と言われた時、そしてそのような言葉に、私達は躊躇し、私達の間でもっとも最悪な者でも、彼は正しくないかもしれないと疑うでしょう！

私は、ルイス (C. S. Lewis) に常に同意するわけではありませんが、誰がイエス・キリストについての彼のよく知られた言葉に同意しないでしょうか？ ルイスはこのように述べています、

私はここで、誰かがイエスについてしばしば語っているようなまったく愚かな事を言うのを妨げようとしている。：すなわち、“私はイエスを偉大な道徳の教師として受け入れようとしている。しかし神であるという彼の断言は受け入れない”ということである。われわれは決してその事だけは言うべきではない。ただの人でイエスが言われたそのような事を言う人は、偉大な道徳の教師ではないであろう。むしろその人は、低級なレベルの狂人であるか、もしくは地獄からの悪魔であるか、のどちらかである。あなたは自分でそれを選択しなければならない。彼は神の御子であったか、そして、そうであるか：もしくは、狂った者あるいはそれ以上にひどい者であったか。あなた方は彼を愚か者として締め出しす事も出来るし、彼につばを吐きかけ、悪魔として殺すことも出来る；それとも、彼の足元にひれ伏し、彼を主、そして神と呼ぶ事も出来る。しかし、彼が偉大な道徳の教師であるというような恩着せがまし言い方をしてはならない。彼は、私達にそのような可能性は残されなかった。彼にはその様な意図は無かった。私達にそのようにはさせておられない。彼はそのようにさせようともおられなかった (C. S. Lewis, Ph.D., *Mere Christianity*, Harper Collins, 2001, p. 52)。

“彼につばを吐きかけ、悪魔として殺すことも出来る；それとも、彼の足元にひれ伏し、彼を主、そして神と呼ぶ事も出来る。・・・あなた方は自分でどちらかを選択しなければならない”のです。なぜなら、イエスはこういわれたからです、

“イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません”
(ヨハネの福音書 14 : 6)

そこに表されています！ あなた方は、イエスを仏教またはヒンズー教と混同することは出来ません。それは単に、イエスは、“私達にそのようにはさせておられない。彼はそのようにさせようともおられなかった”からです。キリストはその他のオプションは残されませんでした。彼は、“だれもわた

しによらないでは、父のみもとに行くことはできない”、とされました。C.S. ルイスが言った様に、“彼につばを吐きかけ、悪魔として殺すことも出来る；それとも、彼の足元にひれ伏し、彼を主、そして神と呼ぶ事も出来る。・・・あなたは自分自身でそれを選択しなければならぬ”。それを信じるか信じないかです。誰もこれに関しては完全に中立ではありません！彼らはその様に見せかけているかもしれませんが、しかし、彼らは決して中立ではありません。“彼は私達にそのような可能性は残されなかった”のです。

II. 次に、なぜイエスは、彼に苦痛を与え、殺した者達の目前で、御自分を守られなかったのか？

なぜでしょうか？

“彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない”
(イザヤ書 53 : 7)。

偉大な科学者であるアルバート・アインシュタイン (Albert Einstein) は、クリスチャンではなかったけれども、このように述べていました、

誰もイエスの存在を感じる事無く [四つの] 福音書を読まずにはいられない。全ての言葉をとおして、彼の人格は胸を打たされる。そのような生き方に何の作り話もない (Albert Einstein, Ph.D., *The Saturday Evening Post*, October 26, 1929)。

それでも、彼がむち打たれ、十字架につけられた時、彼は一言も口を開かれませんでした！なぜキリストは、彼に苦痛を与え、殺した者達に対してご自分を守ろうとされなかったのでしょうか？おそらく、無神論者であるフランス人の哲学者ルソー (Rousseau) がこう言った時に、その疑問に対して近い返答をしています。

もしソクラテスが哲学者のように生き、そして死んだのであれば、イエスは神のように生き、そして死んだ
(Jean-Jacques Rousseau, French philosopher, 1712-1778)。

イエスは御自分を守ることが出来になられなかったのではありません。なぜなら、彼のこの世に来られた真の目的は、苦しみ、そして、死ぬ事だったからです。彼が十字架にかけられる一年前に、彼はそのことを明白にされました。

“その時から、イエス・キリストは、ご自分がエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえらなければならないことを弟子たちに示し始められた”
(マタイの福音書 16 : 21)。

実用新約聖書解説書 (*The Applied New Testament Commentary*) はこのように書き表しています、

ペテロは、イエスは救世主、生きる神の子キリストであるとだけ告白した [マルコによる福音書第 8 章 29 節]。しかし [ペテロ] は、キリストが何のためにこの世に来られたのか理解できなかった。彼は他のユダヤ人達が考えているのと同様にイエスを考慮した。すなわち、キリストはこの世の王になる為に来られた、それゆえ、イエスは多くのことで苦しみ、そして殺されなければならない、とペテロに言われた時に、それを受け入れる事が出来なかった。彼はそのような事を言われたイエスを非難した。イエスは、御自分が三日目に再びよみがえるとも言われた。イエスは、ご自身が死なれるだけではなく、三日目に死からよみがえる事も知っておられた。弟子達は、この事をまったく理解出来ていなかった (Thomas Hale, *The Applied New Testament Commentary*, Kingsway Publications, 1996, pp. 260-261)。

しかし私達はそれを理解すべきです。 聖書はこのように言っています、

“「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世に来られた」” (テモテへの手紙第一 1 : 15)。

十字架で私達の罪のために死なれたことによって、そして、彼のよみがえりによって、私達に命を与えられるのです。 イエスは、むちで打たれ十字架にかけられた時、口を開きご自身を守られませんでした。 なぜなら、イエスがピラトに言ったように、“わたしは真理についてあかしをするために生まれ、また、そのためにこの世にきたのである” (ヨハネの福音書 18 : 37)。

III. 最後に、沈黙の内に犠牲を捧げらるイエスについて、テキストは何を語るのか？

起立して、もう一度イザヤ書第 53 章 7 節を声を上げて読んで下さい

“彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。ほふり場に引かれていく羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない” (イザヤ書 53 : 7)。

着席してください。

“彼はしえたげられ、苦しめられた”。 ヤング博士 (Dr. Young) は、これは、“彼はご自分を苦しめられるように [された] ”、と解釈する事が出来ると言っています。 “苦しみながらも、彼は自ら進んで受けられた・・・彼の口から自己防衛や抗議を發する事もなかった。 誰もピラトの裁きの前で、真の僕が一言も反論されなかった時の成就を思わずに [この預言] を読まずにはいられない。 ‘彼がののしられた時、彼はののしり返す事はされなかった’ [彼が苦しまれた時、彼は脅すような事はなさらなかった] ” (Edward J. Young, Ph.D., *The Book of Isaiah*, Eerdmans, 1972, volume 3, pp. 348-349)。

“そのとき、ピラトはイエスに言った。「あんなにいろいろとあなたに不利な証言をしているのに、聞こえないのですか。」それでも、イエスは、どんな訴えに対しても

一言もお答えにならなかった。それには総督も非常に驚いた”（マタイの福音書 27：13-14）。

“そこで、祭司長たちはイエスをきびしく訴えた。ピラトはもう一度イエスに尋ねて言った。「何も答えないのですか。見なさい。彼らはあんなにまであなたを訴えているのです。」それでも、イエスは何もお答えにならなかった。それにはピラトも驚いた”
（マルコの福音書 15：3-5）。

“彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。ほふり場に引かれていく羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない”
（イザヤ書 53：7）。

イザヤ書 53 章 7 節で、キリストは小羊に例えられています。旧約聖書では、人は、神へのいけにえとして殺す為に羊を用意しました。いけにえとして羊を準備する為に、彼らはその毛を刈り、羊毛をすべて刈り取りました。小羊は毛を刈られる時、静かに立ちました。いけにえとされる小羊が毛を刈られ殺される時に黙っているように、彼は“口を開かない”（イザヤ書 53：7）のです。バプテスマのヨハネもまたこう言って、イエスをいけにえの小羊にたとえました。

“「見よ、世の罪を取り除く神の小羊”
（ヨハネの福音書 1：29）。

あなた方が信仰を通してイエスに来る時、彼の十字架の上での犠牲はあなた方のすべての罪を償い、そうしてあなた方は神の御前に罪無くして立つのです。あなた方の罪は、十字架でのイエスの死によって贖われるのです。そして、あなたの罪は十字架で流された血によって清められるのです。

アメリカの原住民インディアンへの宣教師として有名なデイビッド・ブレイナー（David Brainerd）は、宣教を通してこの真実を宣言しました。彼がインディアンに向かって説教をしている時、彼は、“私は決してイエスとその方の犠牲から離れる事は出来ない。私はこれらの人々が、私達の為のキリストの偉大な犠牲の重要性によっていったん強く引きつけられるやいなや、彼らの習性を変える事に関して多くの指導を私は与える必要はなかった、という事を見出した”（Paul Lee Tan, Th.D., *Encyclopedia of 7,700 Illustrations*, Assurance Publishers, 1979, p. 238）。

私は今日でもそれが真実である事を知っています。いったんこの事を知ることで、

“キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと”（コリント人への手紙第一 15：3）。

そして、あなた方が、十字架につけられ、よみがえられた救い主に一度もろ手を挙げるならば、あなた方はクリスチャンなのです。後は、説明する事と理解する事は比較的簡単です。信仰によってキリストを信頼しなさい、そうすればあなたは救われます!

スポルジョンが死の床についている時、彼は、“私の神学は一‘イエスは私の為に死なれた’”という短い言葉に見出される。もし私がもう一度立ち上

がるならば、これは私が説教をする全てだとは言わない、しかしそれは命を賭ける以上の事である。 イエスは私の為に死なれた” (Tan, 同著)。 あなたはそうに言えますか？ もしそうでなかったら、今晚、あなたもよみがえられたイエスに来て、彼を信頼しませんか？ “イエスは私の為に死なれました。そして、私は彼の御血と正義による、完全なる救いの為に彼に来ます、と言いませんか？” 神があなたにそうされるよう純真な信仰を与えて下さいますように！ アーメン。

起立してソングシートの賛美歌 8 番、チャールズ・ウェスリー (Charles Wesley) による “それは可能であろうか? (“And Can It Be ?”)" を歌ってください。

救い主の御血に関心をもつ事は
 我れに 可能であろうか？
 彼に苦悩をもたらせた我が為に？
 彼を死へと追いやった我が為に 彼は死なれたのか？
 驚くべき愛！ そなた、わが神、
 我が為に死なれるとは、いかに可能であろうか？
 驚くべき愛！ そなた、わが神、
 我が為に死なれるとは、いかに可能であろうか？
 (“And Can It Be?” by Charles Wesley, 1707-1788).

もしあなたが、イエスがあなたの罪をゆるし、そしてあなたの魂を救って下さることを確信するなら、あなたがクリスチャンになることに関してお話ししたいと思います。 あなたの席を立ててこの集会場の後方に出て来て下さい。 ケイガン先生が私達が静かにお話ができる部屋へ案内しと導かれます。 今、この集会場の後へ行ってください。 リーさん、これらの方達の為にお祈りして下さい。 アアメン。

要 綱

小羊の沈黙

(イザヤ書第 53 章からの説教、その 8)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

“彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。ほふり場に引かれていく羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない” (イザヤ書 53 章 7 節、新改訳)。

- I. 最初に、イエスと呼ばれるこの方は誰であったか？
ヨハネの福音書 10 : 30 ; ヨハネの福音書 11 : 25 ;
ヨハネの福音書 14 : 6。
- II. 次に、なぜイエスは、彼に苦痛を与え、殺した者達の目前で、御自分を守られなかったのか？ マタイの福音書 16 : 21 ;
テモテへの手紙第一 1 : 15 ; ヨハネの福音書 18 : 37。
- III. 最後に、沈黙の内に犠牲を捧げらるイエスについて、テキストは何を語るのか？ マタイの福音書 27 : 13-14 ;
マルコの福音書 15 : 3-5 ; ヨハネの福音書 1 : 29 ;
コリント人への手紙第一 15 : 3。

キリストの贖罪の描写 (イザヤ書第 53 章からの説教、その 9)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

ロスアンゼルスのパプテストタバナクル教会にて
2013 年 4 月 7 日、主の日の朝の説教

A DESCRIPTION OF THE ATONEMENT (SERMON NUMBER 9 ON ISAIAH 53)

by Dr. R. L. Hymers, Jr.

A sermon preached at the Baptist Tabernacle of Los Angeles
Lord's Day Morning, April 7, 2013

“しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことだろう。彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ、生ける者の地から絶たれたことを”。（イザヤ書 53：8、新改訳）

この一節前にイザヤは、キリストの沈黙についてこう述べています、

“・・・ほふり場に引かれて行く羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない”
(イザヤ書 53：7)。

エドワード・ヤング博士は、“キリストの苦悩を通して、彼の沈黙なる忍耐を強調することにより、この預言者はその苦悩についてより詳しくここで描写している” (Edward J. Young, Ph. D., *The Book of Isaiah*, Eerdmans, 1972, volume 3, p.351)。

“しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことだろう。彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ、生ける者の地から絶たれたことを” (イザヤ書 53：8)。

この節は当然のごとく、次の三つの要点に分かれます。(1) キリストの苦悩、(2) キリストの世代、そして (3) キリストによる、私達の罪の為の身代わり、です。

I. 最初に、テキストは、キリストの苦悩を描写している。

“しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことだろう。彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ、生ける者の地から絶たれたことを” (イザヤ書 53：8)。

キリストはゲツセマネの園で捕えられました。彼は宮の守衛長によって大祭司の下に連れて行かれました。彼らは大祭司カヤパの前に、そしてユダヤのサンヒドリン（最高裁判所の全議会）の前に引き出されました。彼は偽証者達によってこの裁判所で有罪と判決されました。イエスはこう言われました、

“・・・今からのち、人の子が、力ある方の右の座に着き、天の雲に乗って来るのを、あなたがたは見るようになります”（マタイの福音書 26：64）。

すると大祭司は、

“どう考えますか。」彼らは答えて、「彼は死刑に当たる」と言った。そして、彼らはイエスの顔につばきをかけ、こぶしでなぐりつけ、また、他の者たちは、イエスを平手で打って”（マタイの福音書 26：66-67）。

“さて、夜が明けると、祭司長、民の長老たち全員は、イエスを死刑にするために協議した”（マタイの福音書 27：1）。

しかし、ローマ法の下では、彼らにはこの行いをする権威はありませんでした。ですから、

“それから、イエスを縛って連れ出し、総督ピラトに引き渡した”（マタイの福音書 27：2）。

ピラトはイエスに尋問し、

“そこで・・・イエスをむち打ってから、十字架につけるために引き渡した”（マタイの福音書 27：26）。

その様に、私達のテキストのこの部分は成就しました、

“[大祭司の目前で、そしてピラトの目前での] しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことだろう。彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ、生ける者の地から絶たれたことを”（イザヤ書 53：8）。

ユダヤ人のサンヒドリン（最高裁判所の全議会）とピラトにより、イエスが捕らわれたことは、“彼は暴虐なさばきによって取り去られた”という聖句を成就させました。カヤパとピラトの目前での裁判は、“さばきによって”とある聖句を成就させました。しいたげと裁き、そして、十字架につけられ、死んだカルバリーと呼ばれる丘へ取り去られ、彼は、この“いけるものの地から断たれたのだ”という聖句が成就したのです。

ギル博士（Dr. Gill）はこのように書いています、

彼は苦痛と裁きによって取り去られた；それは、不当な裁判の下で、彼の命が暴虐なふるまいによって取り去ら

れたのである；しかるに、〔実際に〕彼になされたその〔最悪なる〕不法は；彼に対し不当な宣告を下したのである。偽りを言った証人達は〔誤った宣誓をするよう買収され、そのようにイエスに対して偽証を犯したのである〕、そして、使徒行伝第8章32節で、〔“彼は、ほふり場に引かれて行く羊のように、また、〈黙々として〉、毛を刈る者の前に立つ小羊のように、口を開かない”〕と〔描写されているように〕彼の命は邪悪な者達の手によって取り去られたのである。 *屈辱の中での判決*により、彼は取り去られた：彼は通常の公正な裁きを〔受けなかった〕（John Gill, D.D., *An Exposition of the Old Testament*, The Baptist Standard Bearer, 1989 reprint, volume V, p. 314）。

私達のテキストが述べているように、

“しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことだろう。彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ、生ける者の地から絶たれたことを”（イザヤ 53：8）。

II. 次に、そのテキストはキリストの時代の人々を表している。

このテキストの中ほどには、説明することが幾分困難な語句があります、

“しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことだろう。彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ、生ける者の地から絶たれたことを”（イザヤ 53：8）。

“彼の時代の者で、だれが思ったことだろう”。 ギル博士はこの語句について、“その時代〔もしくは彼が生きた世代〕、彼が生きた時代の彼に対する残虐行為を行った人達、そして、彼らの非難すべき邪悪は、〔完全に〕口に出して言明する事も、または、人の手によって〔完全に〕書き表す事も出来ないような事である”と述べています（Gill, 同著）。私達が、彼らの罪無き神の御子に対して投げかけたそのような残酷さ、そして不正行為について読む時、それは私達を恐怖に陥らせ、また私達の心に悲しみをもたらします！ ジョセフ・ハート（Joseph Hart, 1712-1768）は、彼の悲嘆な気持ちを謳った讚美歌でこのように表現しています、

どんなにかイエスは耐え忍ばれたかを見よ、
（この醜い場で）侮辱され！
罪人は、全能なる方の手を縛りあげ、
そして、自らの創造主の御顔につばを吐く。

とげにより彼のこめかみは、深く血のりし傷つき、
流れ出る血があらゆる部分にほとぼしる。
彼の背は、結び目のあるむちで打たれ
されど、より鋭いむち打ちは彼の心を引き裂く。

裸にされ、のろわれた木に釘付けされ、
 天と地にさらされた
 傷と血による哀れな光景、
 傷つく愛の、驚くべきことなり！
 (“His Passion” by Joseph Hart, 1712-1768;
 to the tune of “’Tis Midnight, and on Olive’s Brow”)、

ジョン・トラップ (John Trapp) は、“誰が彼の世代について表現または描写出来るであろうか？ 彼の生きていた時代の人々の邪悪について [誰が思ったことであろう] ”と述べています (John Trapp, *A Commentary on the Old and New Testaments*, Transki Publications, 1997 reprint, volume 3, p. 410)。

なぜ、それらのユダヤの指導者達がイエスを十字架につけることを望んだか。なぜ、ローマ兵卒達が“葦の棒でイエスの頭をたたいたり、つばきをかけたり、・・・イエスを十字架につけるために連れ出した” (マルコの福音書 15:19-20) かを、人の口で説明することは困難です。

“そして、死罪に当たる何の理由も見いだせなかったのに、
 イエスを殺すことをピラトに強要したのです”
 (使徒行伝 13:28)。

ジョン・トラップが、“誰が彼の世代について表現または描写出来るであろうか？ 彼の生きていた時代の人々の邪悪について”と述べているように、

“しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。彼の
 時代の者で、だれが思ったことだろう。彼がわたしの民
 のそむきの罪のために打たれ、生ける者の地から絶たれた
 ことを” (イザヤ 53:8)。

ヤング博士 (Dr. Young) は、“その動詞は [思った]、黙考、もしくは何かについて真剣に思う事を暗示している・・・彼らは [イエスの死の意図] を考察すべきであったが、彼らはしなかった” (Young, 同著, p. 352)。

今日、それはどのように困難なことでしょうか？ 何億という人々が真剣に考える事無く、イエスの十字架での死について耳にします。“彼らは、考察すべきであったが、彼らはしなかった”。だれがキリストの受難に関して深く考えるでしょうか？ あなた方はどうですか？ あなた方はキリストの死について、そのことがあなた方にとってどんな重要性があるかを、時間をかけて考えていますか？

“誰が彼の世代について表現または描写出来るであろうか？ 彼の生きていた時代の人々の邪悪について”と、ジョン・トラップは言いました。そして且、イエスを十字架につけた人々は、今日回心していない人々に非常によく似ています。今日、人々はキリストの死の重要性についてさほど真剣に考えようとしません。“キリストの受難”が映画化された時、多くのニュース解説者達は、映画は、それを見る人達に大きな影響を及ぼすであろうと言いました。彼らは福音への関心の復興を奮起させるであろうと言いました。ある人達は、若者の群集を教会へと導かせるであろうとも言いました。

その映画は 2004 年に放映されました。9 年前に公開されたのです。それらの解説者達が正しいことを知る時間は、十分にありました。その映画で描写されたキリストの受難の迫真性は、それを見た多くの人達に精神的な影響を

及ぼしました。しかし、私達はそれを見た人達に長く残る印象を与えなかったことを現在知ります。彼らは再び自己中心的な、邪悪な生活へ戻って行きました。それが正に罪の真髄なのです。回心していない人々は、キリストの受難に関して些細な悲しみしか体験出来ないのです。しかしそうであったとしても、それは些細な罪に対する些細な後悔なのです。彼らは、何時間もの“ネット・サーフィン”、金銭的な欲、神の存在しない生活、際限のないビデオゲーム、教会へ出席しない、彼ら自身を創造された神を無視、そして、彼等を救う為に十字架で苦しめられたキリストについてほとんど考えない、元の生活へと戻っています。“彼の時代の者で、だれが思ったことだろう”？ イエスが十字架につけられた時の人々は、あなた方の世代の人々とほとんど同じです！ 彼らは、邪悪な快樂以上の何物の為にも生きず、自己愛をもった、神を拒絶する者達なのです。それはあなた方の世代の人達の完全なる描写ではありませんか？ そしてもし、あなた方は自分自身に真に正直になるならば、それはあなた方を完璧に表現するものではありませんか？ あなた方は神について考える事に時間を費やしていますか？ 毎日どれほど祈りに時間を費やしていますか？ キリストの血まみれの十字架が、あなた方の日々の生活にどれほど影響をもたらしていますか？ もしあなた方が自分自身に正直になるならば、キリストを拒絶し、彼を十字架につけ、自己主義な生活へと、彼にそっぽを向いて行った世代の人々と、あなた方は全く異なる、と知ると私は思います。それが罪の本質なのです。それが正に罪の真髄なのです。それがあなた方が罪人であることを証明するのです。そして、キリストの時代に生きた人々と正に同じように、あなた方は非難されるべきなのです。あなた方は毎週教会に来て、単に“見えるところは敬虔”（テモテへの手紙第二 3:5）であるだけなのです。そして、それが全てあなた方の真実であるからには、どのようにしてあなた方は全能の神からの怒りと裁きを逃れる事が出来るのでしょうか？ マーティン・ロイドジョーンズ博士（Dr. Martyn Lloyd-Jones）の生涯について書いたイアン・ムレイ氏（Rev. Iain H. Murray）は、最近の彼の本の中でこのように書いています、

ロイドジョーンズ博士が、神の御前に映る、人の罪の真に迫った危機を説教するのは、回心していない者達の頭上に下る神の怒り、そして、‘うじは、尽きることがなく、火は消えることが’ない地獄の、後に来る罪の裁き等の確実性を説教する意図をもつのである（Iain H. Murray, *The Life of Martyn Lloyd-Jones, The Banner of Truth Trust*, 2013, p. 317）。

III. 最後に、このテキストはキリストの苦悩の深い意味を描写している。

起立して、イザヤ書第 53 章 8 節の最後の、“彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ”の箇所に注意を払って、声を上げて読んでください。

“しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことだろう。彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ、生ける者の地から絶たれたことを”（イザヤ 53:8）。

着席してください。

メルル・アンガー博士（Dr. Merrill F. Unger）は、

17 世紀の間、[イザヤ書第 53 章における救世主に関するの解釈] は、クリスチャン [そして] ユダヤ教の権威者達の間における唯一の解釈であった。[後にユダヤ人達] は、それがキリストに関するの著しい成就であったが為に、この章の見解を故意に放棄した (Unger, 同著, p.1293)。

今日、多くのユダヤ教の学者たちは、この章全体は、キリストではなくユダヤ人の苦悩を表していると言っています。ユダヤ人達は、偽クリスチャン達によって激しく虐げられたけれども、これは私達のテキストの本当の意味であるはずはありません。なぜなら、“彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ” (イザヤ書 53 : 8) と明白に書かれているからです。“彼はわが民のとがのために打たれて” の箇所に関して、ヘンリー・モリス博士 (Dr. Henry M Morris) は、“彼は ‘わたしの民’ —イスラエルについて—のために死なれたので、この節の [キリスト] は、多くの人達が断言しているようなイスラエルではない” (Henry M. Morris, Ph.D., *The Defender's Study Bible*, Word Publishing, 1995, p. 767) と言っています。ですから、真の意味は、ユダヤ人が打たれたのではなく、むしろキリストが彼らに代わって、彼らの罪の為に、彼らの罪に対する報いを償う為に、そして私達の罪の為に打たれたのです。キリストは私達の罪の贖いの為に、十字架につけられたのです！

ギル博士は、“わたしの民のそむきの罪のために打たれ” という聖句は、ユダヤ人達と選ばれたクリスチャン達に向かって適用され—すなわち、キリストは、イスラエルの罪、そしてクリスチャンである“彼の民”の罪の為に打たれた事を表していると言っています (Gill, 同著, p. 314)。私は、ギル博士はこれらの言葉の真の意味を言い表していると思います。

“彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ”
(イザヤ 53 : 8)。

キリストは、彼らがユダヤ人であろうと異邦人であろうと、彼の民の罪を償う為に十字架で“打たれた”のです。彼の死は身代わりの死であり、キリストは私達の罪を償う為に死なれたのです。それはなだめることであり、罪人から神の怒りをそむける事なのです。

しかし、それには一つの条件が伴います。キリストがあなた方の罪を償うには、あなた方が信仰によってキリストを信頼しなければなりません。キリストの十字架での罪の償いは、イエスを信頼しない人は誰も救われません。あなた方がイエスに服従する時のみに、あなた方の罪は救い主の御血によって神の記録から消されるのです。

あなた方は、この聖句の全ての意味を知る事は出来ても、救われません。悪魔には、これらの事に関する完全な知識があります。それは彼を救いません。使徒ヤコブは、“悪霊どもでさえ、信じておののいている” (ヤコブの手紙 2 : 19) と言っています。悪魔達には、キリストの償いなる死についての“知識”があるだけです。あなた方が救われる事を望むならば、それ以上の事をしなければなりません。あなた方は、キリストに屈服し、彼を信頼しなければなりません。あなた方は、神の恵みによって回心しなければなりません。そうでなければ、あなた方は、彼の十字架での死についての記憶を持って、地獄へ下っていくでしょう。

トーマー博士が、“決断主義”に異議を述べ、真の回心を強調している事に注目して下さい。博士は言いました、

信仰の回心について、全ての扱いが機械的にそして真意の無いものとされてきた。信仰は、今では道徳的な生活と関わりなく、アダムの自我を恥じる事無く実習されている。キリストを受け入れる者の心に、彼にに対する何の特別な“愛”も生じる事なく、キリストは“受け入れ”られているようである (A. W. Tozer, D.D., *The Best of A. W. Tozer*, Baker Book House, 1979, page 14)。

宗教的回心の全ての扱いが、機械的に、そして真意の無いものとされてきた—そして、それはしばしばキリストの存在しないものである事を私は付け加えます！ “決断主義”は、単に手短な祈りをし、洗礼を受け、それで全てを終える扱いをしています。しばしば、キリストの死とよみがえりについてはほとんど口にも出されません。時折それらは完全に抜かされています。それは聖書が教えていることではありません。聖書は、あなた方は自分の罪に対して罪悪感を持たなければならぬと教えています。そして、キリストに来ること無しには、罪とそれによって生じる状態から逃れる道はないことを見出し、彼の御前に無力な自分自身を横たえる事、そして心の奥底からイエスを信頼することを教えています。そしてその時のみに、あなた方は預言者イザヤが意図している事を経験によって把握するでしょう。イザヤはこう言いました、

“彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ”
(イザヤ 53 : 8)。

あなた方が、信仰によってイエス・キリストを信頼する時、彼の御血はあなた方の全ての罪を清め、あなた方は回心するのです—しかし、その様な事が起る以前ではありません。いいえ、それ以前には、けっして起こりません！ もしあなた方が救われたならば、イエス・キリストを信頼しなければなりません！

では、起立して下さい。あなた方はイエスを信頼することに関して私達と語りたならば、今席を立ててこの集会場の後ろの方へと出て行って下さい。キリストに服従し、あなた方の罪をイエスの御血によって清められる事に関して、私達があなた方と話しが出来る部屋へ、ケイガン先生が案内します。リーさん、応答された方の為にお祈りして下さい。アァメン。

要 綱

キリストの贖罪の描写

(イザヤ書第 53 章からの説教、その 9)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

“しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことだろう。彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ、生ける者の地から絶たれたことを”。 (イザヤ書 53 : 8、新改訳)

(イザヤ書 53 : 7)

- I. 最初に、テキストは、キリストの苦悩を描写している
イザヤ書 53 : 8 甲 ; マタイの福音書 26 : 64, 66-67 ; 27 : 1-2, 26 ;
使徒行伝 8 : 32。
- II. 次に、そのテキストはキリストの時代の人々を表している
イザヤ書 53 : 8 乙 ; マルコの福音書 15 : 19-20 ;
使徒行伝 13 : 28 ; テモテへの手紙第二 3 : 5 ;
ローマ人への手紙 3 : 23。
- III. 最後に、このテキストはキリストの苦悩の深い意味を描写している。
イザヤ書 53 : 8 丙 ; ヤコブの手紙 2 : 19。

キリストの埋葬のパラドックス

(イザヤ書第 53 章からの説教、その 10)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

ロスアンゼルスのパプテストタバナクル教会にて
2013 年 4 月 7 日、主の日の晩の説教

THE PARADOX OF CHRIST'S BURIAL

(SERMON NUMBER 10 ON ISAIAH 53)

by Dr. R. L. Hymers, Jr.

A sermon preached at the Baptist Tabernacle of Los Angeles
Lord's Day Evening, April 7, 2013

“彼の墓は悪者どもとともに設けられ、彼は富む者
とともに葬られた。彼は暴虐を行わず、その口に
欺きはなかった” (イザヤ書 53 : 9、新改訳)。

キリストの埋葬についての説教を、あなた方は何回ほど聞いたことがありますか？ 私は 55 年間説教を続け、59 年間教会に通っていますが、一度も聞いたことがありません。私はキリストの埋葬についての説教を書面で読んだ覚えもありません。私達は、そのことに関して何度も聞いてしかるべきなのです。彼の埋葬は重要で無い事ではありません。実際、それは福音の第二の要点なのです！

“キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために
死なれたこと” (コリント人への手紙第一 15 : 3)。

これは福音の第一の要点です。

“また、葬られたこと”
(コリント人への手紙第一 15 : 4)。

それは福音の第二の要点です。

もし私達が、福音の第二の要点をまったく説教しないならば、私達が福音を説教していると、どうして言えるのでしょうか？ しかし、そうして、最初の要点、もしくは三番目の要点に焦点をあてた説教さえも、今日では数少ないのです！ それは、現代の説教の大きな弱点の一つです。私達は福音を中心とした説教をしなければなりません。私達はキリストの成された事をより重んじて取り上げ、それを私達の説教の中で重要視しなければならないのです。

多くの人達は今日、偉大な説教は稀であると悲観します。私はまったく同意します。今日、すばらしい説教は非常に稀にしか聞かれませんが、本当に稀です！ しかし、どうしてなのでしょう？ それは主に、福音の説教がほとんど成されていないからです。牧師は、彼らの教会が文字道理不信者で満ちているにも関わらず、不信者の人達に向かって福音を説教するのではなく、“ク

リスチャン達を教えている”のです！ そのようなものは、偉大な説教ではありません！ キリストが中心でないならば、それは決して真の意味ですばらしい説教ではないのです！

福音の知識は、キリストについての事柄を知る事より、はるかにそれ以上のものです。 真の福音の知識は、キリスト御自身を認識することです。 イエスはこのように言われました、

“その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神である
あなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知
ることです”（ヨハネの福音書 17:3）。

ジョージ・リッカー・ベリー（George Ricker Berry）は、その聖句にある、“知る”と訳された言葉は、“体験によって・・・知ること”の意味である、と言いました（*Greek-English New Testament Lexicon*）。 真のクリスチャンになるためには、私達は体験によってキリストを知らなければなりません。 単なる事実の知識は、人を真のクリスチャンにはしません。 私達は体験によって、私達の罪のための彼の死を知らなければなりません。 私達は体験によって、彼の埋葬を知らなければなりません。 私達は体験によって、彼の復活を知らなければなりません。 それが救いへの道です。 それが永遠の命への道なのです。

“その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神である
あなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知
ることです”（ヨハネの福音書 17:3）。

あなた方にそれらの体験が無かったならば、私があなた方を不安にさせている事を望みます。 あなた方が真のクリスチャンでない事に疑いはありません。 なぜなら、あなた方は真の回心を体験していないからです。 あなた方の心が変わり、イエスの足元にひれ伏し、イエス御自身のみ真の救いを見出すまで、あなた方は悩まされ、また失望させられなければなりません。

キリストを知る為には、十字架へ行き、信仰をとおして、私達の罪を贖う為に十字架につけられたイエスを仰ぎ見ることです。 あなた方は信仰によってキリストの墓へ行き、

“死にあずかるバプテスマによって・・・葬られ・・・”（ローマ人への手紙 6:4甲）。

なぜなら、彼と共に死ぬことで、私達が“いのちにあって新しい歩みをするため”（ローマ人への手紙 6:4乙）によみがえるからです。

ですから、私達は彼の埋葬を学ぶ為にこのテキストに来ます。 そうして私達は、彼と共にそれを体験することが出来るのです。

“彼の墓は悪者どもとともに設けられ、彼は富む者とともに葬られた。彼は暴虐を行わず、その口に欺きはなかった”（イザヤ書 53:9）。

私達は、この節にキリストの埋葬のパラドックス、一見矛盾にみえる謎を見出します。 そうして私達はその謎の答えを見出します。

I. 最初に、彼の埋葬についてのパラドクス。

“彼の墓は悪者どもとともに設けられ、彼は富む者とともに葬られた・・・”（イザヤ書 53 : 9）。

その“悪者ども”とは強盗達でした。その“富む者”とは高貴な尊敬されている者達でした。どうしたら彼の墓が悪しき者と共に設けられ、それと同時に、それは富む者と共にありえるのでしょうか？この事は古代のユダヤ教の注釈者達を戸惑わせました。これは彼らの思いにはパラドクスでした。

しかし、この謎はヨハネの福音書の中で解かれます。イエスは、彼の右手と左手の二人の強盗達の間で十字架につけられ死なれました。彼らは、私達のテキストの“悪者ども”を指しています。イエスが最初に息を引き取られました。しかし、その二人の強盗達はしばらく生きながらえていました。

“その日は備え日であったため、ユダヤ人たちは安息日に（その安息日は大いなる日であったので）、死体を十字架の上に残しておかないように、すねを折ってそれを取りのける処置をピラトに願った”
（ヨハネの福音書 19 : 31）。

兵卒達は二人の強盗達の足を折りました。それは、彼らが自分の身体を引き上げて息をする事が出来ないように、そうして即座に息を引き取るようにする為でした。しかし、兵卒達が十字架につるされたイエスに来た時に、彼はすでに死なれていました。彼らの一人が、イエスの死を確認する為彼のわき腹をやりで突き刺しました。水と血がほとぼしり、そのことは、心拍が停止し死んだ事を表しています。

彼は象牙の王座にはつかれなかった
彼はカルバリーの十字架につけられ死なれた
彼の、失われた罪人をかぞえられ
十字架より彼の御国をご覧になった。
みずぼらしい十字架が彼の王座となり
彼の御国は心の中のみであり
彼は御自分の愛を血の赤色で描かれ
そうして頭上に冠をおかれた。
（“A Crown of Thorns” by Ira F. Stanphill, 1914-1993).

しかし、予期していなかった事が起こりました。非常に重要な二人が現れ、イエスの身体を引き取る事を要求しました。その二人は、裕福でユダヤの衆議所の議員であるアリマタヤのヨセフと、以前、夜中にイエスのもとに来たユダヤ人の指導者であるニコデモでした（ヨハネの福音書 3 : 1-2、参照）。彼ら両者は密かにイエスの弟子となり、今ここで、初めて公に現れ出ました。実際に、命を危険にさらしてまでも、彼らはそうしたのです。マックギー博士はこのように言っています、

これらの人達に対して、あまり批判的にならないように。
彼らはこの時まで公に出てこなかったが、今は主の弟子達はみな羊のように散ってしまい隠れてしまった。それにもかかわらず、これら二人は人前に出てきたのである

(J. Vernon McGee, Th.D., *Thru the Bible*, Thomas Nelson, 1983, volume IV, p. 494)。

アリマタヤのヨセフとニコデモは、イエスの身体を引き取りました。金持ちであったヨセフは、イエスの身体を彼の墓に納めました。

“岩を掘って造った自分の新しい墓に納めた。墓の入口には大きな石をころがしかけて帰った”
(マタイの福音書 27 : 60)。

このように、キリストの埋葬についての矛盾と思われた事は、明白にされました。そうです、強盗達二人の間に置かれた十字架で彼が死なれたことが、彼の墓は悪しき者と共に設けられた、言われる所以です。しかし、彼は金持ちの人の墓に“富む者とともに”(イザヤ書第 53 章 9 節) 葬られたのです。キリストは悪人のような死に方をされましたが、金持ちと共に立派な埋葬をされたのです。これは、私達の主イエスの屈辱が終わっていった事を示しています。彼の身体はその二人の強盗達と共に一般の墓へは投げ捨てられませんでした。彼の身体は、金持ちで高貴な人の墓に、彼に値する尊敬と敬意を払われ置かれました。そうして、私達のテキストを学んだ古代のユダヤ教の指導者達をしばしば惑わせた、そのパラドクスは明白にされました。

“彼の墓は悪者どもとともに設けられ、彼は富む者とともに葬られた。彼は暴虐を行わず、その口に欺きはなかった”(イザヤ書 53 : 9)。

しかし、キリストの墓が悪者どもと共に設けられ、富む者と共に彼が葬られた事に、もうひとつの理由があります。イエスがこれらの両方の者達と“彼の墓は・・・設けられ”た事は、古代のラビは、“悪者ども”と“富む者”を分ける事によって、彼らが正当ではなかったことを示しています。彼らは二つのグループなのではありません。両方のグループは罪人だったのです。

そして、それは今日でも同じです。尊敬されている人達も、“悪者ども”と呼ばれている人達と等しく罪人です。私がこの説教を書いている時、テレ・マーケターから電話がありました。“保守派の教会”への奉仕・寄付を求めてきました。その人は、“妊娠中絶、イスラエルへの支持を怠る問題、そして、同姓結婚の問題の内、どれがアメリカに直面している最も重要な問題であると思いますか?”と私に尋ねました。私は、“それらが問題では無い。アメリカが直面している最も重要な問題は、今日の牧師達が、彼らの教会の会員達の罪に対して説教していない事です”と答えました。それはどういうことでしょうか? 妊娠中絶、イスラエルへの支持を怠る事、同姓結婚等は、症候であって、実際の病気ではない。それらは病気による症候であるという事です。症候を直そうすることは出来ます、しかし、その病気の原因を直さない限り何の益にもならないでしょう。その病気は罪なのです。リベラル主義と保守主義を滅ぼしている罪、民主党と共和党を滅ぼしている罪、“悪者ども”と“金持ち”を地獄に落とす罪、なのです。罪は心の内に潜みます。人の心は邪悪であり、外見的な行動だけではありません。罪は人の思いと願望をコントロールします。あなた方の邪悪な心は、不当な事についてあなた方を惑わします。そうして、あなた方の邪悪な、生まれついてもった思いが、神への反抗を生み、あなた方を惑わす罪を犯すようにコントロールしているのです。罪はあなた方の心の内

を支配し、権威者に反抗し、神に反抗するように仕向けるのです。あなた方の反抗心が神に対して強く拮抗し、何らあなた方を変える事もなく、また、あなた方もその支配を打ち壊す事が出来ないのです。あなた方は、“私は、ほんとうにみじめな人間です。誰がこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか”（ローマ人への手紙7:24）と、使徒パウロに同意させるところまでもたらされなければなりません。そうされてのみ、あなた方は、“悪者ども”と共に設けられ、そして“富む者”と共に“葬られた”イエスの重要さを理解するでしょう。あなた方の育った背景がどうであろうと、キリストは死なれ、そして埋められました。そうして、あなた方の罪は取り除かれ、ゆるされるのです。チャプマン博士（Dr. J. Wilbur Chapman）は、彼が書いた賛美歌の中で、“葬られ、彼は我が罪を取り去られた”（“One Day” by Dr. J. Wilbur Chapman, 1859-1918）と訴えました。キリストのみが、あなた方の罪をゆるすことが出来るのです！キリストのみが、あなた方の罪なる反抗的な心を変えることが出来るのです！

“彼の墓は悪者どもとともに設けられ、彼は富む者とともに葬られた”（イザヤ書53:9）。

II. 次に、そのパラドクスは明確にされた。

私達のテキストの後半分は、キリストが強盗達二人と共に不名誉な形で死なれた事、敬意と尊敬を払われた形で葬られた事の理由を示しています。起立して、“彼は暴虐を行わず・・・”（イザヤ書53:9）の言葉で始まる最初の半分を読んでください。

“彼の墓は悪者どもとともに設けられ、彼は富む者とともに葬られた。彼は暴虐を行わず、その口に欺きはなかった”（イザヤ53:9）。

着席してください。

これは、キリストの立派な埋葬の理由を表しています。この敬意は彼に向けられました、なぜなら、彼は暴虐を行わず、もしくは、誰も傷つけるような事を行わなかったからです。彼は、脅迫、強盗、人殺し、そして、どんな無慈悲な罪をも犯されませんでした。彼は群集を扇動するような事、またユダヤ人達の、そしてローマ人達の支配権に対して暴動を起こすような事もなさいませんでした。その口に欺きはなかった。彼は誤った教えをされた事も決してありませんでした。彼は、偽り者どもの偽証で罪を課せられましたが、人々をだますような事など決してなさいませんでした。彼は、真実の神を崇拝する事を、誰からも引き離すような事は企てられませんでした。彼は、常にモーゼと預言者達の律法を支持し守られました。彼は、彼らの宗教や国家の敵ではありませんでした。まったく、彼は何の罪も犯されませんでした。使徒ペテロはこう言っています、

“キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした”
（ペテロの手紙第一2:22）。

ヤング博士 (Dr. Young) は、“ [キリスト] は、彼の不名誉な死の後、彼の完全なる無実のために敬意をもって埋葬された。彼は、犯罪者達のような行いをされなかった [ので]、彼らと共に、不名誉な埋葬は成されなかった。むしろ、彼には裕福な者達と共に立派な埋葬がなされた”。

その事は、英国を裏切った、父親の政敵達、そして、ヒットラーとナチ・ドイツへの裏切り行為をとった、彼自身の政敵達のために執り行われたウェストminster寺院 (彼思うに、名誉に劣る場所) での、国葬級の葬儀をもって自らの亡骸を埋葬されることよりも、むしろ、郊外の教会にある父親の墓地の横で、名誉なる埋葬を選んだウインストン・チャーチル (Winston Churchill) を思わせます。チャーチルはクリスチャンではなかったけれども、彼は尊敬に値する人でした。当然の如く、イエスはこの世に生きた最も偉大な方でした。そうです、彼は、人であられ、今でも人であられます。“それは人なるキリスト・イエスである” (テモテへの手紙第一 2:5)。彼の偉大なる事は、父なる神の御前で、私達の罪を償う為に、自ら御自分の命を与えられた事にあるのです。彼が十字架につけられる少し前に、イエスはこう言われました、

“人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません”
(ヨハネの福音書 15:13)。

みずぼらしい十字架が彼の王座となり
彼の御国は心の中のみであり
彼は御自分の愛を血の赤色で描かれ
そうして頭上に冠をおかれた。

さて皆さん、キリストと呼ばれるイエスをどのように扱われますか？ ルーイス (C.S. Lewis) が指摘したように、可能な対応が二つあります—すなわち、“あなたは、悪霊として彼につばをかけ殺すことができる；もしくは、あなたは、彼の足元にひざまずき、彼を主、そして神と呼ぶことができる”。あなた方はどちらでしょうか？ また、唯一、第三番目の選択肢は、彼を完全に無視して、イエスの痛みと苦悩を無意味なものとして、あなた方の生き方を続ける事です。私は、救い主をそのように不名誉に扱う人達に対して、非常な哀れみを感じます。あなた方がそのような人達の一人とならないことを願います。

ゲッセマネを忘れないよう
汝の苦悩を忘れないよう
我が為の汝の愛を忘れないよう
我をカルバリーに導き給え
("Lead Me to Calvary" by Jennie E. Hussey, 1874-1958).

あなた方がイエスに来て、心から彼を信頼し、真のクリスチャンの回心を通して、死から命へと移り変わるよう私はお祈りします。

では起立してください。 イエスによってあなたの罪から清められることについて私達と話したいならば、今あなたの席を立って、この会場の後方へ進み出て下さい。 私達があなたと話しが出来る部屋へ、ケイガン先生が案内します。 リーさん、応答された方の為にお祈りして下さい。 アァメン。

要 綱

キリストの埋葬のパラドックス

(イザヤ書第 53 章からの説教、その 10)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

“彼の墓は悪者どもとともに設けられ、彼は富む者とともに葬られた。 彼は暴虐を行わず、その口に欺きはなかった” (イザヤ書 53 : 9、新改訳)。

(コリント人への手紙第一 15 : 3-4 ;
ヨハネの福音書 17 : 3 ; ローマ人への手紙 6 : 4)

- I. 最初に、彼の埋葬についてのパラドクス。
イザヤ書 53 : 9 甲 ; ヨハネの福音書 19 : 31 ;
マタイの福音書 27 : 60 ; ローマ人への手紙 7 : 24。
- II. 次に、そのパラドクスは明確にされた。
イザヤ書 53 : 9 乙 ; ペテロの手紙第一 2 : 22 ;
テモテへの手紙第一 2 : 5 ; ヨハネの福音書 15 : 13。

なだめの供え物！

(イザヤ書第 53 章からの説教、その 11)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

ロスアンゼルスのパプテストタバナクル教会にて
2013 年 4 月 13 日、土曜日の晩の説教

PROPITIATION!

(SERMON NUMBER 11 ON ISAIAH 53)

by Dr. R. L. Hymers, Jr.

A sermon preached at the Baptist Tabernacle of Los Angeles
Saturday Evening, April 13, 2013

“しかし、彼を砕いて、痛めることは主のみこころであった。
もし彼が、自分のいのちを罪過のためのいけにえとするなら
ら・・・” (イザヤ書 53 : 10、新改訳)。

今晚、神について私が説教しようとする事は、これを聞くある人達にとっては、好かれず、また嫌がられるでしょう。 今日の人達は神について誤ったアイデアを持っています。 聖書が告げている神について、だれが話そうとも、特にある類の説教者達の間では否定的な反応が起こります。

何年か前に、およそ百人あまりの若者達に向けて福音伝道的な説教をするよう、年配の牧師に私は頼まれました。 以前、私はその教会で何回も説教したので、その教会が期待している説教を私は理解していると案じていました。 しかし、その時は、とある二人の若手の説教者達はその集会を取り仕切っていました。 私は神の裁きを強調し、キリストの福音の明白な提示で終える救いのメッセージを説教しました。 そこにいた大学生ほどの年代の聴衆者の四分の一を多少超えた 27 人の若者達が、説教の後の招きに応じました。 彼らはみな始めてでした。

その様な多くの招きの応答にこの二人の若い牧師達は喜んだであろうと思われるでしょう。 しかし、彼ら両名はその説教の後、怒った顔つきをしました。 彼らは、後に礼状の一筆を認めることも無く、また、普通の慣例として謝礼金を出しますが、それさえありませんでした。 私は彼らの冷淡さに非常に驚かされました。 後日、私の説教は否定的過ぎ、神が罪を裁かれる事をその若者達に警告する事無く招きをすべきだった、と彼らを感じた事を私は知りました。 それ以来、今日の多くの牧師達に、彼らのような見解がある事に私は気がつきました。 “福音だけを述べなさい。 神の愛だけを告げなさい。 人々を立腹させて、不安にさせてはならない” と。 今日の説教者達はその様に感じていると、しばしば私は見い出しました。 しかし、そのような考え方には何か欠如しており、そのような福音の説教の見解には、何か大事なことが不足し、間違っていると私は確信しています。

トーザー博士 (Dr. W. Tozer) は、“先ず初めに、神への恐れを知らない人は、神の御恵を知る事は出来ない” (*The Root of Righteousness*, Christian

Publications, 1955, p. 38) と言いました。 “先ず初めに、神への恐れを知らない人は、神の御恵を知る事は出来ない” という彼の意見は、正に真実であると私は信じます。 マーティン・ロイドジョーンズ博士は、この点について、トーザー博士と同じ意見を持っています。 イアン・ムライ (Iain H. Murray) は、“マーティン・ロイドジョーンズが、神の御前にある人の、有罪による真の危難の説教をするのは、神の怒りの確実さ・・・地獄での、罪に対する罰を意図している・・・聖書を説教することの主要な部分として、彼は警告することに配慮している。 地獄は理論では無い・・・” (Rev. Iain H. Murray, *The Life of Martyn Lloyd-Jones, The Banner of Truth Trust*, 2013, p. 317)。

更にロイドジョーンズ博士は、“最も悪しき罪は、生れつきの人は非常に罪深いとお考えになる神について、彼らは誤った考えを持っている” (同著、p. 316) と言っています。 更に、バプテスト教派の著名な伝道者、ジョン・R・ライス博士も、トーザー博士やロイドジョーンズ博士とほぼ同じ見解を述べた事を、私は見出し確信しました。 ライス博士は言いました、

聖書の神は、恐ろしい神、物凄い神、復讐をされる神であり、同様に慈悲深い神でもある (John R. Rice, D.D., *The Great and Terrible God*, Sword of the Lord Publishers, 1977, p. 12)。

ライス博士はこのように言っています。

律法無しの神の恵み、悔い改め無しの信仰、神の怒り無し
の慈悲、地獄無しの天国・・・についての全ての今日の
説教は、神の真実の曲解である。それは神を誤って表
示している。それは神のメッセージの不正直な提示であ
る。神は、恐ろしい神、物凄い神、罪に対して激しく怒
られる神、復讐をされる神、恐れるべき神、罪人が目の
前で震え上がるべき神である (同著、pp. 13, 14)。

アアメン！ トーザー博士とロイドジョーンズ博士は、その点に関して、ライス博士と完全に同意していることを、彼らの説教を何年も読んでいた私の経験から分ります。 神は、“罪に対して激しく怒られる神” なのです。

聖書が神を提示しているように、私達が正にその様に神を理解する時、私達はイザヤ書第 53 章 10 節の私達の今日のテキストを理解するに全く問題はありませぬ。 このテキストは父なる神を中心に、そして神が私達の救いの為にイエスに成された事が提示されています、

“しかし、彼を砕いて、痛めることは主のみこころであつた。もし彼が、自分のいのちを罪過のためのいけにえとするなら・・・” (イザヤ書 53 : 10)。

“神は、イエス・キリストを、・・・なだめの供え物として、公にお示しになりました”
(ローマ人への手紙 3 : 25)。

クリスウェル博士は、“なだめの供え物は、罪に対する神の義の要求を満たし、神の義の必要条件と人の罪を無効にする必要条件の両方をかなえる、十字架で成

されたキリストの御業である” (W. A. Criswell, Ph.D., *The Criswell Study Bible*, Thomas Nelson Publishers, 1979, p. 1327, note on Romans 3:25)。

“神は、イエス・キリストを、・・・なだめの供え物として、公にお示しになりました”
(ローマ人への手紙 3 : 25)。

リフォメーション・スタディバイブル (The Reformation Study Bible) はこの聖句について、“罪人に対する神の裁きをゆるし、義認をもたらす事を満たすため、なだめの供え物として、キリストは死なれた。しかし、パウロは、(神の御子による)犠牲は、われわれを愛するよう父なる神を仕向けさせなかった事を注意深く示している。正にその逆が真実である。すなわち、神の愛が、彼御自身に御自分の御子を捧げさせた” (*The Reformation Study Bible*, Ligonier Ministries, 2005, p. 1618, note on Romans 3:25)。

“私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方が” (ローマ人への手紙 8 : 32)。

今日の私達のテキストが言っている様に、

“しかし、彼を砕いて、痛めることは主のみどころであった。もし彼が、自分のいのちを罪過のためのいけにえとするなら・・・” (イザヤ書 53 : 10)。

このテキストの中で、神が、キリストの苦悩を起こされた、正にその方であった事を私達は理解できます。キリストは、“神の定めた計画と神の予知とによって” (使徒行伝 2 : 23) 苦しまれ、死なれました。聖書に示された偉大な恐ろしい神が、キリストの苦しみと死の真の原因だったのです。ヨハネの福音書第 3 章 16 節は、神が、“実に、そのひとり子をお与えになった” (ヨハネの福音書 3 : 16) と言っています。ローマ人への手紙第 8 章 32 節は、“私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方” (ローマ人への手紙 8 : 32) と言っています。罪に対する神の怒りはなだめられたのです。なぜなら、神の御子イエスにそれが下ったからです。私達のテキストはこのように言っています、

“しかし、彼を砕いて、痛めることは主のみどころであった。もし彼が、自分のいのちを罪過のためのいけにえとするなら・・・” (イザヤ書 53 : 10)。

ここでイザヤは、父なる神がキリストの受難と十字架でのはりつけのために、御自分の御子を送られ、そうする事で神がなだめられ、神の怒りが罪人の代わりにイエスに下った事を示す為に、私達を“その光景の後”に導きます。このテキストの中で私達は、(1) 神は、イエスを砕かれた：(2) 神は、イエスを痛まされた：(3) 神は、イエスのいのちを罪過のいけにえとされた、という三点を理解します。

I. 最初に、神は、イエスを砕かれた。

“彼を砕いて、・・・ことは主のみこころであった”
(イザヤ書 53 : 10)。

単語 “bruised” と英語に訳された言葉は、“砕く” という意味です。
“彼を砕くことは主のみこころである”。 エドワード・ヤング博士 (Dr. Edward J. Young) は、“ [キリストが] 無実であるにもかかわらず、主は彼を砕く事を御旨とされた。彼の死は悪しき者達の手によってではなく、主の手によるものである。これは、彼を死に至らせた者達に対する責任を赦免することではなく、彼らはこの境遇を左右する立場にいなかったのである。彼らは主が許された事を成しただけである” (Edward J. Young, *The Book of Isaiah*, William B. Eerdmans Publishing Company, 1972, volume 3, pp.353-354)。

私が述べたように、このことは、キリストに関して、ローマ人への手紙第 3 章 25 節で明白に表されています、

“神は、・・・なだめの供え物として、公にお示しになりました” (ローマ人への手紙 3 : 25)。

そして、ヨハネによる福音書第 3 章 16 節は、このように言っています、

“神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された” (ヨハネの福音書 3 : 16)。

罪に対する神の怒りをなだめる為、そして罪ある者達に救いを可能とする為です。

“しかし、彼を砕いて、・・・ことは主のみこころであった・・・” (イザヤ書 53 : 10)。

ゲツセマネの園で最初に、父なる神は、御自分の御子を砕かれました。私達には、マタイによってゲツセマネの園で神が、“わたしが羊飼いを打つ” (マタイの福音書 26 : 31)と言われたことが告げられています。マルコの福音書にもまた、ゲツセマネの園で、“わたしが羊飼いを打つ” (マルコの福音書 14 : 27)と書かれています。ですから神は、ゲツセマネの園の暗闇で、私達の罪の為に、身代わりのなだめの供え物としてイエスを打たれ、彼を砕かれたのです。スボルジョンはこのように書いています、

今や私達の主は、父なる神からの杯を受け取らなければならなかった。ユダヤ人からではなく、裏切り者のユダからでもなく、眠りこけている弟子達からでもなく、
[園での] 試みに来た悪魔からでもない。しかしそれは御自身の父なる方によってその杯は満たされた・・・彼の魂を驚嘆させ、彼の心中を苦しませた杯。彼はそれからしりごみされ、それゆえ、それは身体的な苦痛以上にひどい一飲みであった事は確かである。その時点から彼はしりごみされなかった・・・それは父の手によって [彼に] 下された、思いもよらないほどひどく、驚嘆するほどの恐怖で満ちているものであった。私達が“しかも彼を砕くことは主のみ旨であり・・・”と読んだこと

で、以前のような疑いが取り除かれた。主は私達全ての罪を彼の上に〔置かれた〕。キリストは罪を知らないけれども、主は私達の為に彼に罪を負わされた。このことが、救い主をそのような非常なる意気消沈の状態に陥らせたのである……。彼は罪人の〔代わり〕となって苦しまなければならなかったのである。ここに、私があなただの前に〔完全に説明する〕事の不可能な〔園での〕苦悩の奥義があり、そのような真実は、‘それは神に、神のみに完全に知られた彼の悲嘆’である (C. H. Spurgeon, “The Agony in Gethsemane,” *The Metropolitan Tabernacle Pulpit*, Pilgrim Publications, 1971 reprint, volume XX, pp. 592-593)。

“しかし、彼を砕いて、主のみこころであった……”
(イザヤ書 53 : 10)。

その園でのしかかった人の罪の重荷の下で、キリストは砕かれた。彼はあなた方の罪の重荷によって砕かれたのです。これほどまでに、

“イエスは、苦しきもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた”
(ルカの福音書 22 : 44)。

人の手はまだ彼に触れていませんでした。彼はまだ捕えられておらず、また、たたかれ、むち打たれてもなく、そして、十字架につけられてもいませんでした。彼を砕かれたのは父なる神でした。ゲツセマネの園で、“わたしは羊飼いを打つ” (マタイの福音書 26 : 31) と言われたのは、父なる神であったからです。これが、神がイザヤを通して預言されたことです、

“しかし、彼を砕いて、……主のみこころであった……” (イザヤ書 53 : 10)。

御子が負いし神の怒りを語れる者はなし、
我が負うべき怒りなり
御子が負いし、全罪の功罪
罪人を解放せん！

(“The Cup of Wrath” by Albert Midlane, 1825-1909;
to the tune of “O Set Ye Open Unto Me”).

II. 次に、神は、イエスを痛まされた。

“しかし、彼を砕いて、痛めることは主のみこころであった” (イザヤ書 53 : 10)。

もう一度、神のひとり子を、彼の受難と死の間に体験した悲嘆を通り抜かされたのは、神でした。ギル博士 (Dr. Gill) はこのように述べています。

神が惜しまなく、御子を悪しき者達の手へ、そして、死に渡された時、彼が園で悩まされ、彼の魂が非常に悲嘆にくれた時、そして、十字架につけられ、〔そして〕御自身の民の罪と父なる神の怒りを御自身に負われた時、

そして、神が、わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですかと、御子に叫ばすほど神は彼から顔を背かれた時、神は彼を痛まされた・・・心身共に彼を痛ま [された] (John Gill, D.D., *An Exposition of the Old Testament*, The Baptist Standard Bearer, 1989 reprint, vol. V, page 315)。

イエスは、自ら進んで砕かれ、苦しみ、そして、むち打ちと受難を受けられ、私達の罪の為に苦しみました。なぜなら、彼はこのように言われたからです、

“わたしが天から下って来たのは、自分のこころを行うためではなく、わたしを遣わした方のみこころを行うためです” (ヨハネの福音書 6 : 38)。

“神の定めた計画と神の予知とによって引き渡されたこの方を” (使徒行伝 2 : 23)。

“私たちのためにのろわれたものとなって”
(ガラテヤ人への手紙 3 : 13)。

“この方こそ、私たちの罪のための・・・なだめの供え物です” (ヨハネの手紙第一 2 : 2)。

“神は、イエス・キリストを、その血による、また信仰による、なだめの供え物として、公にお示しになりました” (ローマ人への手紙 3 : 25)。

イエスの負われた神の怒りは、口で表すこと不可能なり、
我に値する神の怒り
罪の公正なる報い、彼はそれを全て負われた、
それは罪人を解き放つ為！
("The Cup of Wrath" by Albert Midlane, 1825-1909;

“彼を砕いて、痛めることは主のみこころであった”
(イザヤ書 53 : 10)。

III. 最後に、神は、イエスのいのちを罪過のいけにえとされた。

起立してテキストの聖句を、“罪過のためのいけにえとするなら”まで読み上げて下さい。

“彼を砕いて、痛めることは主のみこころであった。自分のいのちを罪過のためのいけにえとするなら・・・”
(イザヤ書 53 : 10)。

着席してください。

この(英文の)テキストの最初にある“しかし”の言葉に注目してください。それは、前の9節の“彼は暴虐を行わず、その口に欺きはなかったが”(イザヤ書 53 : 9 - 10 甲)に関連しています。イエスはけっして罪を犯さなかったけれども、“彼を砕いて、痛めることは主のみこころであった”。ガエベ

レイン博士 (Dr. Gaebelien) の注解書は、“10 甲節に於ける、[キリストの] 御自身の正義の、なおざりにされた明白な表象は衝撃的なものであるが、読者はこれらの苦悩が身代わりとしてなされた状況を思い起こす……。神は無情に思われる、しかし、驚くばかりに慈悲深いのである” (Frank E. Gaebelien, D.D., General Editor, *The Expositor's Bible Commentary*, Zondervan, 1986, volume 6, p. 304)。

“彼を砕いて、痛めることは主のみこころであった。自分のいのちを罪過のためのいけにえとするなら……”
(イザヤ書 53 : 10)。

“私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方” (ローマ人への手紙 8 : 32)。

“そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。……キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです”
(ペテロの手紙第一 2 : 24)。

“神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方にあつて、神の義となるためです” (コリント人への手紙第二 5 : 21)。

“自分のいのちを罪過のためのいけにえとするなら……” (イザヤ書 53 : 10)。

イエスの負われた神の怒りは、口で表すこと不可能なり、
我に値する神の怒り
罪の公正なる報い、彼はそれを全て負われた、
それは罪人を解き放つ為！
(“The Cup of Wrath” by Albert Midlane, 1825-1909;

“彼を砕いて、痛めることは主のみこころであった。自分のいのちを罪過のためのいけにえとするなら……”
(イザヤ書 53 : 10)。

キリストは、罪に対する神の供え物となりました。キリストは、あなた方の身代わりとして、あなた方に代わって死なれました。キリストは、あなた方のために身代わりとなられ、あなた方の罪の代償を払われ、神の怒りをあなた方からそむけさせるために、その怒りを彼ご自身に負うために、なだめとして死なれました。あなた方が、義によりゆるされる為に、御自分を捧げられ、悪い人々の身代わりとなったのです。神に導き、連れて来られるように。スボルジョンは次のように語っています、

人は罪の故、永遠の火炎に宿命づけられた。すなわち、神がキリストを身代わりとされたとき、キリストを永遠の火炎に送らなかったことは事実であるが、彼を痛まされた。それはあまりにも絶望的なもので、永遠の火炎に妥当な償いであった……。キリストが我々のすべての、すなわち、過去、現在、そして将来の罪を負われたため

に、我々は決して罰を受けることは無い。なぜなら、彼が我々の [代わりとなって] 苦しめられたからである。理解できるか、父なる神はどのように彼を砕かれたか？ それゆえ、彼を痛められたのは父なる神であったことを、あなた方は理解できるか？神がそう成されないキリストの苦悩は、我々に [値する] [地獄での] 苦しみの為とはならなかったのである (C. S. Spurgeon, "The Death of Christ," *The New Park Street Pulpit*, Pilgrim Publications, 1981 reprint, vol. IV, pp. 69-70)。

しかるに、キリストの死はすべての人を地獄から救いません。キリストを信頼し回心した人だけが救われます。彼は罪人のために死なれました、罪人のためにだけ死なれました。すなわち、こころの中で自分が罪人である知っている人達、そして、ゆるしをキリストに求めている人達のために死なれたのです。

あなた方の罪に対する感覚と、イエスを必要とする思いが、彼の死はあなた方の罪を癒すであろうしるしです。彼の死を思うことを躊躇い忘れる人達は、自分の罪ゆえに永遠の罰を受けることになるでしょう。なぜなら、十字架で彼らのためにキリストがなされたことを、彼らは拒絶したからです。

ですから、イエスの死について思慮深く考えて下さい。トプラディのすばらしい賛美歌、“なだめの供え物 (Propitiation)” の歌詞を深く考えて下さい。

我が為に与えられし、傷のない小羊
 父の怒りが、彼の御子に置かれし
 血にまみれた御身体に、我は知る
 我が名前はいのちの書に書かれたり
 主から流れ出でる御血
 紫色に流れし
 すべての傷は、賛美するなり
 御子の、人への不可思議な愛を

我が為に、救い主の御血は利し
 贖うための万能主か
 釘づけされし御手を出され
 我を、汝の聖座に導かれる
 (“Propitiation” by Augustus Toplady, 1740-1778;
 to the tune of “At the Cross”).

それなら、なぜあなた方はイエスを信頼しないのですか？ 何が彼に信頼することからあなた方を留まらせているのですか？ 彼を信頼することからあなた方を留ませる、あなた方の内の密かなる罪は何なのでしょう？ 誤った愚かな何の願望が、あなた方を救い主から留まらせているのでしょうか？ あなた方にとって大事なものが犠牲になるとわれ、何の恐れがあなた方を止めているのですか？ 何の密かな理由が、裁きからあなた方を救う為に、神の恐ろしい怒りを身に受けられたそのキリストを信頼する事から留めているのですか？ あなた方の背後にあるそれらの思いを見出し、“世の罪を取り除く神の小羊” (ヨハネの福音書 1:29) を信頼しなさい。キリストはあなた方を待っています。遅らせてはいけません。今晚、今、キリストを信頼して下さい。キリ

ストを求めたいと思われる人達の為に、カウンセリングの部屋を設けてあります。
キリストを信頼し、彼によって救われますように。

要 綱

なだめの供え物！

(イザヤ書第 53 章からの説教、その 11)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

“しかし、彼を砕いて、痛めることは主のみこころであった。
もし彼が、自分のいのちを罪過のためのいけにえとするなら・・・” (イザヤ書 53 : 10、新改訳)。

(ルカの福音書 16 : 23 ;
ローマ人への手紙 3 : 25 ; 8 : 32 ;
使徒行伝 2 : 23 ; ヨハネの福音書 3 : 16)

- I. 最初に、神は、イエスを砕かれた。
イザヤ書 53 : 10 甲 ; マタイの福音書 26 : 31 ;
マルコの福音書 14 : 27 ; ルカの福音書 22 : 44。
- II. 次に、神は、イエスを痛まされた。
イザヤ書 53 : 10 乙 ; ヨハネの福音書 6 : 38。
- III. 最後に、イエスのいのちを罪過のいけにえとされた。
イザヤ書 53 : 10 丙 ; イザヤ書 53 : 9-10 甲 ;
ローマ人への手紙 8 : 32 ; ペテロの手紙第一 2 : 24 ;
コリント人への手紙第二 5 : 21 ; ヨハネの福音書 1 : 29。

救い主の大勝利！

(イザヤ書第 53 章からの説教、その 12)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

ロスアンゼルスのパプテストタバナクル教会にて
2013 年 4 月 14 日、主の日の朝の説教

THE SAVIOUR'S TRIUMPH!

(SERMON NUMBER 12 ON ISAIAH 53)

by Dr. R. L. Hymers, Jr.

A sermon preached at the Baptist Tabernacle of Los Angeles
Lord's Day Morning, April 14, 2013

“彼は末長く、子孫を見ることができ、主のみこころは彼によって成し遂げられる”。(イザヤ書 53 : 10、新改訳)

イザヤ書第 53 章 10 節の初めの部分は、キリストの贖罪（なだめ）の死について書かれています。私は昨晚それについて説教しました。この聖句の前半は、神の御子の苦悩の背後には、実際にそれを起こされた父なる神が、代行者であることを示しています。メルル・アンガー博士 (Dr. Merrill F. Unger) は、“彼を悩ませる事で、主は彼を砕かれた” (Merrill F. Unger, Ph.D., *Unger's Commentary on the Old Testament*, Moody Press, 1981, volume II, p. 1299) と言いました。イザヤ書第 53 章 10 節の前半は、

“しかし、彼を砕いて、痛めることは主のみこころであった。もし彼が、自分のいのちを罪過のためのいけにえとするなら・・・” (イザヤ書 53 : 10 甲)。

カイルとデリッシュによる旧約聖書の注解書 (*The Keil and Delitzsch Commentary on the Old Testament*) によれば、

[キリスト] にそのような砕かれた苦しみ、そのような深い悲しみを負わせたのは人間であった；しかし、それを超える何よりも [動機] は、人間の罪を、彼の御旨、彼の御こころ、そして前もって決められた意図に [貢献させた] 神であった (Eerdmans, 1973 reprint, vol. VII, part II, p. 330)。

しかし、私達はイザヤ書 53 : 10 の後半の部分で、キリストの苦悩により何が生じたかを理解します。彼の受難と死は、彼の復活における大勝利と、この地上の彼の民の勝利の土台とされたのです！ 起立してその節の後半、“彼は末長く”の部分から読んでください、

“・・・彼は末長く、子孫を見ることができ、主のみこころは彼によって成し遂げられる”
(イザヤ書 53 : 10 乙)。

着席して下さい。 このテキストから、キリストの苦悩によって生じたすばらしい三つの成果に注意を払ってください！

I. 最初に、その子孫を見ることができる！

“子孫を見ることができ”（イザヤ書 53：10）。

それはイエスの死の最初の成果です。 “子孫を見ることができ”。これはキリストの霊的な子孫を表しています。 何億もの人々がキリストに来て“子孫”となりました。 イエスは次のようにそれを預言されました、

“人々は、東からも西からも、また南からも北からも来て、
神の国で食卓に着きます”
（ルカの福音書 13：29）。

五旬節（聖霊降臨祭）の日以来、世界中を通して数え切れないほどの人々がキリストにきました。 そして、キリストが天国からこの世に戻られる時には、

“その子孫は地を受け継ごう”（詩篇 25：13）。

しかしキリストは、御自分の子孫を見るのに二度目に戻って来られる時を待つ事はありませんでした。 キリストが死からよみがえられた際、直ちに、キリストは彼らをご覧になられ、そして彼らもキリストを見たのです！ 使徒パウロはこう言っています、

“また、ケパに現われ、それから十二弟子に現われたことです。その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現われました。・・・その後、キリストはヤコブに現われ、それから使徒たち全部に現われました。そして、最後に、月足らずで生まれた者と同様な私にも、現われてくださいました”
（コリント人への手紙第一 15：5-8）。

彼の子孫はキリストを見ました。 使徒ヨハネはこのように書いています、

“・・・目で見たもの、じっと見、また手でさわったもの、すなわち、いのちのことばについて”
（ヨハネの手紙第一 1：1）。

そして、キリストが死からよみがえられた時、彼は御自分の子孫をご覧なられたのです、

“その日、・・・イエスが来られ、彼らの中に立って言われた。「平安があなたがたにあるように。」こう言ってイエスは、その手とわき腹を彼らに示された。弟子たちは、主を見て喜んだ”（ヨハネの福音 20：19-20）。

“子孫を見ることができ”。

彼らはイエスを見、イエスは彼らをご覧になられ—そして、彼らは彼の子孫、彼の霊的な子孫でした！ 彼が死からよみがえられた時、彼の子孫をご覧になりました！

そうして彼が昇天された後、聖霊の御力が下り、三千人の人達が回心しました。 イザヤ書のこの約束が、再び成就されたのです。 イエスは天から御自分の子孫をご覧になりました。 そして、その事は使徒行伝を通して書かれています。 よみがえられたキリストは、彼の栄光なる王座より、彼を信頼し、彼の子孫となった多くの人達をご覧になりました。

そして、時代を通してそうなのです。 イザヤの預言が成就しているように、イエスは天国より地上に増えた御自分の子孫をご覧になっています。 そのように彼らは、“人々は、東からも西からも、また南からも北からも来て、神の国で食卓に着きます”（ルカによる福音書 13：29）。

そうです、その約束は歴史を通し、この地上のあらゆる所で何億回も成就されているのです。

“子孫を見ることができ”。

そして、あなた方が信仰でもってキリストに来る時、彼もまたあなた方をご覧になられます！ 回心の瞬間、あなた方は彼の子となり、あなた方は彼の子孫である大勢の人達の中に加わるでしょう—この地上で、そして天国に於いて。

“子孫を見ることができ”。

よみがえられたキリストが、その神聖で栄光なる光景—すなわち、彼を信じるすべての人種ならびに国々の男性と女性が、永遠にキリストに加わる—をご覧になる事は、何と喜ばしい事でしょうか！ そうです、

“子孫を見ることができ”。

ある晩、私は妻と一緒に驚嘆すべき DVD を観ました。 それは、イランの国でイスラム教徒の一人が、また他の一人がキリストに帰依し、クリスチャンになっている姿を描いた映像を写したものでした。 イランのイスラム教徒のどある女性は、“わたしは全ての望みを失いました”、と言ってイエスを信頼しました。 若い男性は、“自分はイスラム教徒でいたくない”と言いました。 その若者もまたイエスを信頼し、クリスチャンになりました。 イランでは、過去 1500 年の歴史の中のいかなる時代よりも、今日より多くの人達がイエスに拠りどころを見つけています！ イスラム教の国々で、数千人にのぼる若者達がクリスチャンになるために、危険を冒しているのです！ 今日、イスラム教の地で数千に膨れ上がっている“彼の子孫”を、イエスをご覧になられています！ 私達の説教は、ウェブ・サイトを通して、アラブの国々へ届いています！

そして、その最後の大勝利の際、キリストがこの地上に彼の王国を建て、治められる為に栄光なる御姿で来られる時、王の王、そして主の主、として再び来られ、

“その子孫は地を受け継ごう”（詩篇 25：13）。

そして主の口から、“子孫を見ることができ”と語られるのです！ “『あまねく地のうえ』（Jesus Shall Reign）”を歌いなさい！

あまねく地のうえ
 主はおさめたまわん
 きしよりきしへと
 日のてるかぎりは
 (“『あまねく地のうえ』 Jesus Shall Reign” by Isaac Watts, D.D., 1674-1748).

II. 次に、その命をながくすることができる！

私達のテキストのイザヤ書第 53 章 10 節をもう一度見てください。そこにはイエスの苦悩と死による、もう一つの大きいなる成果があります。

“彼は未長く、子孫を見ることができ、・・・”
 (イザヤ書 53 : 10、新改訳)。

“その子孫を見ることができ、その命をながくすることができる・・・”
 (参照：イザヤ書第 53 章 10 節、口語訳)。

二番目のキリストの死の効果は、“その命をながくする” (口語訳) ことです。なぜなら、彼が十字架で死なれた時に彼の生涯が終わったのではないからです。死によって墓の中で長く留まる事はなかったのです。三日目に、受難を克服されたキリストは生命をとり戻されました。彼は死の鉄の鎖を壊し、二度と死ぬ事なく、墓から出て来られました！ “なぜなら、キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、キリストが生きておられるのは、神に対して生きておられるのだからです” (ローマ人への手紙 6 : 10) !

“キリストは死者の中からよみがえって、もはや死ぬことはなく、死はもはやキリストを支配しないことを、私たちは知っています” (ローマ人への手紙 6 : 9)。

“悲嘆なる三日間 (The three sad days)” を歌いなさい！

その悲嘆なる三日間は直ちに過ぎ去り；
 彼は死から輝かしくよみがえられた：
 我々の生きた神に栄光あれ！ ハレルヤ！
 ハレルヤ！ ハレルヤ！ ハレルヤ！
 (“The Strife is O’er,” 翻訳 by Francis Pott, 1832-1909)。

“その命をながくすることができる” (口語訳)。

“しかし、キリストは永遠に存在されるのであって、・・・彼ら [私達] のために、とりなしをしておられるからです” (ヘブル人への手紙 7 : 24, 25)。

スポルジョン (Spurgeon) は、“彼は、天の絶頂から、地上の多くの御自分の子孫を見 [下ろし] ておられる・・・すなわち、天の星の数ほどの、また、数えられない夏の風塵ほどの、多くの主イエス・キリストの子孫を” (C. H. Spurgeon, *The Metropolitan Tabernacle Pulpit*, Pilgrim Publications, 1978 reprint, volume 51, p. 565) と言っています。

“・・・その子孫を見ることができ、その命をながくすることができる”（イザヤ書 53：10、口語訳）。

III. 最後に、彼の成果は栄えるであろう！

起立して“かつ主のみ旨が”（口語訳）の言葉で始まる部分に注意を払いながら、テキスト全体を声を上げて読んでください。

“彼は末長く、子孫を見ることができ、主のみこころは彼によって成し遂げられる”
（イザヤ書 53：10、新改訳）。

“その子孫を見ることができ、その命をながくすることができる。かつ主のみ旨が彼の手によって栄える”
（参照：イザヤ書第 53 章 10 節、口語訳）。

それは、イエスの死による三番目の成果です：“主のみ旨が彼の手によって栄える”。 スポルジョンはこのように述べています、

彼が死から新しい命へとよみがえられて以来、[1900]年以上経っているが、彼は今でも生きておられる；そして、我々は彼の日々がこの世が存在する限り継続することを知っている。そして最後に、彼が神すなわち天の父へその王国を引き渡されるその時まで、彼の日々は長く続くであろう。“神よ、そなたの王座は永遠なり”、山々は滅びようとも、天が古びた衣服のようにくるまれようとも、そなたは持続される（Spurgeon、同著）。

“かつ主のみ旨が彼の手によって栄える”
（イザヤ書第 53 章 10 節、口語訳）。

望ましい御旨、意図、主の目的が、“彼の手によって栄える”。 イザヤ書を通して、神はイエスにこう語られました、

“・・・わたしはあなたを諸国の民の光とし、地の果てにまでわたしの救いをもたらす者とする。”
（イザヤ書 49：6）。

“国々はあなたの光のうちに歩み、・・・国々の財宝はあなたのものとなるからだ”（イザヤ書 60：3,5）。

“見よ。ある者は遠くから来る。また、ある者は北から西から、また、ある者はシニム [中国] の地から来る”
（イザヤ書 49：12）。

“かつ主のみ旨が彼の手によって栄える”
（イザヤ書第 53 章 10 節、口語訳）。

数ヶ月前に私達は、『殉教者の声（The Voice of the Martyrs）』の提供による、中国についてのビデオを見ました。それは、モーゼス・シェイ（Moses

Xie)という歳のいった中国人の告白のプログラムでした。“文化大革命”の際に、彼はキリストの福音を説教したが為に、共産主義者によって二十年以上もの間手錠をかけられたまま牢獄へ入れられました。その深い絶望の中で、彼は深く意気消沈していました。その時彼は、イエスの声が、“「わが子よ、わたしの恵みは、あなたに十分である」”と彼の心に話しかけられたと言いました。シェイは心にそれを三度聞いたと言いました。彼が三度そのことを言った時、三度目には彼は涙で心のはちきれそうでした。“「わが子よ、わたしの恵みは、あなたに十分である」”。共産主義国の牢獄の中で、彼を救ったキリストの力について彼が語った時、彼の目は感謝による涙であふれました。

そして、そのビデオは何千人もの共産主義者達が、文字どおり共産党の冷酷な指導者毛沢東を崇拜している場面へと移り変わりました。彼らが毛沢東を大声で繰り返し賞賛している時、私は“あなた方がいなくなっても、私達は生きるであろう”と思いました。中国共産党が歴史の中で廃墟となる時、キリスト教はなおもさらに強く生き続けるでしょう。なぜなら、クリスチャンは今日法外な速さで増えているからです。“あなた方がいなくなっても、私達は生きるであろう”。そして、それは地上至る所で起こっています。キリストの敵対者達がどこにしようとも、私達は自信を持って“あなた方がいなくなっても、私達は生きであろう！”と言う事が出来ます。なぜなら“かつ主のみ旨が彼の手によって栄える”からです！

クリスチャン達は、今日の人々の目には卑しく見下されているかもしれませんが。今は、私達の主イエスが経験されたように、私達はあざけられ、そして軽蔑されているかもしれませんが。しかし、キリストは死からよみがえり、そして“主のみ旨が彼の手によって栄える”のです。ですから、どんなにキリスト教が見下され拒絶されても、それは“彼の手によって栄える”のです。そして最後には、

“「この世の国は私たちの主およびそのキリストのものとなった。主は永遠に支配される”
(ヨハネの黙示録 11 : 15)。

それから兄弟の皆さん達、私達は、イエスの死は成し遂げられたことを見るでしょう、なぜなら、“かつ主のみ旨が彼の手によって栄える”からです。イエスは、この地上の全地を統治されるために、再び来られます！

あまねく地のうえ
主はおさめたまわん
きしよりきしへと
日のてるかぎりは
(『あまねく地のうえ』“Jesus Shall Reign” by Isaac Watts, D.D., 1674-1748).

再び来られる、彼は来られる、
人に拒絶された、正にあのイエス様が
再び来られる、彼は来られる、
御力と大いなる栄光をもって、彼は再び来られる！
(“He Is Coming Again” by Mabel Johnston Camp, 1871-1937).

さて、今朝ここにいるあなた方の中には、私達はどのようにしてそんなにエキサイトしているのか訝しがっている人がいるかもしれません。“この人達は何に對し

てそんなに熱情になれるのか？”とあなた方は思っているでしょう。“なぜ彼らは拍手喝采しているのか？”この教会へしばらく来ている人達の中にも、同じように感じている人がいるに違いありません。あなた方は、“またこれをしてしなければならないの？ 前もそれを聞きました。なぜそんなにエキサイトしているの？ なぜそんなに夢中になれるの？ 招きだけをして、終わらせませんか？”とと思っています。あなた方のある人達はそう感じているのを私は知っています。“なぜそんなにエキサイトしているの？”それはあなた方にはミステリーなことです。あなた方は、エキサイトすることが出来ません！

私は、あなた方が何を感じているのか十分に分かっています。よいですか、私はバスケットボールのファンではありません。私にとって、バスケットボールの試合は、何らエキサイトするには当たらないものです！ 私にとっては、それはこの世で最も退屈なものです。しかし、あなた方のある人達には、それは非常にエキサイトするものなのです。違いはなぜでしょうか？ その違いは至ってシンプルです。あなた方はバスケットボールのファンで、私はそのファンではないからです！ それほどまでにシンプルなのです。あなた方は興奮しますが、私は興奮できません。私達がそのように違って感じることは触れません。あなた方の育った背景の何かが、あなた方がレイカーズの試合を観る時、あなた方をエキサイトさせます。私はそれには触れません。私の中の何かが変わらない限り、あなた方が感じることを、私は感じる事ができません。

キリストの大勝利もそれと同じなのです。私達は、キリストの復活と再降臨にエキサイトします。あなた方はそれについてエキサイトできません。私達はキリストのファンですが、あなた方はキリストのファンではないからです！ あなた方が、私達がキリストの大勝利について考える時に感じることを感じるためには、あなた方の中の何かが変わらなければなりません。聖書は、“生まれながらの人間は、神の御霊に属する事を受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです”（コリント人への手紙第一 2：14）と言っています。あなた方は、生まれながらの人間なので、キリストの大勝利は、あなた方にはそんなに重要なことではありません。あなた方はそれに興奮することはできないのです。あなた方が、自分自身にキリストの大勝利について興味を持たせるためには、あなた方の中の何かが変わらなければなりません！ 私達を感じるように感じるためには、あなた方は回心しなければならないのです！

あなた方は、私達を感じるように感じるべきであることを知っていますが、そのように自分自身を感じさせることができません！ たとえどんなに試みようとも、私達がキリストの大勝利について感じることを、自分自身に感じさせることはできません！ あなた方はそう感じるべきですが、どんなに試みようともそうすることが出来ません。あなた方は、そうあるべきであるようにはなれません。それが、罪の悟りに置かれるということなのです！

まだ回心していないあなた方へ、どうか信仰でもってよみがえられたキリストに来ることを懇願します。あなた方が、彼の尊い御血でもって自分の罪から洗い清められることを私達は促すのです。そして、伴う犠牲が何であれ、私達と一緒に救い主について行こうではありませんか！ 私達は勝者の側にいます、なぜなら、“かつ主のみ旨が彼の手によって栄える”からです。それゆえ、あなた方がイエスに来て、回心をし、勝者の側につくことを私は促すのです！

つかれしよびとよ
 すくいぬしの
 みもとにきたりて
 やすきをえよ
 ただ主を、ただ主を
 たよれかし
 いま主は、いま主は
 [キリストは] すくいたまう
 (『つかれしよびとよ』“Only Trust Him” by John H. Stockton, 1813-1877).

合唱の部分をもう一度歌いなさい。 私達が歌っている間に、もしあなたの方がまだ救われていないのであれば、席を立てて集会場の後ろに行ってください。 ケイガン先生が、祈りとカウンセリングできる部屋へ案内します。 歌っている間に行きなさい。

ただ主を、ただ主を
 たよれかし
 いま主は、いま主は
 [キリストは] すくいたまう

リーさん、彼らのために祈りを捧げてください。

要 綱

救い主の大勝利！

(イザヤ書第 53 章からの説教、その 12)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

“彼は末長く、子孫を見ることができ、主のみこころは彼によって成し遂げられる”。 (イザヤ書 53 : 10、新改訳)

- I. 最初に、その子孫を見ることができる！
 イザヤ書 53 : 10 甲； ルカの福音書 13 : 29 ；
 詩篇 25 : 13 ； コリント人への手紙第一 15 : 5-8 ；
 ヨハネの手紙第一 1 : 1 ； ヨハネの福音書 20 : 19-20。
- II. 次に、その命をながくすることができる！
 イザヤ書 53 : 10 乙 (新改訳) ；
 イザヤ書第 53 章 10 節 (口語訳) ；
 ローマ人への手紙 6 : 10, 9 ； ヘブル人への手紙 7 : 24, 25。
- III. 最後に、彼の成果は栄えるであろう！
 イザヤ書 53 : 10 丙 (新改訳) ； 49 : 6 ； 60 : 3, 5 ； 49 : 12 ；
 イザヤ書第 53 章 10 節 (口語訳) ； ヨハネの黙示録 11 : 15 ；
 コリント人への手紙第一 2 : 14。

キリストによって得られる 贖罪と義認

(イザヤ書第 53 章からの説教、その 13)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

ロスアンゼルスのパプテストタバナクル教会にて
2013 年 4 月 14 日、主の日の晩の説教

SATISFACTION AND JUSTIFICATION – OBTAINED BY CHRIST

(SERMON NUMBER 13 ON ISAIAH 53)

by Dr. R. L. Hymers, Jr.

A sermon preached at the Baptist Tabernacle of Los Angeles
Lord's Day Evening, April 14, 2013

“彼は、自分のいのちの激しい苦しみのあとを見て、満足する。わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし、彼らの咎を彼がになう”。
(イザヤ書 53 : 11、新改訳)

このテキストは、多くの意義で満ちており、その全ての言葉は私達の注目に値します。ですから、私はこのテキストから逸れずに、また、多くの例証も挙げません。一つの説教の中でこのテキストのすばらしい真実さに専念する事；その主な要点をあなた方に知らせ、この言葉を簡単に、そして分かりやすくして、今晚初めて私達の教会を訪れた方々が、これらの言葉について深く、また、そのわかりやすい意味をよく理解して、この集会から出て行かれますように。

“彼は、自分のいのちの激しい苦しみのあとを見て、満足する。わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし、彼らの咎を彼がになう”
(イザヤ書 53 : 11)。

この聖句の真理を受け入れるよう、神があなた方の心を開いてくださいますように。なぜなら、このテキストについて説教する時、“耳を傾け、わたしのところに出て来て聞け。そうすれば、あなたがたは生きる”とあなた方に臨んでいるからです。

この聖句は三つの事柄に関して述べています。最初に、神の報いを償うキリストがおられること。次に、多くの人を義とするキリストの知識があること。最後に、信じる罪人に完全なる償いをもたらす、罪を担うキリストがおられること。これらの三つの事柄について述べています。

“彼は、自分のいのちの激しい苦しみのあとを見て、満足する。わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし、彼らの咎を彼がになう”
(イザヤ書 53 : 11)。

I. 最初に、キリストの苦しみは神の報いを満足させる。

“彼は、自分のいのちの激しい苦しみのもとを見て、満足する。・・・”（イザヤ書 53：11）。

ジュウゲン・モルトマン博士（Dr. Jürgen Moltmann, 1926-）は、第二次世界大戦の終戦後三年間、英国の刑務所に戦犯として監禁されたドイツ人です。監禁の間、彼は聖書を学び始めました。その監禁生活と聖書を読んだ事の体験から、彼は *History and the Triune God: Contributions to Trinitarian Theology* 『歴史と三位一体なる神：三位一体説の神学への貢献』（Crossroad, 1992）を書きました。モルトマン博士はリベラルな神学者です。ですから、私は疑いもなく彼の書いたほとんどの事は認めません。しかし、彼にはいくらかの洞察力があります。たとえば、モルトマン博士は、十字架を、神が“邪悪な”人類との彼の結束を表現された行いとして理解しています。神は十字架の上で罪人への彼の愛を示され、御子なる神は、父からの分離を蒙り、“内面から外見まで”の苦痛と苦しみを受けるよう、父なる神に御自分を任されました。モルトマンは、全てを正しく理解したわけではありませんが、十字架で三位一体の二位の人としての苦しみを明らかにしています。そしてそれが、私は重要な点だと思います。私の意見は、その事—すなわち、十字架につけられた時の三位一体の二位の人としての苦しみ—は考察する価値のある事なのです。

“彼は、自分のいのちの激しい苦しみのもとを見て、満足する。・・・”（イザヤ書 53：11）。

スポルジョンはこのように述べています、

これらの言葉によって、私達は、父なる神が彼の御子について語られ、そして彼が魂の苦しみを耐えられたので、父は子に満足なる報酬を確かなものにするを言明されている。救いに関し、聖なる三位一体の互いに異なる方々の共同の働きを観る事は、何ともすばらしい事ではなからうか！（C. H. Spurgeon, *The Metropolitan Tabernacle Pulpit*, Pilgrim Publications, 1980 reprint, volume LXI, p.301）。

“彼は”、すなわち父なる神である方は、“自分のいのちの激しい苦しみのもとを見て”とは、御子の魂の苦しみについてであり、スポルジョンはそれを“これらの言葉によって、私達は、父なる神が彼の御子について語られ”と表しています。

“彼は、自分のいのちの激しい苦しみのもとを見て、満足する。・・・”（イザヤ書 53：11）。

“自分のいのちの激しい苦しみ”とは、キリストが私達の罪の為に体験された彼の心痛と苦しみを表しています。私達はキリストの肉体による苦しみを軽視してはいけません。私達は決してキリストがピラトによって半死に至るまで鞭打たれた事を軽視してはいけません。私達は決してキリストが吐きかけられ、棘の冠をかぶせられた事を軽視してはいけません。そして私達は、

彼が私達に代わって十字架につけられた時に、彼の手足が釘づけにされた事の重大さ、その苦痛とどの渴きなども軽くあしらってはいけません。“かつ”、スポルジョンは、“彼の魂の苦しみは主要な事であり、そしてそれについてこのテキストは述べている・・・イエス・キリストは[非常]に苦しまれ、彼の苦しみを想像することに、また、それらをいかなる言い方でもってしても、あなた方に伝えることに、私は絶望を感じる”と言っています(Spurgeon, 同著、pp. 302-303)。“キリストの精神的苦悩が、彼の本質的な苦しみであり”(同著、p. 302)、彼の苦悩の心髄、彼の苦しみの主要なもの、と言われていました。

“苦しみ”と言う言葉は、人間の罪の重荷を負われた時、そして、父なる神による裁きが彼に下った時、“彼の魂”に体験された悲嘆、苦悩、苦痛を表しています。これは、彼が捕らわれる前、彼がむち打たれる前、そして彼が十字架につけられる前に、すでにゲツセマネの園で、彼は明らかにこれを体験されました。そして、それは十字架の上で彼が更に体験された、魂の悲嘆と苦痛をも含んでいます。ギル博士はこのように示しています、

彼の魂の苦しみは、彼の民に救いをもたらす為に、彼が耐えられた苦役と苦しみである；彼の従順と死、彼の悲しみと苦しみ；特に神の怒りの意向の下での彼の魂の陣痛、その引喩は、女性の苦痛[子供を生み出すときの苦痛]と比べられる；そして、彼が貫かれた全ての苦しみと死に至る苦痛である(John Gill, D.D., *An Exposition of the Old Testament*, The Baptist Standard Bearer, 1989 reprint, volume 5, p. 315)。

“彼は、自分のいのちの激しい苦しみのもとを見て、満足する。・・・”(イザヤ書 53:11)。

“・・・満足する”は、神の怒りの贖罪について語っています。父なる神は、“満足”されます、あるいは、なだめられる、と言えましょうか、

“神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました”(コリント人への手紙第二 5:21)。

“この方こそ、私たちの罪のための・・・なだめの供え物です”(ヨハネの手紙第一 2:2)。

“神は、キリスト・イエスを・・・なだめの供え物として・・・”(ローマ人への手紙 3:25)。

ジョン・マッカーサー博士(Dr. John MacArthur)は、キリストの血については間違った見解をもっていますが、以下のことは正当に述べています、

[供え物]という言葉は、“沈静”もしくは“満足”を意味する。十字架でのイエスの犠牲は、神の、罪に対する神聖な要求を満足させた・・・であるからにして、イエスは神を沈静もしくは満足させたのである(John MacArthur, D.D., *The MacArthur Study Bible*, Word Publishing, 1997, note on I John 2:2)。

彼が、イエスの血に関して間違った見解を持ち、贖罪に関しては正しい見解を持っているという事に、私は異様な思いを感じます。従って、私達は、贖罪、すなわち、神の、罪に対する怒りの沈静は、イエスの苦悩によって、彼ご自身体験された、という事を理解します。イエスの苦悩は、罪に対する神の怒りを沈め、なだめて、神の報いを“満足させた”のです。

“神は、罪を知らない方 [御子キリスト] を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方によって、神の義となるためです”
(コリント人への手紙第二 5 : 21)。

“彼は、自分のいのちの激しい苦しみのあとを見て、満足する。・・・” (イザヤ書 53 : 11)。

キリストの苦悩は、私達が救われる事を可能にする為に、神の正義を満足させたのです。

II. 次に、キリストを知ることは、多くの人に義をもたらす。

起立して、そのテキストを“多くの人を義とし”という言葉まで声を出して読んで下さい。

“彼は、自分のいのちの激しい苦しみのあとを見て、満足する。わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし・・・” (イザヤ書 53 : 11)。

着席してください。

預言書イザヤは、イザヤ書 52 : 13 で、キリストを神の“僕”と表しています。そして、この私達のテキストでは、キリストは神の“私の正しいしもべ”と呼ばれています。キリストは義なる方です。なぜなら、彼は“罪を知らない方” (コリント人への手紙第二 5 : 21) であるからです。彼は罪のない神なる御子、父なる神の“義なるわがしもべ”なのです。

キリストは、“多くの人を義とし” (11 節)。ここに福音の心髄があるのです。私達は、神の律法に従うことによって、自分達を義とはしません。なぜなら、

“律法を行うことによっては、だれひとり神の前に義と認められないからです” (ローマ人への手紙 3 : 20)。

私達は自分たちを義とすることは出来ません、なぜなら、私達は生まれつき罪人であるからです。私達はキリストの義の転嫁によってのみ義とされるのです。

“転嫁 (負わせる)” は法的な言葉です。私達はキリストの義の身代わりによって法的に義とされるのです。彼らにキリストの義を帰せることによって、神の“私のただしいしもべは・・・多くの人を義” (イザヤ書 53 : 11) とするのです！

“彼は、自分のいのちの激しい苦しみのあとを見て、満足する。わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし・・・”（イザヤ書 53：11）。

ジョン・トラップは、枢機卿コンタレヌス（Cardinal Contarenus）が、他の枢機卿ピギウス（Pighius）によって処刑された事を私達に思い起こさせます。なぜなら、コンタレヌスは、この節を文字通り信じていたので、彼は“新教徒（プロテスタント）”と呼ばれ、“人の義は、神の代償を求めない哀れみ、そして、キリストの功德によるものである”と言う彼の信仰ゆえに処刑されました（John Trapp, *A Commentary on the Old and New Testaments*, 1997 reprint, volume III, pp. 410-411, note on Isaiah 53:11）。しかし、枢機卿コンタレヌスは正しかったのです！そして、他の残りの枢機卿は間違っていたのです！

“わたしの正しいしもべは、多くの人を義と [するであろう]”。これらの言葉は、死ぬに値する価値があったのでしょうか？正にその通りです！それが正にバプテストやプロテスタントの信仰の心髄なのです！フィニー（Finney）に従う決断主義者やローマ・カトリックは、私達は自分達を義とする事ができるように教えていますが、全くそうではないのです！

“しかし、人は律法の行ないによっては義と認められず、ただキリスト・イエスを信じる信仰によって義と認められる・・・”（ガラテヤ人への手紙 2：16）。

“こうして、律法は私たちをキリストへ導くための私たちの養育係となりました。私たちが信仰によって義と認められるためなのです”（ガラテヤ人への手紙 3：24）。

多くの人を義とする神の“正しいしもべ”はキリストです。

しかし、それはどのようにして起こるのでしょうか？キリストはどのように“多くの人を義とする”のでしょうか？幾つかの罪をあきらめるような、彼ら自身の人を行いによって、キリストは彼らを義とされるのでしょうか？そうではありません！それはカトリックや決断主義の教えです！説教の終わりに“罪人の祈り”をしたから、あるいは“前方へ出て”行ったから、キリストは彼らを義とするのでしょうか？そうではありません！それもカトリックや決断主義の教えです！彼らが“救の計画”を学び、ヨハネの福音書 3：16を暗記し、“罪人の祈り”をしたから、彼は彼らを義とするのでしょうか？そうではありません！それもまたカトリックや決断主義の教えです！

それでは、どのようにしてあなた方は義とされるのでしょうか？人はどのようにしたら神の御前に清く、そして義とされるのでしょうか？それは永遠なる問いかけです！それはヨブ記にあるビルダデのおおいなる質問です！彼は言いました、

“人はどうして神の前に正しくありえようか。女から生まれた者が、どうしてきよくありえようか”
（ヨブ記 25：4）。

そして、私達のテキストの言葉を通して、その答えは私達に鳴り響きます、

“・・・わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし・・・”（イザヤ書 53：11）。

あるいは、スポルジョンが解釈しているように、“わたしの正しいしもべは、キリストの知識によって、多くの人を義とし” (C. H. Spurgeon, *The Metropolitan Tabernacle Pulpit*, Pilgrim Publications, 1980 reprint, volume 63, p. 117)。 スポルジョンは言いました、

私の、キリストの犠牲の成果を得る完全な方は、知る事、そして信じる事によってであり一すなわち、行うことによってではない・・・“人が義とされるのは律法の行いによるのではなく”、“律法は罪の認識をうみ”、“恵と平安がイエス・キリストにより来”、そして、それらは信じる事により、あるいは知る事によって一すなわち、彼を知る事によって・・・彼を通して・・・我々は義とされる (同著)。

“何の働きもない者が、不敬虔な者を義と認めてくださる方を信じるなら、その信仰が義とみなされるのです”
(ローマ人への手紙 4 : 5)。

“「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも・・・救われます」と言った” (使徒行伝 16 : 31)。

“・・・わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし・・・” (イザヤ書 53 : 11)。

キリストの苦悩は神の正義を満足させます。 キリストご自身を知ることは、多くの人に義をもたらします。 そして—

III. 最後に、罪を負われるキリストは、罪人に完全なる償いをもたらす。

起立して、そのテキストをもう一度、最後の箇所に注意を払って読んで下さい。

“彼は、自分のいのちの激しい苦しみのあとを見て、満足する。わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし、彼らの咎を彼がになう”
(イザヤ書 53 : 11)。

着席してください。

キリストは、“多くの人を義とし、彼らの咎を彼がになう”。 それは、キリストが彼らの罪を負うということなのです。 私達の義とされること、私達の贖いと救いの完全な基盤は、これらの言葉、“彼らの不義を負う”で明らかにされています。 イザヤ書 53 : 5 はこう語っています、

“しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた” (イザヤ書 53 : 5)。

イザヤ書 53 : 6 はこう語っています、

“しかし、主は、私たちのすべての咎を彼に負わせた”
 (イザヤ書 53 : 6)。

イザヤ書 53 : 8 はこう語っています、

“・・・彼がわたしの民のそむきの罪のために打た
 れ・・・” (イザヤ書 53 : 8)。

ペテロの手紙第一 2 : 24 は、こう語っています、

“そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負
 われました” (ペテロの手紙第一 2 : 24)。

スポルジョンが“わたしの正しいしもべは、キリストの知識によって、多くの人を義とし”と解釈しているように。

最初に、明白で分り易い、キリストの福音のポイントが上げられます。キリストの苦悩は神の報いを満足させるのです。キリストご自身を知る事が、神の報いに対する義認をもたらすのです。キリストは罪を負われるという事の信仰が、キリストを知る罪人達に完全な救いをもたらすのです。何と驚くべき福音！ 驚くべき罪の贖いではありませんか！ その様なことは歴史上かつて、前にもまた後にも無かったことです！

“彼は、自分のいのちの激しい苦しみのあとを見て、満足
 する。わたしの正しいしもべは、その知識によって多く
 の人を義とし、彼らの咎を彼がになう”
 (イザヤ書 53 : 11)。

何日か前に、ウェスリーと私は俳優ジョン・キャラディンについてインターネットで読んでいました。彼はどの俳優よりも多くの映画 (300 以上) に出演しました。彼がイタリアのミラノで死んだ時、死体は棺桶に置かれ、彼の息子の一人の家へ送られました。その時、その息子は酒に酔っていて、その棺桶を開け、父親の口にお酒を流し入れました。

では、あなた方に尋ねますが、死人はそのお酒を味わえるでしょうか？ 当然味わえません！ そして、私達を救う為に成されたすばらしい事に関して、私があなた方に告げる時、それを味わう事があなた方には出来ないのです。何故でしょうか？ 何故なら、あなた方は霊的に死んでいるからです。聖書が示しているように、あなた方は、“罪過の中に死んでいた” (エペソ人への手紙 2 : 5) からです。それが正に罪の本質なのです。あなた方はキリストについての事柄に対して死んでいるのです。あなた方はそれらを感じることは出来ないのです。神に関する事柄に対して、あなた方は、棺に横たわっているジョン・キャラディンの死体のように、あなた方は死んだも同然なのです。キリストがあなた方に命をくださらなければなりません。そうで無かったならば、あなた方は永遠に地獄へと向かうでしょう！ あなた方は、“私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか” (ローマ人への手紙 7 : 24) と哀願するよう、仕向けられなければなりません。

男性もしくは女性が、その様に心の底から哀願する時、彼らは救いに近づいています。その様に哀願した事がありますか？ あなた方は神に対して死んでおり、キリストのみがあなた方を救って下さる事が出来る、と感じた事があ

りますか？ あなた方はキリストに回心していますか？ もしそうで無かったならば、世の罪を取り除く神の小羊、キリストに視線を向けませんか？ 今、彼を見て、彼を信頼しませんか？ グリフィス氏の歌った賛美歌の歌詞に耳を傾けて下さい。

もし罪から自由になりたいならば
 神の小羊をみよ
 彼はカルバリーの丘で、あなたを贖う為に死なれた
 神の小羊をみよ
 神の小羊をみよ、神の小羊をみよ
 彼のみがあなたを救うことができる
 神の小羊をみよ
 (“Look to the Lamb of God” by H. G. Jackson, 1838-1914).

要 綱

キリストによって得られる 贖罪と義認

(イザヤ書第 53 章からの説教、その 13)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

“彼は、自分のいのちの激しい苦しみのあとを見て、満足する。 わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし、彼らの咎を彼がになる”。

(イザヤ書 53 : 11、新改訳)

- I. 最初に、キリストの苦しみは神の報いを満足させる。
 イザヤ書 53 : 11 甲 ; コリント人への手紙第二 5 : 21 ;
 ヨハネの手紙第一 2 : 2 ; ローマ人への手紙 3 : 25。
- II. 次に、キリストを知ることは、多くの人に義をもたらす。
 イザヤ書 53 : 11 乙 ; 52 : 13 ;
 コリント人への手紙第二 5 : 21 ; ローマ人への手紙 3 : 20 ;
 ガラテヤ人への手紙 2 : 16 ; 3 : 24 ; ヨブ記 25 : 4 ;
 ローマ人への手紙 4 : 5 ; 使徒行伝 16 : 31。
- III. 最後に、罪を負われるキリストは、罪人に完全なる償いをもたらす。
 イザヤ書 53 : 11 丙 ; イザヤ書 53 : 5, 6, 8 ;
 ペテロの手紙第一 2 : 24 ; エペソ人への手紙 2 : 5 ;
 ローマ人への手紙 7 : 24。

キリストの栄光の源
(イザヤ書第 53 章からの説教、その 14)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

ロスアンゼルスのパプテストタバナクル教会にて
2013 年 4 月 21 日、主の日の朝の説教

THE SOURCE OF CHRIST'S GLORY
(SERMON NUMBER 14 ON ISAIAH 53)

by Dr. R. L. Hymers, Jr.

A sermon preached at the Baptist Tabernacle of Los Angeles
Lord's Day Morning, April 21, 2013

“それゆえ、わたしは、多くの人々を彼に分け与え、彼は強者たちを分捕り物としてわかちとる。彼が自分のいのちを死に明け渡し、そむいた人たちとともに数えられたからである。彼は多くの人の罪を負い、そむいた人たちのためにとりなしをする” (イザヤ書 53 : 12、新改訳)。

ジョン・トラップ (John Trapp) は 17 世紀 (1601-1669) に生きた清教徒の説教者でした。彼は、“もっとも勤勉なすばらしい説教者であったと称えられ、[彼] の名声は、清教徒全盛時の清教徒聖書の [例えを私達に与える] 『聖書全般に渡る**注解書**』にあり、それは古風で趣きのあるユーモアと意味深い学識によって特徴付けられている”とされています (Elgin S. Moyer, Ph.D., *Who Was Who in Church History*, Keats Publishing, 1974, p. 410)。スポールジョン (Spurgeon) は、トラップの注解書を高く評価しました。イザヤ書第 53 章に関して、ジョン・トラップはこのように語っています、

ここでは、その全ての言葉が重要視される。そして、使徒や福音伝道者は我々の救いの不思議さを説明する際、イザヤ書のこの章全体を非常に重視している事は確かである・・・この預言者は、これらを書いている最中、大いなる霊を授かった。なぜなら、この中で彼は屈辱と賞賛の両面の状態の主イエス・キリストを正に明白に表示しており、また、旧約聖書の他の (著者) が新約聖書から見解を取り入れているのに対し、この章は新約聖書の多くの箇所に見解を提供している (John Trapp, *A Commentary on the Old and New Testaments*, Transki Publications, 1997, vol. III, p. 410)。

実際に今朝のテキストは、“見解を提供し”、新約聖書で読むことの理解を深めます。新約聖書がイザヤ書第 53 章を説明するのではなく、逆にその章が新約聖書を説明するのに役立っています！ それは非常に稀なことです。

ジャック・ワーレン博士 (Dr. Jack Warren) は今朝のテキストについて、“この [イザヤ書第 53 章の] 最後の節は、興味のある文語でその章を締めくく

っている。すなわち、それは救い主が自らの魂を注ぎ出され、そむいた人達と共に数えられたことを称えている” (Jack Warren, D.D., *Redemption in Isaiah 53*, Baptist Evangel Publications, 2004, p. 31)。

“それゆえ、わたしは、多くの人々を彼に分け与え、彼は強者たちを分捕り物としてわかちとる。彼が自分のいのちを死に明け渡し、そむいた人たちとともに数えられたからである。彼は多くの人の罪を負い、そむいた人たちのためにとりなしをする” (イザヤ書 53 : 12)。

今この瞬間、キリストは父なる神が彼に授けられた報いを喜んでおられる事でしょう。すなわち、“それゆえ、わたしは、多くの人々を彼に分け与え、彼は強者たちを分捕り物としてわかちとる”。キリストを侮り、拒否するものは天国にはいません。天国の全ての民はキリストを敬愛します！大いなる誉れは、神の右座におられるキリストの周りを誇示します。この誉れと栄光に値するキリストは何をなさったのでしょうか？なぜ彼は、“多くの人々を彼に分け与え、彼は強者たちを分捕り物としてわかちとる”権利があるのでしょうか？その答えは、彼が成し遂げられた四つの事にあります。

I. 最初に、彼は自分のいのちを死に明け渡された。

“・・・彼が自分のいのちを死に明け渡し、・・・”
(イザヤ書 53 : 12)。

キリストはそれを自ら進んでなされました。彼は、思考と配慮をもってそれを成されました。一時的な感情的衝動によって成されたものではありません。彼ご自身、自ら進んで、自らの魂を、徐々に、ご自分を無にするまで成され、そしてついにこう叫ばれました、

“「完了した」と言われた。そして、頭をたれて、霊をお渡しになった” (ヨハネの福音書 19 : 30)。

キリストは自ら進んでこれを為された事を記憶に留めてください。彼はこう言われました、

“わたしが・・・自分のいのちを捨てるからこそ・・・だけれども、わたしからいのちを取った者はいません。わたしが自分からいのちを捨てるのです”
(ヨハネの福音書 10 : 17)。

これは非常に重要な点です。イエスは偶然に死なれたのではない事を理解しなければなりません。彼は自ら進んで死なれたのです。私達の罪に対する報いを贖うために、彼は自ら進んでご自分の命を捨てられたのです。彼は十字架の上で、ご自分のいのちを死に明け渡されたのです。それは、イエスにそうする必要があったからではなく、あなた方のために、そして、私のためにです。キリストに信頼を置く、すなわち、彼を信頼するすべての人達の救いのために、彼はそうされたのです。

彼を信頼しなさい、躊躇してはいけません。彼があなた方のためにご自分の命を死に明け渡されたように、彼を完全に信頼するようあなた方の心を明け渡しなさい。

キリストに来て安息を得なさい。 そうして、キリストが賞賛と栄光をもって賛美される理由をあなた方は知るでしょう。 彼は誉れなる地位におられます、なぜなら彼は、

“一度罪のために死なれました。正しい方が悪い人々の身代わりとなったのです。・・・私たちが神のみもとに導くためでした”（ペテロの手紙第一 3：18）。

非常な屈辱をもたらした十字架でのキリストの死が、今では彼に大いなる誉れと栄光をもたらし、彼は、“多くの人々を”与えられ、“強者たちを分捕り物としてわかちとる”のです。 故に、神は彼に“国々を・・・ゆずりとして”（詩篇 2：8）与えられたのです。 故に、神は“わたしは彼に、征服を与え、獲得した物を与え、そして、罪惡の靈を支配させる・・・そして、これは彼にとって、[屈辱の中で]死んだことに対する報いとなるであろう”と言われた（トラップ、同著）。

“神は、キリストにおいて、すべての支配と權威の武装を解除してさらしものとし、彼らを捕虜として凱旋の行列に加えられました”（コロサイ人への手紙 2：15）。

『The Powers of Death』を歌いなさい！

死の権力は猛威をふるう、
しかし、キリストは彼らの軍団を追い散らした：
清い雄たけびを高らかに上げよう！ ハレルヤ！
ハレルヤ！ ハレルヤ！ ハレルヤ！
（“The Strife is O'er” translated by Frances Pott, 1832-1909）。

彼は誉れと栄光を与えられました、なぜなら、彼は罪人を救うためにご自分の命を死に明け渡されたからです。 彼に来て、信頼しなさい！ 彼に来て、彼を完全に信頼しなさい！ 今、彼を信頼しなさい！

II. 次に、彼はそむいた人たちとともに数えられた。

“それゆえ、わたしは、多くの人々を彼に分け与え、彼は強者たちを分捕り物としてわかちとる。彼が自分のいのちを死に明け渡し、そむいた人たちとともに数えられた・・・”（イザヤ書 53：12）。

キリストは、罪人の間に住まれました。 この世における御奉仕を通して、彼は罪人達と交わりをされました。 それは、パリサイ人のキリストに対する主な不平の一つでした。 あざけりながら、彼らはキリストをこう呼びました、

“取税人や罪人の仲間だ”（ルカの福音書 7：34）。

そして、彼は二人の犯罪者と共に十字架につけられ死なれました。

“そむいた人たちとともに数えられた・・・”
（イザヤ書 53：12）。

それが、彼は彼らと共に“数えられた”（*Strong*）ということなのです。 “彼がとがある者だったからではなく、強盗と共に磔にされるとき、そのように扱われたからである”（*Jamieson, Fausset and Brown*, volume 2, p. 733）。 マルコの福音書はこのように書いています、

“また彼らは、イエスとともにふたりの強盗を、ひとり
右に、ひとりは左に、十字架につけた。「こうして『こ
の人は罪人とともに数えられた』とある聖書が実現した
のである” (マルコの福音書 15 : 27-28)。

ヤング博士は、“これら二人は、単なる罪人ではなく、実際には犯罪者であった” (Edward J. Young, Ph.D., *The Book of Isaiah*, 1972, volume 3, p. 359)。彼らは、“犯罪人”であった。ギリシャ語の“anomos”は、罪の意識もなく、律法を物怖じともしない人を示しています (Vine 注解書)。その様に、キリストは最悪な罪人達と共に、数えられたのです！ アンナ・ウォーターマンの美しい賛美歌はこのように唱えています、

イエスは、最悪な者を救われたので、私のような惨めな者も救われた。
私は知っている、イエスの御血が最悪な罪人を清められることを。
私は知っている、イエスの御血が最悪な罪人を清められることを。
 (“Yes, I Know!” by Anna W. Waterman, 1920).

ルカの福音書は、その二人の強盗の内一人はイエスを信じ、救われたと語っています (ルカの福音書 23 : 39-43)。ジョン・ライス博士は、“一人の強盗は救われた、それは最も恥ずべき罪人が望みを失うことがないためである・・・” (John R. Rice, D.D., *The King of the Jews*, Sword of the Lord, 1980 reprint, p. 475)。マックギー博士は、このように述べています、

[これら二人の強盗の] 違いは何であったろうか？
違いなど何もない。両方とも強盗だったのである。
しかし、一人の強盗はイエス・キリストを信じ、
もう一人は信じなかった事である (J. Vernon McGee,
Th.D., *Thru the Bible*, Thomas Nelson, 1983, volume IV, p.
354)。

彼は“そむいた人たちとともに数えられた”。それはイエスが、最悪な罪人のためにでさえも、自ら身代わりとなられたことを示しています。罪人は救われることができます。なぜなら、キリストは彼らと共に数えられたからです。しかし、救われるためには、あなた方は彼を信じなければなりません。

キリストは今崇められています。なぜなら、彼は罪人の代わりとしてへりくだり、彼らの罪をご自分に負い、彼らが救われることを可能にされたからです。ですから、彼が、“とがある者と共に数えられた”故に、彼は崇められているのです。『Yes, I Know!』の合唱の部分を書いてください！

私は知っている、イエスの御血が最悪な罪人を清められることを。
私は知っている、イエスの御血が最悪な罪人を清められることを。
 (“Yes, I Know!” by Anna W. Waterman, 1920).

III. 三番目に、彼は多くの人の罪を負われた。

起立して、声を出して、“多くの人の罪”のところまで読んでください。

“それゆえ、わたしは、多くの人々を彼に分け与え、彼は強者たちを分捕り物としてわかちとる。彼が自分のいの

ちを死に明け渡し、そむいた人たちとともに数えられたからである。彼は多くの人の罪を負い・・・”

(イザヤ書 53 : 12)。

着席してください。

“多くの人の罪を負い”。 ペテロはこのように言っています、

“そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました・・・” (ペテロの手紙第一 2 : 24)。

これが身代わりによる救いなのです。 キリストは、あなた方の罪を、“ご自分の身に” 負い、十字架へ行かれました。 彼は、あなた方の罪をご自分の身に負うことによって、そして、あなた方に代わって死ぬことによって、あなた方の罪の報いを償われるのです。 イエスの身代わりの死を通じた償い無くしては、福音はありません。 彼の罪人に対する身代わりの死は、福音の心髄であり、本質なのです。 スポルジョンはこのように述べています、

さて、これら三つの事柄、すなわち、自分のいのちを死に明け渡し、罪人の罰を負い；そむいた人たちとともに数えられ、罪人の間に立たれ；そして、彼は実際に彼らの罪を負われた・・・それは、彼を汚さなかったが、人を汚す罪を取り除くことを彼に可能にさせた—これら三つの事柄は、我々の主イエスの栄光のよりどころとする理由である。これら三つの事柄と、もう一つのこのために、神は、多くの人々を彼に分け与え、彼は強者たちを分捕り物としてわかちとる・・・ (C. H. Spurgeon, *The Metropolitan Tabernacle Pulpit*, Pilgrim Publications, 1975 reprint, volume XXXV, page 93)。

『Yes, I Know!』の合唱の部分を歌いなさい！

私は知っている、イエスの御血が最悪な罪人を清められることを。
私は知っている、イエスの御血が最悪な罪人を清められることを。

IV. 最後に、彼はとがある者のためにとりなしをした。

このテキストは、次の言葉で終わっています、

“・・・そむいた人たちのためにとりなしをする”

(イザヤ書 53 : 12)。

十字架でキリストは、“そむいた人たちのためにとりなしをする” 為に、このように叫んで祈られました、

“父よ。彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです”

(ルカの福音書 23 : 34)。

ですから、キリストは十字架につけられた時に、罪人の為に祈られました。

そして今でも、罪人の為に天国で祈っておられるのです、

“キリストはいつも生きていて、彼ら [私達] のために、
とりなしをしておられるからです”
(へブル人への手紙 7 : 25)。

彼は十字架で死なれた時、罪人のためにとりなしをなさったのです。 今日彼は、天国で父なる神の右座で罪人のために祈り続けられておられます。

イエスが成されたそれら四つの成果が、父の右座で今彼が栄光の中で賞賛されている理由であることに注目してください。 そして、キリストの現在の栄光をなす四つのすべての理由が、キリストが罪人を救う為に成された事と関連しているのです！

“人としての性質をもって現れ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまで従われました。それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが、ひざをかがめ、すべての口が、「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです” (ピリピ人への手紙 2 : 8-11)。

しかし、イエスのすべての救いの力があっても、救われることを必要とすると感じない人々を、彼は救われない事に注目してください。 スポルジョンはこのように述べています、

もし、あなた方に罪がないならば、彼はあなた方を罪から清めることはできない。彼はできるだろうか・・・？あなた方は非常に正しく尊敬される人々であり、人生に於いていかなる間違ったこともしたことがないならば、イエスはあなた方にとって何の意味があろうか？もちろん、あなた方は自分の道を歩み、自分自身を世話するであろう・・・ああ！何と愚かなことか・・・もし、あなた方がそう自分を見るのであれば、あなた方のところは、今まで一度も掃除をしたことのない真っ黒な煙突のように汚いものである。あなた方のところは、汚れた井戸のようである。ああ、あなた方がこれに気づき、あなた方の誤った正義感を捨てることができればよいが！ [しかし] もしあなた方がそう気づかないならば、イエスはあなた方にとって何者でもない。彼はご自分の栄光を罪人から得られたのであるが、決してあなた方のような自尊心の強い人々からではない。しかし、あなた方が自らを罪ある者とみなし、自分の罪を懺悔するならば、あなた方は喜びを持って、イエスが罪人に対してなされたそれら四つの成果を思い浮かべるであろう。そして、彼が罪人に対してそれらを行ったがゆえに、彼は今日栄光と名誉と威厳をもって賞賛される・・・ [それゆえ] 私はここからあなた方に懇願する、人としてこの世に生まれ、御血を流され、そして罪深い人達のために死なれた、神の御子イエスを信頼しなさい！もし、あなた方が彼を信頼すれば、彼はあなた方を決して裏切らないであろう。むしろ、あなた方は救われるのである。一度救われ、永久に救われるのである (Spurgeon、同著、page 95)。

アアメン！ 『Yes, I Know!』をもう一度歌いなさい！

私は知っている、イエスの御血が最悪な罪人を清められることを。
 私は知っている、イエスの御血が最悪な罪人を清められることを。
 (“Yes, I Know!” by Anna W. Waterman, 1920).

もしイエスによってあなた方の罪が清められることについて私達と話したいのであれば、この集会場の後方に出て来て下さい。 カウンセリングできる静かな部屋へケイガン先生が案内します。 グリフィス氏が歌っている間に速やかに出て来て下さい。

私は知っている、イエスの御血が最悪な罪人を清められることを。
 私は知っている、イエスの御血が最悪な罪人を清められることを。

リーさん、招きに応じられたこれらの方達の為に祈ってください。

要 綱

キリストの栄光の源

(イザヤ書第 53 章からの説教、その 14)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

“それゆえ、わたしは、多くの人々を彼に分け与え、彼は強者たちを分捕り物としてわかちとる。彼が自分のいのちを死に明け渡し、そむいた人たちとともに数えられたからである。彼は多くの人々の罪を負い、そむいた人たちのためにとりなしをする” (イザヤ書 53 : 12、新改訳)。

- I. 最初に、彼は自分のいのちを死に明け渡された。
 イザヤ書 53 : 12 甲 ; ヨハネの福音書 19 : 30、10 : 17 ;
 ペテロの手紙第一 3 : 18 ; 詩篇 2 : 8 ;
 コロサイ人への手紙 2 : 15。
- II. 次に、彼はそむいた人たちとともに数えられた。
 イザヤ書 53 : 12 乙 ; ルカの福音書 7 : 34 ;
 マルコの福音書 15 : 27-28 ; ルカの福音書 23 : 39-43。
- III. 三番目に、彼は多くの人々の罪を負われた。
 イザヤ書 53 : 12 丙 ; ペテロの手紙第一 2 : 24。
- IV. 最後に、彼はとがある者のためにとりなしをした。
 イザヤ書 53 : 12 丁 ; ルカの福音書 23 : 34 ;
 ヘブル人への手紙 7 : 25 ; ピリピ人への手紙 2 : 8-11。

イエスへの素朴な信仰

(イザヤ書第 53 章からの説教、その 15)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

ロスアンゼルスのパプテストタバナクル教会にて
2013 年 7 月 21 日、主の日の朝の説教

SIMPLE FAITH IN JESUS (SERMON NUMBER 15 ON ISAIAH 53)

by Dr. R. L. Hymers, Jr.

A sermon preached at the Baptist Tabernacle of Los Angeles
Lord's Day Morning, July 21, 2013

“人が顔をそむけるほどさげすまれ”
(イザヤ書第 53 章 3 節、新改訳)。

“人が顔をそむけるほどさげすまれ”。現代のとある聖書解説者は、この聖句は、十字架につけられた救い主への、イスラエル民族の嫌悪、そして人間の姿をされた神の御子への尊重の欠けたことに関して告げた、と言っていました。彼は、その聖句をキリストの時代のユダヤ人達だけに限定しました。しかし、私はムーディが、“聖書は注釈に大いなる公明を与える”と言った言葉を好みます。いいえ、その聖句は単にイスラエル民族のキリストへの“嫌悪”を示しているだけではありません。その聖句の初めでそれは明白にされています。その節は、“彼はさげすまれ”と書いています。ユダヤ民族だけではなく、一般の“人々から”です！“人々からのけ者にされ”—ユダヤ民族からだけではありません。“聖書は注釈に大いなる公明を与える”のです。

ルターは、“聖書の例え”について語っています。この偉大は改革者は、私達は聖書の他の箇所における主題に関して、神が何と言っているかを突き止める為に、聖句と聖句を比べる、と言っているのです。イザヤ書第 49 章 7 節は、

“イスラエルを贖う、その聖なる方、主は、人にさげすまれている者、・・・に向かってこう仰せられる”
(イザヤ 49:7)。

ですから、ここでも私達は、イエスをさげすむ一般の“人”を見出します。イエスご自身がこのように言っています、

“もし世があなたがたを憎むなら、世はあなたがたよりもわたしを先に憎んだことを知っておきなさい”
(ヨハネ 15:18)。

この聖句の中で、この世の失われた人々はキリストを憎むか、もしくは、彼らはキリストを退けるか、そして彼について考えないか、と云う事を私達は見出します、

“人が顔をそむけるほどさげすまれ”（イザヤ 53:3）。

多くの面で人々はイエスから顔をそむけます。 それらの三つの面をここで挙げます。

I. 最初に、完全に軽蔑してキリストから顔をそむけている人達。

私はウォーンブランド牧師の著作、『キリストゆえの拷問 (*Tortured for Christ*)』を読んでいます。 私は毎年その本を読み通します。 ウォーンブランド牧師は、キリストを嫌悪する共産主義者達からの恐ろしい体験を語ります。 彼はこのように書いています、

拷問と残虐行為は途絶えなく引き続いた。 私が気を失い、または拷問者に告白を強制するにはあまりにも放心状態になりすぎる時、私は監房に戻る。 そこで、ほったらかせられ、疲れ切った私は、気を取り戻すために横になり、そうして彼らは再び私に拷問をかける。 多くの人達はこの状態で死ぬ。 . . . その翌年、幾つかの異なる牢獄で、彼らは私の四つの背推骨と他の幾つかの骨を折った。 彼らは私の体の多くの箇所を切り裂いた。 彼らは私の身体を焼き、十八カ所に穴を開けた . . .

私達は 17 時間座らされ - 何週間、何か月、何年もの間—このことを聞く、

共産主義は正しい！
共産主義は正しい！
共産主義は正しい！
キリスト教は愚かである！
キリスト教は愚かである！
キリスト教は愚かである！
諦めよ！
諦めよ！
諦めよ！

(Richard Wurmbrand, Th.D., *Tortured for Christ*, Living Sacrifice Books, 1998 edition, pp. 38, 39).

彼は誇張していませんでした。 私は彼をよく知っています。

共産主義者と他の社会主義者によるキリストへの嫌悪は膨大です。 今日のアメリカにおいても、イエスと彼の信者達に対する社会主義者達からの大規模な批判を、私達は目にします—ホワイトハウスから学校の教室まで。 現在の高官達は、完全に軽蔑してキリストから顔を背けています。 キリストと彼の信者達をけなす人達は、私達のテキストを確かに成就しているのです。

“人が顔をそむけるほどさげすまれ”（イザヤ 53:3）。

II. 二番めに、無関心な態度でキリストの顔を背けている人達。

今朝ここに出席しているあなた方の何人かについて、確かにそれは言い現しています！ キリシチャンを傷つけたり、“キリシチャンは愚かである”と叫ぶ事などは、全く考えてもいないでしょう。私が、共産主義者達がウォーンブランド牧師にしたことを話すとき、あなた方は怖がるでしょう。あなた方は、“私は決してそんなことはしない！”と言うでしょう。私はあなた方を信じます。私はあなた方が、野獣のような共産主義の拷問者のように、イエスを非難するとは全く思いません。且つ…！且つ…！あなた方はイエスに対して冷淡で無関心な態度によって、このテキストを成就しているのです。

“人が顔をそむけるほどさげすまれ”（イザヤ 53:3）。

あなた方はこの教会へ来てただ漠然と座っています。私がイエスについて語る時、あなた方の目はぼうっとしています。ある人達は目を閉じています。他の人達は心を閉ざしています。冷淡で無関心な態度で、あなた方はイエスから顔を背けているのです。

説教者でさえもそんなことが出来る事を知っていましたか？ 私がサンフランシスコ市の北方にある南部バプテスト協議会系の神学校にいた時、トム・フレデリックという学生がいました。彼は私の友人でした。トムは説教者でした。しかしある日曜日に、彼の説教が彼自身の心を突き刺しました！彼は激しく泣き始め、説教を続ける事が出来ませんでした。彼は説教壇から降り、その前にひざまずきました。そこで彼は、救い主への彼の愛が欠けている事を懺悔しました。この光景に驚いた会衆の前で、彼はイエスから顔を背ける事を改めました。彼は救い主と向かい合い、そこで真のキリシチャンになりました。彼はとても優しい人となりました。彼は、毎週木曜日の晩に、私と他の人達と一緒に、祈りのために私の寮の部屋にやってきました。また、聖書を非難していた教授達に対する私の抵抗を支援してくれました。私達はその神学校の学長の家の門前で学長と対面した際、彼も一緒に行きました。彼らが、“ハイマーズの狂信者”の一人と彼を呼んだにも関わらず、私を支持してくれました。彼は南部バプテスト協議会派の、救われていなかった説教者から真のキリシチャンへと変わりました。彼の回心は、彼がイエスに対して冷淡で無関心な態度を止めた時に起こったのです。

トムは数週間前に亡くなりました。私は彼の奥さんにお悔やみを差し上げました。それは1970年代にゴールデン・ゲイト・バプテスト神学校での、バトル・フォー・ザ・バイブルで私を支援してくれた事に対して、私が感謝を表す事の出来る些細な事でした。そうしてずいぶん前にトムが、日曜日の朝、自分の説教をしている間に救われた事に関し、彼の心をイエスに開いて下さった神に、私は感謝するのです。

ある人が、“ハイマーズ先生、あなたは私がトム・フレデリックの様になってほしいとは思わないでしょう”と言いました。神に願います！あなたが彼の半分になんてなってくれたら、私は天のみ使いの前で喜ぶでしょう！今ここに座っているあなた方若い人達の幾人かは、毎週毎週、考えることもなく、覚醒することもなく、全く変わりません—神があなた方をほんの少しでもトムのようになされたなら、と思います！

ではこのように考えて見て下さい—1971年もしくは72年に、あなた方がゴールドデン・ゲイト神学校にいたとしたらば？ もしあなた方が他の教会からそこに来ていたとしたら？ 今考えて見なさい？ あなたは私を支援したでしょうか？ それとも“冷淡に”振る舞い、その論争を避けるのでしょうか？ 考えてみなさい！

では、もしあなた方が自分に正直であるなら、あなた方の幾人かは、冷淡にそれから遠ざかる事を認めなければならないでしょう。 どうであろうとあなた方は、あなた方は、“ハイマーズの狂信者”の一人であるようにレッテルを張られることなく、その学校から学位を取り、そして卒業して行く事を望むでしょう。 そうではありませんか？ あなた方は突如として今向きを変え、キリストの為に熱意を持つ事は無いでしょう。 そうではありませんか？ 考えなさい！ 足を引きづりながら相談室へ行ったり来たりしているような人達は、そのようなリベラル主義の神学校で私の側に立つ事は無いと私は確信します。 確かにあなた方は、現在そうであるように、冷淡で無関心な態度を取ったでしょう！ このように言う人達に同意したでしょう、

“人が顔をそむける”（イザヤ 53:3）。

III. 最後に、無視する事でキリストから顔を背ける人達。

あなた方は長い間イエスから顔を背けていました。 イエスについてであろうと無かろうと、私が説教している事に耳を傾けません。 私が哲学について話すなら、あなた方は椅子にまっすくに座り直して注意を払って聞くでしょう。 もし私が政治について話すなら、あなた方は全ての私の言葉を聞こうと、身を乗り出すでしょう。 私が聖書の預言について話す時、あなた方は十分注意を払ってその説教を聞きました。 私が何週間か前に天国について少しばかり話した時、あなた方は関心を持って聞き入りました。 なぜなら、それはあなた方にとって新たな主題だったからです。 しかし私が福音に戻った時に、あなた方は退屈そうでした。 私がイエスについて話す時、あなた方は興味を失うのです。 そうではありませんか？

あなた方若者達は、大学で多くの時間をかけ勉強に精を出しています。 あなた方は良い成績を取れるよう、何時間も勉強します。 あなた方は朝早く起き勉強します。 そして夜遅くまで起きて勉強します。 私はあなた方がしている事に満足しています。 なぜなら、今学校で十分に勉強しなければ、あなた方の専門職で上手く成し遂げられないからです。 私はあなた方が一生懸命勉強している事を喜んでいますが、しかし、あなた方は聖書を学ぶ事に、もしくは、毎週日曜日に印刷して手渡しされるこれらの説教を学ぶ為に、一時間以上も遅くまで起きている事は決してありません。 あなた方は一時間早く起き、魂を救う為に死なれたキリストについて学ぼうとも決して考えません。 あなた方を愛し、天国であなた方の為に祈って下さるキリスト以上に、あなた方にとって、この世の全てのものが、もっと重要に思えるのです。

“人が顔をそむける”（イザヤ 53:3）。

私は、イエスから顔を背ける事を止めるようにあなた方をお願いしているのです。 あなた方が、イエスご自身に向く瞬間、彼はあなた方を救われるでしょう。 あなた方は恐らく救われたように“感じ”無いでしょう。 私が救わ

れた時、私は救われたように“感じ”ませんでした。私は、何か月か経つまで、自分が救われた事に気がつきませんでした。私が知っているのは、その日、イエスに向き合ったことです！ 私は以前にイエスに信頼を寄せていましたが、その日—私が言えることは—イエスがおられたことです！ それは非常に素朴な信仰でしたが、イエスに於いての信仰でした。非常に、簡単に素朴な信仰だったのです。しかし、それはイエスでした！

ウォーンブランド牧師は、彼が福音を説教したが為に牢獄に送られ、その際、共産主義者達にキリストの為に拷問にかけられた多くの人々を目にしました。彼はまた、イエスを信頼した多くの囚人と共産党員の警備員達を目にしました。ウォーンブランド牧師はこのように言いました、

人が信仰にたどり着くと—無骨な信仰であっても—その信仰は成熟し成長する。我々は、それが克服される事は確かである、なぜなら、我々はそれを地下組織の教会で何度も何度も目にしたからである。キリストは共産主義者達、そして他の“信仰の敵達”をも愛しておられる。彼はキリストに導かれる事が出来、そして導かれなければならないのである (Wurmbrand, 同著, p. 115)。

十字架上のイエスの脇で十字架につけられて死んだ強盗の一人は、この世を去る数分前に救われました。彼はほとんど何も知りませんでした。彼の信仰は、ウォーンブランドの言葉で言うなら、非常に“未熟”なものでした。しかし彼は、彼の心がイエスに向きを変えた瞬間に救われました。そして救い主は彼に、“まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます” (ルカ 23:43) と言われました。今朝ここに、少なくともその強盗がしたようにイエスを信頼する事が出来る人がいるのではないかと私は感じます。それは非常に単純な“未熟な”信仰かもしれませんが、あなた方がほんのわずかでも、証を自分自身に求めず、ただイエスを信頼するだけで、自己分析などせず、イエスを信頼するならば、イエスはあなた方を救われるでしょう。素直で、無力で、“未熟な”子供のようなイエスへの信仰—それがあなた方に必要なのです。自分自身を見つめてはなりません。どんなフィーリングさえも求めてはなりません。単にイエスを信頼するだけです。混乱してはいけません。自己判断してはいけません。それを分析をしてはいけません。ただ、イエスを信頼するだけです。後は全てイエスご自身が為して下さるのです。あなた方が眠っている時にも、このイエスへの信仰の種は育つでしょう。しかしあなた方は、イエスご自身を信頼しなければなりません—ほんのわずかでも、全く単純に、ためらいつつも、単に未熟でもです。あなた方はそれぐらいはイエスを信頼できるでしょう。あなた方がイエスに行く事は出来るでしょう、そしてそのことを保証するための自分自身のフィーリングなどを判断せずに、ただ信頼するだけです。イエスに任せなさい。そうしてあなた方が夜に寝ている時でも、その信仰の種は、ウォーンブランド牧師が語ったように、“成熟し成長する”のです。イエスへの、非常にか弱い、無骨な、揺らぐような信仰だけが、あなた方に必要なのです。グリフィス氏が歌った歌をもう一度聞いて下さい。それは、自分のフィーリングでなく、素直な、原始的な、イエスへの信仰について告げています。

我が魂しいは闇に、我が心は鋼のように
 私は、みることなく、感じることもない
 光と生きることに、
 我は素朴なイエスへの信仰をもつ（直訳）
 (“In Jesus” by James Procter, 1913).

もし私達と話がしたいのであれば、あなた方と一緒に祈ります。私達は、あなた方が真のクリスチャンになることを手助けしたいと思います。席を立て、集会場の後方へ今歩いて行ってください。ケイガン先生が、祈りのために静かな部屋へ案内します。私がその歌をもう一度歌っている間に行きなさい。

恐れが消え、望みが起こる多くのことを
 我は試みたが、無駄であった
 しかし、私が必要なことは、
 聖書にあるように、イエスだけである。

我が魂しいは闇に、我が心は鋼のように
 私は、みることなく、感じることもなく
 光と生きることに、
 我は素朴なイエスへの信仰をもつ（直訳）
 (“In Jesus” by James Procter, 1913).

チャン先生、招きに応えられた人達のために、祈りを捧げてください。

要 綱

イエスへの素朴な信仰

(イザヤ書第 53 章からの説教、その 15)

R. L. ハイマーズ Jr. 神学博士 著

“人が顔をそむけるほどさげすまれ”
 (イザヤ書第 53 章 3 節、新改訳)。

(イザヤ 49:7 ; ヨハネ 15:18)

- I. 最初に、完全に軽蔑してキリストから顔をそむけている人達。
イザヤ 53:3。
- II. 二番目に、無関心な態度でキリストの顔を背けている人達。
イザヤ 53:3。
- III. 最後に、無視する事でキリストから顔を背ける人達。
イザヤ 55:6 ; 53:3 ; ルカ 23:43。